

吾妻町の百八灯

名 称 百八灯

由来伝承 新盆をむかえる家で墓地から自分の家まで新盆をまつる行方がおこなわれる。その間に、百八灯をつけてその火で靈魂をむかえようとする習俗は、形のうえでの仏説の百八煩惱に基づくもので、全国各地にみられるが、吾妻町の場合は、送り盆の時おこなう。

八月十三日に仏壇とは別に盆棚（精霊棚）を造る。十一日頃山からとつてきた「ききょう、かるかや、おみなえし」などの盆花を岩竹にさして飾り、きゅうり、なすで作った馬、果物、ボタモチなどを供え、十四・



盆棚の飾りを焼く（天神）

の施しの献灯と

しているが、こ

れを百八灯とい

う。夕闇せまる

ころぶの飾り

を焼いた精霊送

りの火をロウソ

クに移して、た

ておいたロウ

ソクに次々にと

もしていく。昔

は子供たちは山

へ出掛け松のヒ

デをとつてきて

おく。当日所々

にヒテがあかあ



ロウソクに火がつけられる（天神）

赤岩の川施餓鬼

名 称 千代田の祭 川せがき

由来伝承 節盆行事の一つで、川に燈籠を流して精霊を送る。明治十年に赤岩の豆腐店「かぶと屋」の泰公人が利根川にあやまつて水死し、店の主人がこれを哀れ

み、同十五年に赤岩の光恩寺の住職に供養してもらつたのが始まりといわれる。おもに水難に遭つた人を供養する目的であるが、現在では町をあげての祭りとなつてゐる。

実施期日 八月十六日（水死した泰公人の寺の盆明けの日）といわれている。

実施場所 吾妻郡吾妻町大字矢倉 行沢
吾妻町大字吉下 天神
吾妻町大字吉下 姉山
吾妻町大字吉下 姉山
吾妻町大字吉下 漆貝戸



利根川に向かう住職たちの行列

実施内容 かつては赤岩宿の人々が行事を支えてきたが、昭和四十七年より千代田村と共に催となり「千代田村せがき納涼祭」と改称、更に町制施行後の平成六年から現時の名称となつた。

祭りの当日、午後六時半ころから、実施委員会と保存会の人たちと町内の寺の住職六名が千代田町の第一区公民館に集まる。保存会は第一区（赤岩の中宿と上宿地区）の人たち三名で構成される。第一区には三組の随班班があり、毎年一組が交替で行う。午後七時から保存会の役員と住職たちが行列をつくり、赤岩宿通りを通して利根川に向かう。かつては、光恩寺の住職だけだったが、平成六年から町内にある六つの寺の住職全員が祭りに参加している。

行列は、保存会の役員のうち道案内、名提灯（名錦杖（チャリソコ）二名、ミヨウハチ一名、太鼓一名）が並び、その後に住職たちが続く。住職の中から、その年の導師を選び、導師がお経を唱えながら、錆を鳴らす。導師の選び、導師がお経を唱えながら、錆を鳴らす。ミヨウハチを鳴らすことから、行列のことを「チン・ドン・シャン」ともいう。

利根川の堤防上に到着した住職たちは仮設の読經所に入り、午後七時四十分から、午後八時まで読經を行なう。その間、利根川では一般の船から先祖の靈船から先祖の靈を乗せた燈籠約五〇〇個が保存会の人たちによつて次々に流される。読經が終わると、住職たちは川べりに

り川に米を流す。これは餓鬼にご飯を与えるためという。これが終了すると、再び行列を組み、第一区公民館に戻って行事は終了する。



利根川堤防上の仮設の読経所

大島の火祭り

名 称 ヒヤクハーフトウ

由来伝承 奈良時代に大島を治め、朝廷に謀反の疑いで討たれた羊太夫の靈を弔うために始められたといふ伝承がある。

実施時期 每年八月十六日

実施場所 富岡市大島の城山の北面中腹

組織 大島火祭り保存会（大島地区各世帯によつて構成され、代表は区長が務めている。）

実施内容 十六日の夕方、大島地区の各世帯から一名ずつが城山の中腹に集まり、火文字を作る場所の草を払う。その場で協議して文字を決めて、繩を文字の形に張る。張った繩にあわせて、石油を浸した布を入れた金網製の容器を立て、一斉に点火して山を下りる。

点火に使つた

タイマツは、

火をつけたま

ま集落を持ってきて消す。

点火用具は以前は各戸から持ち寄った麦藁を竹の串に結わえたものだったが、燃焼時間が短かつたことから、昭和三十七年からは金属製の容器に変わり、さらには昭和四十七年からは金属製の容器になってしまった。

大島の百八燈は、盆の時期に行われる共同の行事であり、その年の平稳を祈願するものとなつてゐる。そして、その年に因んだことや願い」とから、毎年、作る火文字を選ぶことに特徴がある。平成十一年には、明るい年になるようにといふ願いを込めて「明」であった。なお、平成六年から十年は順に、雨・災・水・正・直であった。富岡市内では大島のほか、神農原、上丹生で盆時期に村行事として百八燈が行なわれているが、これらはいずれも文字ではない。

（洪澤克吉氏）



点火具を立てる

利根川に流される燈籠
者供養としての盆行事
事の一つであるが、
現在は千代田町の祭
りとして、この他に盛大な仕掛けの花火や民踊流し、
舞台では八木節なども行われる。また、赤岩宿通りや
利根川堤防には多くの露天商が出店し、町内にはと
より近在から約四万人の人で賑わい、対岸の埼玉県側
にも露天商が出て賑わう。

（岡屋信子）

利根川堤防は、盆の時期に行われる共同の行事で
あり、その年の平稳を祈願するものとなつてゐる。そ
れは餓鬼にご飯を与えるためという。こ
れが終了すると、再び行列を組み、第一区公民館に戻つて行
事は終了する。

利根川に米を流す。こ
れは餓鬼にご飯を与
えるためという。こ
れが終了すると、再
び行列を組み、第一
区公民館に戻つて行
事は終了する。

二〇 節供に行われる特色ある祭礼・行事

乙父のおひながゆ

名 称 おひながゆ。方言おひなぎや。

由来伝承 昔、神川上流からお姫様が流されてきたのを村人助け、いとしがれて（かわいそうに思つて）おか（粥）を煮てもてなした。また、都落ちしてきたお姫様を河原にシロを築いて住ませ、おか（粥）を煮て食べさせたとの両説がある。

八歳から中学生くらいまでの子供たちが河原にシロという石垣を丸く築き、薪でおか（粥）を煮て、シロの中でおかいを食べる。

実施期日 四月三日、地域のお節供の日

実施場所 多野郡上野村乙父の神谷川右岸の河原

組織 おひながゆ保存会、子供会育成会がある。

平成十年十二月一日、記録作成等の措置を講ずるべきものとして国に選択された。

内容 わが国では古くから春を待ち兼ねて野外に出でて、一同遊び、共同飲食をする習俗が、広く行われていた。今はほとんど見られないが、乙父のおひながいは、共同飲食をした春の野遊びと雑祭りが結び付いたものとみられる。

大正末から昭和初期のおひながいは、とても楽しみにしていた。子供たちはおひながいをしていました。

春休みになると、水汲みや、弟妹の子守、そのほかに



川原沿いのシロ

家の仕事を手伝つてから河原へとんでって、てんにん（めいめい）にシロを筑いてきたのを呼ぶつて石垣はビヤーテリガチ（奪つた者）が勝ちで取りつこになることある。石を抱きかかえたり、

でかいのは、転がり回りしてシロの回りに石を運び集める。石垣の高さ三三四

（せん）一石垣の内

径（けい）一石垣の内

（せん）一石垣の内

二 太鼓を祭具とする祭り・行事

中之条町の鳥追い

由来伝承 鳥追い祭り

この鳥追い祭りは昔は五穀豊饒祈願の予祝行事の「鳥追い」であったが、近年になつて「祭り」の二字を加えて呼ぶようになった。

この子祝行事は道祖神をまつて悪鬼、惡病、災難を排除し、作物を荒す害虫、害鳥獸を追いはらつて、五穀豊饒、厄よけを願う行事であったが、町が商業町化したので商売繁盛を加えるようになった。以前は町内の子どもが、松の内がすむと、正月の松かざりなどで道祖神の近くに小屋をつくり、餅などの食糧を持ちこんで何日も泊まりこみ十四日の朝を迎えるのである。

十四日朝四時、一番鳥の鳴く頃になると子どもたちは町内を「どうろくじんがもえだすぞ」と大声で叫びながらまわる。これで町の人は日をさしまし「蘭玉」などと用意する。五時、一番鳥の鳴く頃になるとまた同じことをする。町内の人々はこの声で道祖神の小屋へと向かい、「一同が集まる」と、小屋に火がつけられると「どん焼き」がはじまる。子供の「書きそめ」をもやし、もえかすが高くあがると字がじょうずになるなどと言い、持つてこられた木の枝にさした蘭玉を焼いて、と風邪をひかないとの言い伝えがあった。「どん焼き」が終わってそれを燃り、ひと休みして「鳥追い」をはじめたのだといふ。このよみがなならわしあつたが太平洋戦争中、戦争後、松かざりをしなくなり、からどんどん焼きから鳥追いへの行事はなくなり、からどんどん鳥追いへの行事となつた。

言い伝えによれば、この行事は慶長九年（一六〇四）にはじめられたといわれているがどのように行われたかわかつてない。文政八年（一八二五）から中之条町は、九代将軍家重の二男「清水太輔」（旗本）が領主となり善政を行つた名君であった。当農村は疲弊し、享保の頃二八五〇人だった人口も六〇〇人に減少し、それに加えて続々「ききん」で生活はおびやかされていた。清水卿はこれを深く心配して、人口増殖を計るため、種々の施策を施し、五穀豊饒を祈願し農民の心を鼓舞するため鳥追いを再興したと伝えられる。

当時の町の大庄屋、町田重兵衛は非常に太鼓好きな人で、町を上と下の二町にわけ競争で大きな太鼓をつららせたので年々大きくなつた太鼓になつたといわれる。鳥

追いの日には太鼓の音が「〇〇」も離れた大通町、幕坂町では前橋や三国町にまで聞こえたといわれるが、その頃は「バチ」の長さも一尺八寸の長いのを使つたためといわれ、毎年皮の張り替えをするので費用がかさみ、ついに明治三十年（一九〇七）から中断し大正七年（一九一八）まで行われなかつた。大正八年好景気の波のつて町の有志によつて再興された。「バチ」の長さも一尺八寸と規定され現在も守り続けられている。（太平洋戦争中六年間休んだ）。昭和五八年（一九八三）太鼓十一個が群馬県指定重要有形民俗文化財に指定された。太鼓の大きさ、作成年代などは次のようである。

一号太鼓の胴の内側の墨書き
常陸国真壁郡木本村、武藏屋庄蔵作之
御太鼓師 高橋久左衛門重政製之
西御太鼓用 御橋師太鼓師、大原屋三治郎張之
世話人 杉本角造、大森武平、剣持亀太郎
高野佐七、田村龍太郎、高橋国平

二号以下の墨書きは略す

中之条町の近村の鳥追いは子どもが主体で行うのが多いが、中之条町はむかしから成年男子が行うめぐらしいものである。最近になってショリーの色彩がこくなつてきているが伝統を残しつつ貴重なものである。

実施期日 一月十三日

実施場所 吾妻郡中之条町大字中之条町地内に、一部西中之条を含めている。



太鼓を打つ

組 織 氏子交代、祭長、祭典幹事（神事、みかんなど投げるときのおはらい等々）

実施期日 三月四日朝

実施場所 吾妻郡中之条町地内に、一部

西中之条を含めている。

など投げるときのおはらい等々）

実施期日

三月四日

実施場所 吾妻郡中之条町地内に、一部

など投げるときのおはらい等々）

実施期日

三月四日

実施場所 吾妻郡中之条町地内に、

三役落とし（厄年
の人の厄払い）

小雨は鳥追い終了
後、長夜（公民館）

出発する。太鼓をたたきながら、「鳥追いだ、鳥追いだ、ちんどいどいの、鳥追いだ」と、声をあげながら、西の家から廻り始める。家の前までもくると、親方は乗り込み、乗り込みと表戸を開け、家のなかに入り込む。獣子は座敷に上がり、家中で舞うようにして家のなかで待機している人の頭や具合の悪い所を噛むようなくさをして疫病神を払う。せんじ千儀、二つころがれがし万儀」といふ。まんだら(千儀万儀)は台所で「一とつころが



だるまやねこが玄関へ

田んぼで松飾りを焼く

行進し、ムラ一番声をあげながら、行進し、ムラ一番声をあげながら、西の家から廻り始める。家の前までもくると、親方は乗り込み、乗り込みと表戸を開け、家のなかに入り込む。獣子は座敷に上がり、家中で舞うようにして家のなかで待機している人の頭や具合の悪い所を噛むようなくさをして疫病神を払う。せんじ千儀、二つころがれがし万儀」といふ。まんだら(千儀万儀)は台所で「一とつころが

干の祝儀を包んだり

お菓子やみかんを係

の人へ渡してくれ

と呼ばぶ。これで行

事は終了するわけ

だが、真暗闇の中

で小石を投げあつ

てけんかをしてく

るのが決まりとな

った。数年間中断

のあと、戦後昭和

二十三年に復活し

たが、昭和三十四

年に馬場地区で

かなり時間がかか

る。

「シイフ、シイフ」と鳥を追うまねをする。この「シイフ」は途中と最後と三回対の方を向いて、その度に太鼓を乱打する。ムラのあとは、礎部温泉の街の方まで廻るのだから時間がかかる。

最近は子供の人気も少なくなつて方法も變ってきている。この祝儀は、昔からのしきたりで、親方(年長者)が多くもらい、下級者は少ない。

馬場・水口の鳥追いも、新寺と似ている子供組の水口(隣接地)の鳥追いも、同じ安中市内下礎部の馬場と同じ事で、もともと大太鼓と打ち手が乗り、掲棒を持つ者、引き綱を引く組がいて、今日はどこの鳥追いも一度ころがれがし万儀と大太鼓を振る。この鳥追いだ。頭切つて祝福する。回り終ると水口との境界通りへ行って

なで大声で叫ぶと、待っていた水口組が「受け取った」と叫ぶ。これで行はれた。最初の家が反対の方を向いて、その度に太鼓を乱打する。ムラのあとは、礎部温泉の街の方まで廻るのだから時間がかかる。

二十三年に復活したが、昭和六十年に子孫も会議によつて活動。発電器で提灯と万灯花をつけた山車を出すよくなつた。

鶴宮(日本)の鳥追い 一月十四日の夕方、夕食が済むと、咲前神社に一戸一人ずつの大人と子供が、朝道祖神のどんどん焼きの時に上げておいた旗(道祖神まつり)と書いたものを簪につるしたものを持って集まる。参集した所で(祭り)提灯を持った年番(コグチ)という者が先導して神社に参拝し、太鼓を鳴らしながら時計回りで辯天を一周りし、鳥居をくぐつて道路に出で、太鼓に合わせて、「鳥追いだ、鳥追いだ、アリヤ」とこの鳥追いだ、地頭どんの鳥追いだ、頭切つて、尻切つて、佐渡が島へホーイホーイ「道祖神の馬鹿一枚紙を惜しがつて、コンブでケツ(尻)ぬぐつたワーワーイ」などと鳥追いの歌を歌ひながら村中を行進する。この行列が村の中を通り、南北の村境まで来る



獣子が頭をかじるしぐさ

家人のうしろへ



千儀、万儀がころがす

(参照「安中市史」第三卷民俗編、平成十年) [資料提供]

(森田秀策)

原市の鳥追い祭り

名 称 トリオイマツリ

由 来 伝承 創始年代は明らかではないが、嘉永六(一八五三)年の記録があることから、江戸時代後期には

八五三年の年に行われていたことがわかる。農作物の害鳥を追

すでに行っていたことがわかる。農作物の害鳥を追

い払い、五穀豊穣を祈願する行事である。

実施期日 昭和三十八年以前は一月十四日・十五日だ

は隔年で、以後中断した。昭和五十二年に復活してから

は毎年一月十五日に行うことになった。

は毎年一月十五日に行うことになった。昭和十二年

は投日の改正により、一月十六日の日曜日に行われた。

実施場所 安中市原市の中中山道

組 織 原市 区(下町)、一区(中町)、三区甲

(上町)、三区乙(末広町)が行っている。

実施内容 下町・中町・上町・末広町の四地区が、一

台ずつ屋台を引き出し、お囃子を奏でながら原市の旧

中山道を練り歩く。屋台は薄

い色紙で作ったハナや、張り子の達磨や猫、

「商先繁盛」「五穀豊穣」などと書かれた短冊で華やかに飾られる。養蚕が盛ん

であつたころは、縁起物として養蚕用具のザルやフリイが飾

られ、祭りの終わりにこれらを投げたという。

祭りの当日ご祝



鳥追い祭の屋台

儀を賣うと、縁起物を付けたハナを返す。現在ではこれを予め各地区ごとに準備しておくが、もとは屋台に飾つてあったハナを折つて渡したものだといふ。末広町では地区で祀る網笠神社の祭礼と同時におこなつていて、返礼のハナに網笠神社のお札が付けられたことから、近在の養蚕家に寄附されていた。(網笠神社の祭礼は昭和三十八年以来中断していたが、平成十一年は行はれた)近年ではハナ返しの縁起物は各地区とも養蚕具ではなく、台所用品や日用品になつてゐる。

お囃子は大太鼓・緒太鼓・鉦・笛で、屋台の動きに合わせて変わる。お囃子が変わるときの音頭は大太鼓が行う。平らな道を行くときにはサンチコ、下り坂ではピットトヤ、上り坂ではヤタイバヤシ、屋台を回転させるときにはヤタイマワシなどである。これらのお囃子は鬼石から伝わったといふ。

(涉澤克枝)

二二 若衆・子供による祭り・行事

倉淵村のどんどん焼き

名 称 どんどん焼き

道祖神焼きのことと、一般的にはどんどん焼きとか由来伝承年の初めに無病息災、室内安全を願つてどんどん焼きを始めたといわれている。どんどん焼きのどんどんは、ドントドントドントという囁子言葉からきていると言つたり、火がどんどん燃える様からきていると言つたりする。

実施期日 本来倉淵村の多くの地区は、一月十四日の早朝に実施していた。ただ倉淵村北部の川浦地区などは、一月十四日の夕方に実施している。これは今も昔も変わらない。しかし十四日の早朝行うと、その日の授業に差し障りがあるので、休日の成人の日にするようになつた。成人の日は、平成十二年より十五日から変更になつたため、どんどん焼きを行う日も変わつた。

実施場所 倉淵村全域のうち小屋を作つたのが六一地区であつた。

平成十一年にどんどん焼きを行つたのは六九地区、十一年は、どんどん焼きを行つた地区的数は変わらないが、小屋を作る地区が一地区増え六二地区であつた。
組織は男の子だけ作り、どんどん焼きをやつていた。中学一二三年生くらいの男の子が親方になり、下級生を指導しならやつていた。子供の人数が減つてきため、子供たちだけでは小屋を作つことができない。どんどん焼きができなくなつてしまふ。また小学校の中学生の児童が親方をやるような地域も出でてきた。そこで子供たちを支える形で大人が加わるようになり、各地で復活した。村ではどんどん焼きが子供育成に必要と考え、教育委員会が中心となり、どんどん焼きを行いうように呼びかけた。平成十一年には小・中学生がいなくとも、大人が小屋を作り、どんどん焼きを実施し

た地区もあつた。

実施概要 倉淵村三ノ倉下宿のどんどん焼きの内容を主に報告し、他地区的どんどん焼きは異なる点を中心と報告する。

どんどん焼きの準備は、学校が冬休みに入るとすぐ枯れ杉葉をめから始まる。子供たちは山には焼きの背負い籠いっぱいに杉の葉をつめ、どんどん焼きの小屋場まで運んでくる。子供たちは他の地区的小屋よりも大きなものを作ろうとして、たくさんの葉を自由勝手集めてきた。子供たちは杉の木に上つて枝を自由勝手に伐るので、暮れになると大人が必要ない枝を伐つておく。杉葉集めが終わると竹や藁を集めた。

竹は、太さ直徑一〇一五cmくらい、長さ七七cmくらいのもので、八一二本くらい使つた。これも大人に伐つてもらい、運ぶのは子供たちがした。竹は先の方の枝を少し残して下の方の枝を切つた。

戦前は子供たちだけで小屋を建てたので、材料が集まるところに小屋作りに取りかかつた。暮れからやつても然ず前日くらいまでかかつた。今は地区中の大人が集まつて作る。時間は慣れた大人が正月の二時間くらいでできてる。集まる日は、正月一日の仕事始めであったが、最近は日曜日になつた。

小屋の位置は、本来三本辻に立てると言うが、下宿では家に近づいて火事になる恐れがあるので、川に近い田圃に立てた。

まず竹を束ねて、先の方を縄で何重にも縛る。途中に竹を引つ張るための縄も巻き込んで縛る。縄り終えたら小屋を作る田圃に半径一五m位の円を描き、竹の根元が円の中心にくるように運び入れる。縄を引つ張る者、竹を押さえ込む者などに分かれ、縄を四方から引つ張りながら竹の束を立てる。立てたら束の竹を少しづつ開き、開いた竹を内側に打ちつけたおいた杭に縛り付け、竹の柱ができる。

次に竹に割り、柱の竹に帶状に巻き付けた、胴緒と呼ばれるものを作る。この胴緒で、藁・ススキの枯れ草・杉葉が落ちないように止める。胴緒と胴緒の間隔は、松篠りの松の長さを考えて五〇一六〇cmで

ある。なお一番地面に近い胴緒だけは、入口の部分には竹を卷かずにしておく。

最後に胴緒と胴緒の間に、外から青い杉葉をさし、内側は枯れ杉葉をつめる。さらに七草にはずした正月の松飾り・だるまなどを杉葉のところに刺したりして小屋を完成させる。この松や竹は、子供たちは地区内の各家庭を一軒一軒回り集めてくる。

小屋の近くに小さな小屋を作る。これをダマガシ小屋と呼んだ。どんどん焼きの当日は、まずダマガシ小屋から先に燃やし、人が大勢集まつたときに大きい小屋を燃やす。完成すると昔は子供たちが、他の地域の子供に小屋



倉淵村のどんどん焼き分布図

を壊されないように見張るため、そこで寝泊まりした。このとき小屋に薪を運んで、薪を焼いたり、薪をこなして食べたりして食った。今は危ないで、村では小屋で寝泊まりも火も使わせないよう呼びかけている。

オボシメシのお返しは、夕方後四～五時にわかれ、
寄付のことが、あつて、下看では、月四千円頃に回った。オ
ボシメシは、松飾りを集めてくるときにもらうこととも
あった。オボシメシで回るとき、松飾りをしない喪中
の家には行かない。オボシメシで集めたお金で、どん
どん焼きの時に食べる菓子やお返しの品物などを買つ
た。

半紙に書いた「福の神 下宿」の札にお返しの品物を添えて配つた。この品は、みかんやマッチ、最近ではティッシュなどが使われた。配るときに、これらを持

つて子供たちは各家の前に立ち、太鼓の「ドンドンドン」と合図に「門を開け」、「福の神を迎えなさい」と唱え、玄関に馬と品物を置くと、福の神が逃げないよう木に馬と品物を置くと、福の神が逃げないよう木に戸を開めた。オボシメシの額に応じて、品物の数を変えたりするが、これは親方の裁量で決める。配られたものは神棚の上に上げておく。
お返しが済んでから、オゴリをやる。オゴリとは、

親方の家を宿にして五目ご飯を会食することである。地域によってはオグリを小屋ですることもあった。その後、小学生と中学生は、十時くらいまで太鼓をたたいて城内を回った。昔は十二時近くまで太鼓をたたいていた。

あつまつて來て太鼓をなない早朝に、子供たちは再び宿に
戻った。一番太鼓は、午前四時に始まり、「道祖神が
燃えますよ、早く起きねえよ、みんな燃える」と囁きな
がら地蔵本殿を一回りする。「一番太鼓は、五時で囃し

に火がついた、早くこないと、みな燃え、藪玉焼きに、お出しなさい」と太鼓をたたきながら煽して回る。昭和四〇年の太鼓会園に人が小屋場に集まつてくる。十年くらいまでは、一番太鼓は二時、一番太鼓は四時にならなかった。

どうい。この刀を山に行くときに持つていくと、蛇などがそのにおいを嫌って出てこないとい。正月に小豆粥を作り、これを家の周りにまくときには、ヤツトウを差して回る。

このとき各家から膳所、餅、書き初め、女子の落ち毛、キボウなどを持ってきて燃やす。書き初めは長い竹の棒にさして高くかかげながら焼き、遠くへ舞つていくほど、腕に落ちる毛といつた。女子の落ち毛は、髪を整えたときに落ちる毛で、年分紙の袋に入れておおく。これを紙の袋に入れたまま燃す。煙にまかせて燃え切るゝ頭が病ならないといふ。

入山引沼のオンベー

名 称 オンベーヤ (どんとん焼き)

とんどん焼きの別称である。吾妻郡

れでいるのは、正月がさりの松で田舎の
のであるが、入山、特に用賀では「ア

つて門松を立てない家が多く、松かざ

モミの技を主に使うのである。〔オン・バ

語源はわからない。

由来伝承 このオンベーヤは「道陸社

つりである。

道ろく神という人は「一枚紙を惜し

をぬぐつた」と語ってはやしたてた。

道ろく神は貧乏で結婚したが借金が返せば、重い

家を燃やして、借金を返せない言いわれのため道らく神は、自分の家を建て

そのため道のりは自分の家を建て

新編一月本末

实施期日
一月一五日

朝九時には村中（集落）毎戸一人が出て、夜八

九時頃まで（オンベーヤが終わるまで）。

実施場所 吾妻郡六合村引沼集落のうちの適宜の

を、お頭と区長が相談して決定する。今年は、めずらしく雪が全く無かったので、火の粉がとんで野火や家屋が心配なので、広い場所を選び危険のないような場所で行つた。

組織 この行事は大字入沢の八集落の中の引沼集落で行われるもので、引沼に小集落が清水（六戸）打越（三戸）中組（八戸）新屋（二戸）及子（五戸）打出（五戸）の六ヶ所があり、この集落から小頭と呼ぶ世話を人が出る。小頭の互選で「お頭」が決まる。今年のお頭は、山本、機、小頭、山本嘉光、山本茂、山本宗晴、山本谷五郎、関ユキ江、山本良昭の六人、七福音は若衆から選ばれた七人、この外、「祭事奉行委員会」が参考する。

実施内容

オンベヤ作り、朝九時、引沼四八戸の毎戸一人づつ出て、「モミ」の木の枝を取るために思いの出所へ出かけ、小型トラックなどで運んでくる。お頭と区長が相談して建てる場所が決まると、モミの木の枝（この日だけはどこ）の木の枝を取つても何も言わないボヤ（枯木の枝を束ねたもの）、エグサ、モミガラ、センクズ（メンバ、シャモジを作る時のくず）豆ガラ、ダルマ、正月かざりなどを集められる。オンベヤは、親オンベと子オンベの二つがつくられる。親オンベは高さ一〇一五ぐらゐ、子オンベは高さ五五ぐらゐである（今年は雪が全くないので、親オンベは高さ七七）。子オンベ高さ親オンベの半分ぐらゐに作られた。

烟（冬なので何も作付けされていないが選ばれると持主は無条件で承諾する）が決まると、まず、心棒を立てる。穴を掘り、四人がその縄のはしを持ち、オンベの上に人が乗り、四人が右左わりにまわり、上の二人が、ゆるまないよう、約二〇一三〇の間隔で満身の力でしばりつける。この縄は火をつけた時「せいの神」を取りにのぼるために足場となるものである。（子オンベ）は大きさが半分ぐらゐで作り方は親オンベと同じ要領。

七福神まわり（昔はオンベーヤが終わつてから）から村中毎戸をまわるようにならざんとする。その上にモミの枝のモトで心棒につけ枝の先が下をむくよう重ねてつけて全体が凸状になるように作る。

全体の形ができると、頂上にわら縄の長いものを四



子オンベ



親オンベ



七福神まわり

めでたい、めでたいな、福の神が舞いこんだ、家内安全めでたいな、無病息災めでたいな、五穀豊穣めでたいな、めでたい、めでたい、めでたいな、また「めでたいや、めでたい、めでたい」、あきの方より、大黒様の福俵だんなばらく土足ばくめん、だんなさまの前にひところがしがころがし、奥様の前にひところがしが、ひところがしがしがさてこの俵どこに納めましょうか、東の倉に積みますようか、東の倉にはお金がどつさり、西の倉に積みますようか、西の倉にはお金がどつさり、一俵残りしは、来年まで穗まち俵としてお預かりいた

「このような口

上を述べて「お

祝い」の金をも

お頭に預け、春

まつりの福引き

などの費用を使

う。

夕刻、鍼と太鼓の音が鳴ると村中のたちは、三三

五五オンベーヤの所へ集まる。お頭を先頭にして「た

いまつ」を持った役員が集落所からオンベーヤに向かい、

集まつた人々に迎えられる。まず子オンベに点火され、

しばらくすると、親オンベに点火される。親オンベの

火の大きめに強くなつたころ若者が親オンベの燃

えかかる上にのぼつて歓声をあげる。（昔は、オンベの

頂上にある「七イノ神」のとりこをし、良縁を望ん

だという）。また、親オンベが燃えさかる頃、厄年の人



燃える親オンベ

燈籠番は昔から箱石で生活していた家人の人で、その各班から選出された五名が当番となる。

地蔵かつぎの本尊の地蔵菩薩は、養命寺境内の北向

の地蔵堂に安置される。石製のお地蔵様で黒

墨で目、鼻、口を描き頭に真っ赤な頭巾をの

せ、真っ赤な前掛をかけた姿である。

お地蔵様を取納するものと長持

持様と、長い持様は片開きで

お地蔵様の全身を拝めるようになつて

いる。下段は引き出しになつていて中の

半分程は思召しのお金を入れる

賽銭箱になつて

いる。隣の半分は

縁側の前に置かれて、ろうそくが入れられ、お地蔵様の前には賽銭箱が供え

持様の上部には、長

金具が取り付けられ金具に角棒

を通し前後二人で担ぐようになつて

いる。七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

る。

がみかんを投げたりお金を受けたりして危ない（危機）をする。この頃オーバーベーの火は最高潮となる。昔は、オーバーベーの火が下火になると、心棒を倒し引っぱり出す。その時手についた炭をあたりかまわず、またその人の顔にぬりつけたという今は見られない。鐵で輪切りにして配った。もらった家では神棚に供え、飲んだというが、「いろいろ」のない生活中になつたのでこの行事もなくなつた。

（奈良香重）

箱石の地蔵かつぎ

地蔵かつぎ

由来伝承

玉村町箱石地区内の地蔵かつぎは明治時代から行われていたといふ。安産と子供の成長を祈願す

る祭りである。

七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

七月十三日の年一回行われている。

る。

実施場所

養命寺

檀家燈籠番と箱石の子供

実施内容

二月二十三日と七月二十三日の午後、燈籠番五名と箱石地区の小学校三年生以上の男子が集合す

る。

実施場所

佐波郡玉村町箱石

養命寺境内

組織

養命寺檀家燈籠番と箱石の子供

実施内容

二月二十三日と七月二十三日の午後、燈籠番五名と箱石地区の小学校三年生以上の男子が集合す

る。

実施場所

佐波郡玉村町箱石

養命寺境内

組織



地蔵堂を車にのせて引く

が縁日で一月ずつさせて祭る。

実施場所 藤岡市藤岡芦田町 地蔵堂（公会堂兼）及び芦田町内

組 織 区長一、区長代理一、部長四、区役員一〇

青年会員二〇、光徳寺住職一、芦田町内は旧芦田城跡の南一帯に広がり約八六〇戸が六九班に分かれる。町内の行事として地蔵祭りを行う。

実施内容

祭り当日

午前九時より役員が地蔵堂に集まり祭場作り・念仏作業して参拝者を受け付ける。

幼稚園児・保育園児も団体で参拝に来る外、念仏講も催され光徳寺住職の説教があり、三々五々訪れる参拝者が毎時半ごろ青年会員が来て地蔵尊の出歩く準備を整える。以前は石地蔵立像（高さ八四・四・重さ約一五

夕方五時半ごろ青年会員が来て地蔵尊の出歩く準備を整える。以前は石地蔵立像（高さ八四・四・重さ約一五貫）を丈夫な棒に固定し一本棒を渡して四人で担いで運ぶ。現在は車（リヤカー）に後ろ向きに載せて引き回す。夕方六時ごろ出発するが、地蔵様の町内巡回コースは地図ができるまで五ヵ所で止まりて参拝を受けられるよう予定時刻三時間かけて夜九時ごろまで引き回される。

地蔵尊の縁日に本尊の石地蔵立像を車に乗せ町内を巡らせる行幸。株式会社から高崎南部にかけて盛んな地蔵盆行事の南限の形と見られる。

由来伝承 戦国時代末の天正十八年に藤岡領主となつた若田康真が信州芦田から藤岡に移住した際に光徳寺と共に移したという石地蔵が城内の芦田町の地蔵堂に祭られる。

実施期日 九月二十四日 地蔵盆の一月延れ。市街地北部の宮本町地蔵堂にも同じ由来伝承の地蔵尊が祭られ地蔵盆の八月二十四日地蔵盆が町内を回り、人々が拝む

でて休み健康を祈る。夜遅くまで巡回して堂に帰ると、待ち受けた役員たちと若衆との慰労会が催され町内の交流と懇親が深められる。

（関口正巳）

名 称 出歩き地蔵
あし
芦田町の出歩き地蔵

地蔵尊の縁日に本尊の石地蔵立像を車に乗せ町内を巡らせる行幸。株式会社から高崎南部にかけて盛んな地蔵盆行事の南限の形と見られる。

由来伝承 戦国時代末の天正十八年に藤岡領主となつた若田康真が信州芦田から藤岡に移住した際に光徳寺と共に移したという石地蔵が城内の芦田町の地蔵堂に祭られる。

実施期日 九月二十四日 地蔵盆の一月延れ。市街地北部の宮本町地蔵堂にも同じ由来伝承の地蔵尊が祭られ地蔵盆の八月二十四日地蔵盆が町内を回り、人々が拝む

金をあげ身体をな

まつ

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

長手金山浅間神社の初山

名 称 初山（付・岩瀬川浅間神社初山）
由来伝承 長手は、十二世紀後半の古文書にその名が
出ているほどの古い地域である。ここに金山浅間神社
が祀られている。同社は、長手の鎮守様で、親に連れられ
てお参りに来た。この神社の神印をひ

出しているほど古い地域である。ここに金山浅間神社
が祀られている。同社は、長手の鎮守様で、親に連れられ
てお参りに来た。この神社の神印をひ

まれた子供である。以前は、母親の里でつくつくれ
た初山きもを着て、親に連れられお参りに来た。この
神社の神印をひ

たいてか着物の帯に押してもらう。こうすることによ
つてその子供の無事成長が叶えられるという信仰にも
とづく。

長手の浅間様へのお参りは朝からはじまる。そ
のため、長手の浅間様の初山参りは「朝浅間」といわ
れている。かつては、長手の浅間様のお参りに行つて
その足で、同市の岩瀬川の浅間様へまわって同じ初山
参りをした。

なお、浅間様の本殿は浅間山の頂上に祀られ、拜殿
はその麓にある。

神印を押す（太田市教委提供）



下津のお富士参り

名 称 お富士参り

由来伝承 この行事の由来伝承は不明である。現在八
十歳台の人達も七歳のときにお富士参りをしたとい
う

が、文献資料を欠くのではつきりしたことはわからな
い。下津の竹改戸の中に富士山があり、竹改戸の中の
小地名に富士山があるので、古くからお富士参りを暗
示していると考えられる。

おおむね

の行事は、利根・沼田（特に沼田市近辺）において行
われてきた行事とされる。現在では、下津の
浅間神社にお参りする人は、「三人である」とい
う。月十五日になると、最近では、七五三の行事と同
じく、十一月十五日に行われるようになった。

（井田安雄）

富士浅間神社里宮（下津）



実施内容 十一月十五日に、七歳の子供に新しく作
てくれた着物を着せて、家人が浅間様にお参りに連れ
て行った。

て

いた。このとき、竹筒二本に甘酒を入れて、水引で結わ
えて浅間様へ上げた。今では、お参りの人も少ない。浅間
神社の里宮の近くの参詣の人に、「富士浅間神社
神麗」というお札を渡している。

なお、このお札の親戚の人がお祝いを持ってきてくれた。近所や親戚の家へは、甘酒を配つた。また、呼ばれてきた人には、お酒や赤飯を振舞つた。お祝いをくれた人には、お返しに团扇

（沼田で貰った）

に本人の名前を書いて配つた。子供の無事成長を祈つての行事であるという。今は、七五三の祝いに変わって、お参りの人も「くわづか」という。

（井田安雄）

由来の行事が行われてゐる。この初山の行事の由来は不明であるが、天正十七年六月一日付「北條家朱印状」（島根県松井文書）に、長手郷に明であるが、天正十七年六月一日付「北條家朱印状」（島根県松井文書）に、長手郷に

おける「富士參詣者」に対する「押賣猶藉」を停止する旨の禁制が記されている。この文面が、北条氏直から長手郷領主桜井肥前守に対して出された所領經營の指示であると考えられる。この「富士參詣者」は長手の富士浅間社への参詣者とみることができる。（太田市史）通史編・中世参照）このことから、長手の浅間神社は中世にまで遡ることができる。しかし、このことと、初山の行事との直接の結びつきについては、不明である。

いずれにしても、初山信仰の下地は古くからあったことが考えられるといえよう。

実施期日 七月二十四日
実施場所 太田市長手町 金山浅間神社
組織 金山浅間神社氏子会

國學

下増田の天道念佛

下増田町は、須永・阿久津・奥原・中屋敷の四つの組に分れており、かつてはそれぞれの組で天道念仏を行っていたが、現在は須永・阿久津の両組でのみ行なっている。

①須永組

由来伝承　いつ頃から行われたかは不明。古い資料は

昭和二十一年の水害で失われた。

う。
実施期日　かつては春（彼岸の中日）、秋（十月十日）の年二回行っていた。秋も彼岸の日中日にした時期もあるったが、養蚕が盛んだった頃、鉢を叩くと蚕が騒ぐといつて嫌つたため十月になつたという。昭和五十一（一九七六年）頃より、春のみの年一回に変つた。

当番の家の行つた頃は、日の出から日の入りまでで、准備をしても早朝から始めて一～二時間程度で切り上げるようになった。

組織 須水組の役員である組長・協議員各一名と班長十名で準備をして、全戸に連絡する。以前はほとんどの会場があつたが、現在は年寄りが中心で七、八名が集まるのみである。
全戸をあげての行事のため、以前は全戸でクジをひき、当番の順番を決め、一回交代で行った。昭和三十四年に六七ヶ日でクジをひいたが、これが最後のクジとなり、昭和四十五年からは会場も準備も当番の家で行われて、昭和四十六年以降会場が会議所や公民館に変つてからはずつと続いている。

準備だけが当番の仕事になり、そして平成四年からは準備まで当番に替わる役員がするようになった。当番がなくなつてからは、組内も簡易板で済ますようになつたが、それまでは当番が全員に連状を回した。念仏の日の一ヶ月程前に回し始める。組内をまん中で西と東に分け、それぞれに一本ずつ連状を渡して各家はそれを見ると、自分の家の名前に印をつけて次へ回すのである。

当日は準備が大変なので、当番の家の隣保班が手伝いをしたものだった。

実施内容 組内の竹藪から長さ二三寸位の竹を四本切り出す。会場の四角に竹を立て、この縄をふた回り巡らし、縄には四方に四本ずつ幣束を下げる。

供え物は、線香・赤飯・酒一升・煮物・漬け物・果物などである。もとは当番が一番モチを揚いで供え、行事の終わりに細かく切り分けて配つたものだった。これを食べるると病気にならないといった。そのモチの名残で現在は菓子を配つてい

る。

毎戸に配るお札用と、八丁シメの竹に縛るお札用との二つの版本があり、当日墨で刷つて用意する。

念仏の唱え言は「ナムアミダブツ」で、三遍ゲエシ（かえし）といつて三度唱えたら三度絆を叩き、これを繰り返す。現在は念仏をテープで

流し、それに合わせて鉢太鼓を叩くのみである。線香を一本立てて始め、燃えてから緑側に祭壇をつくり外に向かって念仏を唱えたが、現在は会場の中で行っている。

②阿久津組

名 称 天道念仏

実施期日 年一回、春の彼岸の中日に行う。現存する會明通等記載によれば、かつては年一回行われていた。明治三十九年代から昭和八年までには彼岸中日近辺に決まっていなかったようだが、それ以前は、三月下旬から四月十日前後までの日付の記載がみられる。また一度めについては、明治三十二年から四十二年までは七月十二日から二十九日までの間のいずれかの日に行われている。明治四十年からは九月もしくは十月に行うようになり、そして昭和十四年を最後に、春のみの年一回に変わっている。





須永組の八丁堀

その縄で竹にお札を説き付ける。この竹を須永組の入門式に立てる。ムラ(組)の中に悪い人が入つてくるのを防ぐためにするもので、これを八丁ジメと呼んでいる。

参加者は、漬け物や菓子などを食べながら供え物の酒を飲み、おわりにお札と菓子をもらって帰る。

名 称 天道念佛
実施期日 年一回、
會所連名帳によれど

春の彼岸の中日に行う。現存する
は、かつては年二回行わされていた。

明治三十年代から春はほぼ彼岸中日近辺に決まつてゐたようだが、それ以前は、三月下旬から四月十日前後まで、の日付の記載がみられる。また二度めについては、明治三十二年から四十二年までの間で、七月十二日から二十九日までの間にいずれかの日に行われてゐる。明治四年からは九月もしくは十月に行うようになり、そして昭和十四年を最後に、春のみの年一回に変わつて

る。

実施場所 前橋市下増田町阿久津

もとは当番の家で

行っていたが、現在は阿久津研修センターで行う。

組 総組長と、班長の中から互選で決まった一名

とが中心となる

つて段取りをして、細かい世

話を当番がし

てている。

当番は毎年

一軒交代でな

く、天道念仏

の他、組内の

祭りや下増田

町全体の祭り

などの世話を

している。天

道念仏に関する

書き物が入

った箱(チヨ)

ウ箱)と大日如来の掛け軸を預かり、終わると次の人に渡す。

天道念仏会所連名帳によると、当番は會所世話人、

世話係などと呼ばれ、宿を提供し、「一軒一組で一回」といって内代交換しているようである。

實施場所 研修センターの部屋の中に東向きに大日如來の掛け軸を掛け、その前に祭壇をつくる。祭壇には線香・ロウソク・お札・花・果物の他、大徳利に入った酒が二本供えられる。掛け軸の側にはシモ繩張りが張る。

延二つと太鼓を三人が同時に打ち鳴らし、その音頭に合わせて大日如來に向かって念仏を唱える。一通りの念仏を唱えると今度は、祭壇を南に向け天道様に向かって唱え言の異なる念仏を申す。現在は組内の古老が唱える念仏を録音し、それに合わせて鉦・太鼓を叩いている。

念仏が終わると、祭壇に供えていた大徳利を下

げて酒を飲むの

だが、徳利の口

に手の平を当て

てそのまま逆さ

にしてそ

の手に当番組

をベロリといた

るのである。参

加者全員に徳利

を回す。

最後にシメ繩を

はずして切り、

この繩で竹にお

札を縛りつける。

竹は六本、予め

用意しておく。

お札は当番が版

木で刷る。一本ある版本のうち、小さい方を赤い紙に

刷り、これを半紙でくるんでその上からもう一本の版

木で刷って仕上げる。

お札のついたこの竹をムラ(組)境六カ所にたてて、

組内に炎が入り込むのを防ぐ。これを八丁ジメとい

う。ムラ(組)境に近い人が帰りがけに預かっていっ

て立てる。

その他 大日如來の掛け軸を入れる箱の蓋の内側には、

次の鉢がある。

文政元年 下増田村

細野基右衛門

卯 正月吉日

まことに、かつて天道念仏の時に使っていた花立てには、

天保十年と記されている。

會所世話人の名前を記した「會所連名帳」の他、金

銭出納については「天道念仏入用帳」が、明治初め頃

のものから残っている。

③隣接地域での伝承

下増田町に接する上増田町では、大塚田という地域

でやはり天道念仏が行われてい

る。ここでは、大

塚田全体を四つ

の組に分け、

年交代で、當番組

が念仏を行なう。

実施日は、三月

十七日(彼岸の

入り)。もとは

寮と呼ばれた大

坂田公民館の座

敷に薬師様が祀

つてあり、その

前で行なう。

集まつた人々

が交代で念仏を唱えるのだが、この時叫いた鉢の数

を数え、全部終わるとその数を紙に書いて薬師様のと

ころに貼り付ける。鉢を叩く人が二名、数を数える人

一名で、貯金が順に交代していく。

数えるために木で作った「鉢」という数札が用いら

れる。もとは、「天道念仏南無阿弥陀」の唱え言を三回

唱えると鉢ひとつ駒ひとつだったが、今は唱え言に合

わせて鉢を三つ叩き、鉢三つで駒ひとつと数を数える

回という計算である。これを目標に、かつては日の出

から日の入りまで行ったものだった。

版本が二種類あり、一枚を二組にして全戸に配る。

念仏をあげている最中に、男の人たちが色紙に墨で刷

り上げる。

なお、一つの版本の裏には、「文化七慶子年三月」

(一八〇〇)と記されている。

供え物として、もとはモチを二段重ねにして進ぜた

ものだつたが、現在はしていない。

また、ここでは八丁ジメは行わない。

(藤井弘美)



阿久津組入用帳



阿久津組会所連名帳



阿久津組 念仏を唱える



大塚田 念仏を唱える

上大島の天道念仏

天道念仏

お天道様に感謝する日、または日照祈願と

いわれる。いつ頃から行なわれたかは不明。

実施期日 三月十五日、七月十五日の年二回行う。

（朝四時半頃から夜二時頃まで）

行なわれていたが、終戦後は、朝九時頃に集まり、

皆で食事を食べて午後三時頃には終了するようになつて、現在もこのように行なわれている。

実施場所 前橋市上大島町町内にある観音堂の堂内

組織 前橋市町内七十歳過ぎの年寄り有志が一

四五人で行なっていた。その中から一人親方が決まり、

親方を中心に行なったが、十五年前に親翁親父会がで

きてからでは、親翁堂にかかる行事は全てこの組織が

取り行なっている。親翁堂には、老人会加入者のうち七

十歳を過ぎた年長の者がいる。現在八〇名近くの加入

者があるが、実際参加するのは五、六〇名前後である。

実施内容 当日の朝、親翁堂の庭に六点ほどの幟旗を二

本立てる。親翁堂の座敷に南に

向けて祭壇を作

り、中央に幣束

を立てて灯明、

線香・花・果

物・野菜等が供

えられる。

祭壇の前に大

小二つの鉢、太

鼓が置かれ、三

人組でこれら

を同時に早いチ

ンボで打ち鳴ら

す。唱え言は特

にない。打ち出

す前にまず練習

を二本立てる。



天道念仏祭壇（南向きに作られる）

以前は練香が燃え尽きるごとに交代していたが、現在は五分の砂時計を用意してそれを合団に交代して、参加者の全員が祭壇の前に座って打つ。

念仏の間は練香は決して絶やさないようにする。

また、鉦・太鼓も途切れることなく打ち鳴らす。

代でとなる。

戦前までは、三月の天道念仏の日にお札を刷り、町内にある観音堂の座敷で行われる。

組織 観音親父会が行なっている。この親父会には、老人会加入者のうち年長の者が入って

いる。十五年前に親父会がでる。この親父会には、老人会加入者のうち年長の者が入って

いる。現在は親翁堂に係る行事はすべて親父会が中心で行われ、年会費一〇〇円で運営されている。

実施内容 観音堂内部中央に百体親翁が祀られおり、その前面に十三仏の掛軸をかけて祭壇をつくる。

番、阪東三十三番、西国三十三番の掛軸が並んでかけられる。

祭壇には、灯



3人で鉦、太鼓を打ち鳴らす

上大島の十六日念仏

名 称 十六日念仏・オネンブツ

由来伝承 いつ頃から始まつたかは不明。

親翁様を信仰していると安らかに最期を迎える、最期は親翁様にすがるといわれる。

実施期日 年十二回、毎月十六日に行なう。午後一時頃から二時頃まで。



声を合わせて念仏を唱える



祭壇

明・花・線香を供え、祭壇の右に太鼓、左に小太鼓。中央の卓上に、前から集まつて置かれた、当番がいれるお茶を飲みながら開始を待つ。お茶入れ當番は、その年の役員の女の人が偶数月、奇数月交代で行つ。

実施期日 かつては毎年七月十七日に行われていたが、より多くの人が参加できるようにと、現在は七月十七日以降に最も早い日曜日に実施されている。

「そぞそぞ始めまし……」といふ長い声で名前が始まる。鉢一名、太鼓二名、線香を立てる係、名が前に座って行うが、この線香を立てる係が唱えた念仏の回数を數える。

実が地所
新橋市六丁目
長崎県佐世保市城内
町内を回つて
立た後、大友神社に参り、そのまま町内を回つて
辻々で百万遍を唱える。(順路は地図参照)

組 織 百万遍保存会(会長長尾昭司氏)によつて
行はれてゐる。会員は町内の成人七五名程である。聚

私は最初に「大勢でまとめて香を立てる」といふことを唱える。一項目唱え終わることに、鎌香を立てていく。鎌を叩く人のことをドーテリ（音頭取り）という。現在は会長が鎌の係をすることがになっている。鎌をつづきまでは特にないが、唱えやすいように心がけてい

存会ができたのは、二十五年前である。それ以前は、三十五歳までの青年会が中心となつた時期もあったが、参加者が減り、一時自治会が主体で行つたこともあつた。しかし行事を守るためには、しっかりと組織が

るという。鍾は太鼓はこれに合わせて打つ。
念仏は十二項目で、一項目五回すつ唱えれる。
最後に般若心経を全員唱えて、終わる。なお、最後
に般若心経を唱えるようになつたのは、十数年前から
のこと、それ以前はしなかつた。
念仏が終了すると再びお茶をもらって飲んで解散と
なる。
古老人によると、六十数年前に、念仏を唱える人達の
まん中で踊りを踊っていたのを見た事があるそうだが、
詳細は不明。

大友町の百万遍

由来云承
名稱
百万遍
疫病鬼歟・惡魔ムヽの意味で行つれる。兩

由来伝承 治癒道場・悪魔払いの意味で行われる
乞い・虫封じの意味もある。

この地へ始まつたのは、近世初頭と伝えられるが詳細は不明。長見寺境内に、寛喜二年（一七四二）の銘塔がある。供養塔であるが、これはこの行事をしなかつたために村内に疫病が流行り、死者が出たことから建立されたものと伝えられる。また、大正十五年にも、や



生ネギに味噌をかけたりながら酒をのむ



訳：太鼓に会わせる大数珠を回す

この引っ張り合いで勢いあまつて転んだり倒れたりするものも出る。

境内にたてた琵琶湖の舟を手に持つて、「ワッショイアーフィッシュ」といふ名前で、少しおどけた様子で、笛の掛け声とともに走り出していく。まず初めに大友が神社に入り参拝して数珠を回す。その後辻々まで何度も数珠を回しながら、ぐるっと町内を走って一周するが、辻々には数珠の下をくろうと町内の人々が待ち構えている。

最後に西川（小川原関）の所を通り、長見寺へ戻る



訳：太鼓に会わせる大数珠を回す

が、もとはこの西川で、すべての道具を投げ入れ、人々も飛び込んで淨めたものだった。また初めて参加した人は川に投げ込まれたなどという話もある。長見寺境内でもう一度数珠を回して終了となる。現在はこの後両会をしている。

なお、八丁ジメの竹は、車の荷台に積んで、百万遍

の数珠が町内に出て行くのと同時に出発し、地区の境界三ヵ所に立てられる。この仕事は自治会の人たちの担当である。

(藤井弘美)



海老瀬の十九夜講

名 称 十九夜様

由来伝承 コウチ内の女性たちが女人講を組織し、安産、子育てなどの祈願を行う。守護本尊は如意輪觀音。

実施期日 三月十九日と十一月十九日
地区や年に数回行う地区などがある。

実施場所 邑楽郡板倉町大字海老瀬字頬母子 (県内で)



頬母子の十九夜講

は東毛地域で広く実施、松井田町周辺にもあり)

組 織 十九夜講

実施内容 板倉町海老瀬地区の頬母子会館（薬師堂隣り）では、三月と十一月の十九日（現在は十九日に近い日曜日）に十九夜講を行っている。この日、コウチ内の女性たちが頬母子会館に集まる。このうち、嫁たちが十九夜講を組織し、嫁が十九夜講に入った年配の姑たちはオハンデと呼ばれる。現在集まる女性は三〇人くらいで、そのうちオハンデは一〇人くらいである。もともとオハンデは念仏講のことで、十九日以前の十六夜の時にを行い、十九夜講とは別々に行つていたが、今は一緒に行っている。地区的女性は、結婚して嫁に来て、それまで十九夜講に入っていた自分の姑がオハンデの仲間にいると、十九夜講の仲間に入りができる。

当日は、頬母子会館の中に十九夜様（如意輪觀音）の掛軸を掛け、十九夜講とオハンデの人たちが集まつて昼食をともにする。オハンデは昼間だけで、夕方六時頃では十九夜講の女性たちが集まつて安産祈願する事お産が済んだ家ではそのお礼がある。祈願をするのはおもに里親や姑たちで、子供が生まれる娘のお産が無事済むように祈る。その間、掛軸の前に祈願をする人の数分のロウソクを立てて火を灯し、線香を焚く。祈願が終わると、燃えりのロウソクをお供えしたオサゴ（米）を祈願した里親や姑が持ち帰る。持ち帰ったロウソクは、娘のお産の時に火を灯すと、その火が消えないうちに無事お産が済むという。持ち帰ったロウソクが短いほど、お産が軽く済むとのことで、燃えりのロウソクは長いほうが喜ばれる。当番の人は早めにロウソクに火を灯してできるだけ短くなるようにしておく。祈願をしてもらう家では、あらかじめ当番の人に連絡しておく。戦前は十九夜念仏をあげたが、現在では念仏はあげていない。

十九夜講の当番は四名で、一年交替となる。当番の人は十時半ころ集まるとき食を作り、みんなに振舞う。昔は五目ごはんを作つたが、今は寿司が多く、それを十九夜様にお供えする。夕方の安産祈願が終わると、現在は別のところに食事をする。

なお、オハンデという呼び方は板倉町海老瀬の峰地区でも使われているが、十九夜講で若い娘たちが集まるときオハンデ（十九夜オハンデ）と言い、姑になるとオハンデから抜けていた。当番の人は研いだ生糸三本ずつ交替で一年間行っていた。当番（サシバン）は三人ずつ交替で一年間行っていた。当番の人は研いだ生糸三本を十九夜講に供え、その後、半紙に少しずつ分けた後人に配り、翌朝その他、館林市上三林町では毎月十九日に地区内の十九夜堂で念仏を行っている。ここでは、三人の年配



東源寺墓地の十九夜塔

の女性が念仏をあげている。安産祈願に来る女性は、ロウソクをもらはずに、腹帯を借りて帰る。この時、男児が欲しい時は白の腹帯を、女児が欲しい時は赤の腹帯を借りて腹に巻く。無事にお産が済むと、借りた腹帯を倍にして返し、お礼参りをする。

また、板倉町除川地区では、毎年三月上旬に十九夜講を行い、ここでも祈願に訪れた人に白や赤の鉢巻を渡し、持ち帰った人はそれを腹帯に縫い付ける。無事に出産が終わると翌年の十九夜様の時に新しい鉢巻を返しお礼をする。

十九夜講は女性たちが家事から解放される日でもあり、昔はこの日を心待ちにしている女性が多かった。境内で束東地城を中心に十九夜講が多く残されている。板倉町海老瀬の東源寺墓地には、万延元年（一八六〇）に建立された高さ約一七〇cmの十九夜塔がある。この塔には「上野国邑楽佐貢庄海老瀬／日影東西腹帯小橋／女人講中九十九人」とあり、「東腹太源右衛門女三人／要職女二人（下略）など四地区的女性の人数が家ごとに記され、江戸時代から十九夜講が盛んだたことを知ることができる。

菱町の地蔵盆百万遍念仏

名 称 地蔵さま。相父入地区の地蔵盆百万遍念仏。

由来伝承 盆に帰らずとも、決まって里帰りする肉親と家族が、地域の人達と共に仲良く達者で暮らしている際に、桐生市教委で、慣例から地域名を冠した。

実施場所 桐生市菱町祖父入地区山中の共同墓地。

組 織 地蔵盆北泉会。およびゆかりの人達。

実施内容 実施日は地蔵盆の日で、毎年行祭最終日にある。この日の夕闇迫るころ、山中の共同墓地には無数の裸ロウソクが灯され、心地よい沢風が仄かに揺らす幽玄な趣のなか、達者で幸せな暮らしと満喫している。先祖に贈り戴く目的で、桐生の超大型母珠を多用した手作りで素朴な、百万遍念仏を繰りながら、鍾太鼓が乾いたリズムを刻み、「ナムアミタンツナマムミダアーハーマイダンゴ ショッピバインゴ ソレソレソノオレエ」と、囁かれてながらの陽気で豪快な数珠繰りで、悪疫退散を願う人々の伝統行事に発展した。

地蔵盆百万遍念仏は、江戸後期から始まつたとされ、一般的な悪疫退散の要素は痕跡も認められず、純次第に祝文化して百万遍念仏となり、祝術的要素が色彩濃いものである。地蔵盆が伴うによんで、悪疫退散を願う人々の伝統行事に発展した。

浄土往生を期待して、南無阿弥陀仏の名号六字を称念する念仏も、より確かな功徳を求めて遍数を競い、次第に祝文化して百万遍念仏となり、祝術的要素が色彩濃いものである。地蔵盆が伴うによんで、悪疫退散を願う人々の伝統行事に発展した。

悪疫退散は究極的には自己救済である。祖父入地区では、家族内親の労りと伴や、近隣住民どうしの思いやりと、地域愛や相互扶助の再認識が主であり、今日的で高尚な目的は他に類例がない希有な習俗であり、

（岡居充士）

誇りをもつて、次代に継承したい貴重な伝統行事である。

同じ目的意識を持つ地域の老若男女が、こそつての参加で得られることは、人として最も大切な思いやりと労り。尊び敬う心までが、教えではなく、幼少期から実感できること

イドのときに使用する念仏鉢がある。それには次のような鉢がある。

金持講中 上州山田郡北沖之郷
干時正徳二年辰十一月吉日

江戸芝 木村吉右衛門作

また、東南ゴウチでナイトのときに使用している数珠の大玉（やく玉）のひとつに、明治十五年七月四日

この行事の由来を知る資料である。

実施期日 七月の紙團勘定の日

実施場所 太田市沖之郷町（コウチ町）

組織 沖之郷町山車保存会

実施内容 沖之郷では四つの組に分けてナイトを実施している。各コウチごとにそれぞれ年番（世話番）を選んで、年番を中心に行事を運営している。かつては、この行事は七月二十四日としまっていた。この日は紙團勘定を行なう日であり、この日は、ナイトを行っていた。

紙團について、もの形は七月十八日からの準備等をへて、二十一日に行い、二十二日の後始末、休みのあとと二十四日の午前中の道普請、午後の紙團勘定のあとに、各コウチごとのナイトとなる。

現在はこの形が若干省略され、七月二十三日に紙團勘定とナイトの実施という形になつていている。

ナイトの形はコウチごとに若干のちがいがある。この行事は、沖之郷の四つのコウチ（小字）ごとに行われている。このうち北ゴウチには葬式のときとナイトの行進



地藏盆百万遍念佛

衆であつたが、現在は子供が中心の行事となつてゐる。

はじめはコウチの広場で数珠をまわす（このとき、太鼓を打つ）。このとき、大人が鉦と太鼓唱えることが「ナイト」である。

このあとコウチ内の各戸をまわる。このとき、

大人が鉦ながら歌をたたきながら

行列の先頭に立つ。

各家庭の庭で数珠をひつぱりあ

う。大きなやく玉がまわつてくると、それをいただき、頭などにつけて、無病良薬を祈る。各家庭ではおさい錢をあげてくれる。また、夏のことでナイトがまわつてくると、水をかけた。

ナイトが終わると子どもたちは川に入つて水をあびた。おさい錢は行事のあと、子供たちに分け与えてい



数珠まわし

沖之郷町のナイト（百万遍）

名 称 ナイト

由来伝承 この行事の開始の年代については不明である。地区の人の伝承によれば、むかし伝染病がはやつて困ったことがあったので、疫病除けのため、また体が丈夫になるよう、ということではじめた行事であるといふ。

この行事は、沖之郷の四つのコウチ（小字）ごとに行われている。このうち北ゴウチには葬式のときとナイトの行進

ナイトの行進

（井田安雄）

上福島のすみつナ祭り

名 称 すみつけ祭り
由来伝承 この祭りの起こりについて、村人たちはつぎのような話を伝えていく。

今から三百年余り前のこと。上福島に悪疫が流行した。その時、武州騎西（埼玉県北埼玉郡埼玉町西町）にて、疫が頑張ったことから、以後つくられきたという。また、悪疫流行の時、ある名家の下女が鍋をさけてころび、顔にべつとりと満湿がついた。だが、その下女だけが異常にかからぬ力があることに驚いた村人たちが、鍋墨に悪疫を近づけめががあることを信じ、これが行われるようになつたと伝えられている。また、この祭りは「悪魔っぽらい」ともいわれていたという。以前の祭日は二月五日で、御神体を安置する宿（やど）當時は申入者が多く、一代に一回、宿が廻つてくればよいほうであったといふ。

実施場所 佐渡郡玉村町大字上福島（祭典本部は同大字）
宇摩研修所

組織 すみつけ祭り実行委員会（地元の「青友会」）

子供会 關係者等によって組織

実施内容 当日の早朝、祭典役員が埼玉県警四西町の玉敷神社に参拝し、御神体オシン（御神面）やサザキ（御神束）などを借り受けてきて、御本部の祭壇に祀る（写真参照）。なお、御神体箱に納められた御神体は秘密とされ、まだ誰も見たことがないという。また、この祭りは神戻が開闢することなく、村人だけで行われることに特徴がある。

まず、村通りの前に、大根を輪切りにした切口に、墨を塗りつけたものをたくさん用意する。墨は消炭で、墨粉を水に溶いたものである。以前の墨は、鉛墨や炭墨底についた墨を使ったが、その後は木炭や練炭のことなり、現在では消炭を利用するようになつたとのことです。

る。この各戸巡りには順路がある、まず集落の一番下(東)の入り、次第に上へと向かって行く。順路の家の門口になると子



各戸通りの巡回

である。
す、お互十時。ま
に墨をつけ合つ
た係員たちには、
行列を組み、各
戸廻りが開始さ
れる。先頭には太
鼓を面をかぶり、
ポンテンをかざし、
した先達へと進
みゆき。次に御神体を奉
持した人、つき
にオサガ服を担
いだ人や手に手
に墨をつけ合つ
た係員たちには、
がつづき、さら



シシ面（上）と御神体箱



各戸巡り 御神体の入った箱を家人の頭上に



類に屬をつける

遠慮してのこと
という。今は玉
敷神社まで自動
車を使って日帰
りしているが、
鉄道使用の頃は、
祭りの前夜、玉
村町か福島に御
神体を泊め、翌朝
に上福島に運
び入れたといふ。



各戸巡りの子供たち



太鼓持参

走りぬけたとい
う。また、闘つけ
は路上の通行人は
もちろん、バスま
でも止めて中に乗
り込み、乗客の顔
に墨を塗りたくつ
たというが、今は
こうしたことは行
われてはいない。



墨をつけ合う子供たち

くぐり抜ける。こうすると、この年は無病息災でいい年になると信じられていました。現在では略式化し、各町内の参詣は受けとる式方に変わってきた。

また、この獅子頭は戦前までは多くの他都市からも借り受けにきた。当社の伝承によると、近年まで借り受けにきたのは、前橋、太田、伊勢崎、群馬郡内、埼玉の郡山、本庄などのうち、特に農村部の地区が多かったという。この場合は上福島のように「墨つけ」は伴っていない。

一方、墨つけを伴う例として、碓水郡松井田町小柏では、一月十四日、即ち祖母神祭のあと、しばらく談笑や煙草を吸ううちに、若者たる娘が追いつかれ、焼けりの消炭を頬につけ合って興し合つたといふ。また同じ町猿賀では同日に脇脛（ぬるで）のこげた炭を手にかけて、新しい嫁さんの顔に塗りつける慣習があつた。前橋市が行わる例では、よほど前に、これに近いことが行わっていたといふ。このようになま葉をつける風習をひかないなどと伝えている。墨には悪疫退散の呪力を持つものという俗信から生じている慣習と思われる。また獅子も一般に厄魔を退散させ、五穀の豊穣をもたらす強大な力を持つものと、古くから信じられてきた。上福島の場合、墨と獅子との両者の組み合わせから形形成されている祭りであり、特に墨つけが強調されていることに特徴がある。

大戸の獅子舞

大戸の獅子舞

由来伝承 獅子舞がいつ頃より

はつきりしないが、文政四年

明神例年四月八日祭

前々より

ともと畔宇治神社で御子諸道用

現在は大戸地内の古賀自

理しているものを借用して行な

理しているものを借用して行な

現在は大戸地内の古賀自

ともと畔宇治神社で御子諸道用

前々より

明神例年四月八日祭

はつきりしないが、文政四年

由来伝承 獅子舞がいつ頃より

大戸の獅子舞

が強調されていることに特徴がある。

(金子緯一郎)

つて獅子舞を秋の十一月十七日の畔宇治神社、十八日古賀良神社で奉納するよになつたといわれる。

古賀良神社で獅子舞をする人は、村に居住する長男、または次男を主体として行く。舞を全部覚えるのに少なくとも三年、サラを三年して獅子になるといわれ、指導者と振子は共に、体となって汗を流し真剣そのものであった。社前において「おおやれい」まで奉納して、いたが、後継者難という難題に直面して、遂に伝統ある獅子舞が中止せざるを得なくなってしまった。

其の後、「郷土芸能をたやさないよう」に祖先の遺産を大切にしていくことを誓った。昭和六十二年には、浦野芳夫、黒岩進氏等が中心となって広く大戸区全域に呼びかけて、昭和六十二年に獅子舞保存会が結成され、実に十二年振りに復活をみたのである。本会は大戸区民相互の協力により、そして会則には、畔宇治神社に奉納する。大戸区の居住する畔宇治神社の氏子をもって組織する。

運営委員会は、大戸地区より各一名づつ、任期は一ヶ月で参加する。

本会はその目的を達成するために次のことを行う。

- (1)獅子舞をする人の選出・養成
- (2)獅子舞の練習
- (3)獅子舞の奉納
- (4)獅子舞の維持・管理

実施期日 四月十一日・十一月十七日

実施場所 吾妻郡吾妻町大戸・畔宇治神社々前

実施内容 (1)面・持物 獅子頭は平成九年に新調され、上大戸区(古賀良神社)の財産があるので保存会

が借用し、獅子舞を神社に奉納する。保管は上

大戸公民館である。獅子頭三、花笠、狐面、花笠、

カンカチ、ササラ、獅子舞の主役は振り子であつて、男子青年と小・中学

生(2)振り子の服装、(3)獅子の服装は上、下に分かれ、上体は一つの重い袖でつくつと筒袖を着る。

下はダッフルコートをはしから部に密着する。手には必ず手甲をつけて一本の振を持った。野外で舞うために足に足袋をはき、わらじをはく。頭の下頸に一枚の布を垂れ下げる。腰

太鼓を一個腰に装着する。振り子はこの太鼓をうちならしながら踊るのである。(3)演出の曲目 十二年振りに復活をみせた獅子舞であるが予想外にも達の希望者が多く集まり、指導にあるたる顧問と獅子舞研究部員が子ども達と真剣に取り組み、

驚くべき短期間に舞技を習得し、そこで祭典に獅子舞が披露できるまでに至り、伝承勢が

維持されたことは喜びに堪えない。

平成二年五月の「広報あがつま」に子ども達の獅子舞について記している。

「大戸の畔宇治神社では、四月十一日の春の祭典で、獅子舞が行われ二〇〇人の人出で賑わいました。この獅子舞は、大戸獅子舞保存会が行っているもので、十二年ぶりに昭和六十二年から復活しました。祭りの当日は旧大戸小学校の庭で子供たちにより獅子舞が行われ、その後、神社において大勢の参拝者が見守る中、保存会の人たちにより舞が披露されました。」

舞は二組獅子三組と大人獅子一組からなり、二組も獅子の低学年の部は、体格的に無理なこともあって、獅子頭は身につけて、祭りのハッピに面と小太鼓といつた姿で舞う。

祭典当日 十二時 大戸公民館の前で、「宮振り」を舞つて出発、「道行き」という行進隊形で畠中・草津街道大戸宿を経て神社へ向かう。アンドン、カンカチ、行列を組む。帰る時は「振込み」を舞い、全部が終了す



こども組の舞

振り子の準備



大人組の舞い

奉納する場所 畠中の旧道より文政九年(一八二六)建立の立派な灯籠(町指定重要文化財)を左右に見て、石鳥居、石段を経て見城川沿いにある社に向かう。「五穀豊穣・家内安全」と書かれた大きな万灯が立ち、社

殿の広場で舞う。本殿西側に神楽殿がある。かつて神樂が奉納されていた。舞は全部で一七あり、社殿を一周して社殿の広場で、こども組、ついで大人組が舞を奉納する。

前獅子（黒獅子）

中獅子（赤獅子で宝珠）

後獅子（黒獅子）

狐 笠 カンチ ササラ

狐 笠 カンチ ササラ

ちゃんちゃんにタツヅケ荷
頭に顔をすっぽり覆う笠に赤
布を垂らす。

舞座

①子・一ロリ ヤーリヤウトウロウ

（ヒーリヤリヒーリヤリ）

②ビキヤ
③ビキヤ
④振込み
⑤飛連れ
⑥チャーリヤウト

⑦ヒキヤ
⑧宮振り
⑨岡崎

○印は歌のできる舞
○印はこども獅子が

※印は歌のできる舞
舞える獅子

⑩デンジ
⑪トヒヤリ
⑫どじょう猫
⑬相さ（後相さ）
⑭ヒーピ
⑮家敷送り
⑯左ねじり
⑰おおやれい

（おおやれい）は「雌獅子隠し」とよばれる。演目

は、「一頭の雄が一頭の雌を奪い合う恋愛劇で長時間舞

う。獅子舞は無劇であるから、すべて唯子舞によって進行してゆき、全体をリードする。端いの祭りハッ

ビ姿の笛方が社前に並ぶ。笛の音色は神社の森の中か

ら静かな哀調で郷愁をさそい、農民が切実に豊作を願う姿を偲ばせる曲であろう。舞の中で唄が出るのは、

チーロリ・ヒキヤ・デンジの三つである。

神歌

一 この宮は この宮は

飛弾の匠が建てたげな
模一つで四方固めた

二 獅子の子は 獅子の子は
京で生まれて伊勢のお払い

腰にさしたは伊勢のお払い
腰にさしたは伊勢のお払い

三 ささららをば ささららをば
良くも悪しくもお褒めあれ

今年はじめて習いてそろ
今年はじめて習いてそろ

四 やまがらは やまがらは
山がおいとて里の出で

この社で羽を休めた
この社で羽を休めた

五 あの山で あの山で
けんけほりと鳴く鳥は

本の殿御の籠の飼い鳥
本の殿御の籠の飼い鳥

六 神の社で 獅子振れば
神も喜ぶ氏子繁盛と

七 白鷺は 白鷺は
海のとなかに果をかけて

波にゆられてバツとたちそろ
波にゆられてバツとたちそろ

最終歌
いざや若衆 立ちや辰らん
いざや若衆 立ちや辰らん



大人組の舞

（丸山不二夫）

二六 初午の行事

高山村の稻荷祭り

節分の過ぎた始めての午の日に稻荷様のお祭りをしめたので、「初午」といふ稻荷祭りであったが、吾妻郡全體として「五月十一日建国記念日」(太平洋戦争以前は紀元節)に行われるようになったが、いつの頃にそのようになつたかは詳くることはできなかつた。

吾妻郡高山村には大字が中山と尻高で、その中に二つの集落が中山に五、尻高に五あるが、その中に二つの集落で祀つてある稻荷は六、集落の中がいくつかの集団になって祀つてある。三の稻荷神社が

ある。そこでその個々のものについて記すことにする。

①名 称 ましも坂の稻荷様 (原集落)

江戸時代に開かれた三国街道の中山間にさしかかる三差路の入口で、正徳六年(一九一七)国鉄上越線の開通以前は人通りも多く、参詣人も多かつたといわれる。いつ勧請されたかはわかつてない。

実施期日 二月十一日

実施場所 ましも坂の稻荷様

も坂稻荷神社境内 繼この集落の戸数は一〇戸で、若者(二十歳~三十歳)が組織する。

ましも坂の稻荷様

由来伝承 享保十三年(一七二八年)の石碑があり、その頃の創祀ではないかといわれる。藏造りの立派なサ

ヤ宮の中に木造の神官が安置され、その中に安永三年(一七七四)宿子未九月節壬午之吉安座、正一位稻荷

御神体があり、この時勧請し、お宮を開設したものと思われる。



ましも坂の稻荷様

話をする。

実施内容 村中から米、小豆を集め、金を代わりに出す家もある。平等割りの金は一戸五〇円。

また十日までには「お白狐」と呼ぶ小さな「きつね」のお姿をお札を用意する。幹事は十日の朝早く集められた米、小豆で「おこわ」(赤飯)をつくりそれをおにぎりにする。

朝八時頃から参拝がはじまる。参拝するには、お札、おにぎりをふるう。

お白狐を一体借りて行き五穀豊穣(むかしは蚕糸も含めて)を祈願するのである。願いがかなえられる翌年には二倍(二体)にしてお返しするならわしいとする。

②名 称 公達稻荷 (本宿集落上組)

由来伝承 享保十三年(一七二八年)の石碑があり、その頃の創祀ではないかといわれる。藏造りの立派なサ

ヤ宮の中に木造の神官が安置され、その中に安永三年(一七七四)宿子未九月節壬午之吉安座、正一位稻荷

御神体があり、この時勧請し、お宮を開設したものと思われる。

世話人は夕刻責任者の家で直会をする。

年代はわからないが、大正四年(一九一五)の屋根替

(③)名 称 弥惣左衛門稻荷 (本宿集落下組)

由来伝承 創祀の年代はわからないが、大正四年(一

九一五)の屋根替

がうかがえる。祠の中には木像が祀られている。農業守護の神で五穀豊

穂、蚕糸守護の祈願をした神様である。

守護の神で五穀豊穂、蚕糸守護の祈願をした神様である。

真庭村、安兵衛、下川田村、半兵衛、同、宮基事、三人にて勤め四月中旬御遷忌された。

費用は八両一分であった。この文書からこの年に勤

められたものと思われる。御神体は石造の狐の像一

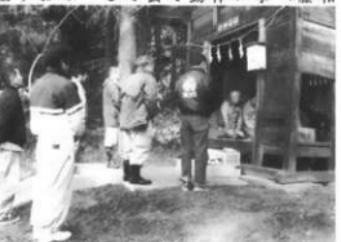
体で養蚕守護の神様である。

体で養蚕守護の神様である。



弥惣左衛門稻荷

組織する。「其の組織」の会長（後藤義典）が中心となり、集落の祭り、行事等の世話をしていく。最近集落全体で行う「公民館活動」もさることながら、運営する「公民館」は、と公民館と共に向こうの世界を語る。十一日、神主の「葬儀」を行つてから、参詣者たる夜に公民館で「お参り」をする。十一日、「葬儀」をあげる。「小さい狐のえらぶる」。頬に汗をかく。以前蚕糸のさんかん（以前蚕糸のさんかん）である。頬に汗をかく。いたるものである。⑤名前：由来伝承。勤功輔成。羽林荷社から上野野付まで、徒五位羽林荷社から上野野付まで、御神影と証書を交換したかはわからない。代表である。弘化四年（一八四改修して現在に至る。実施場所：勤功輔成。組織：祭典は後年の世話人代表は



清水福荷

（以前養蚕のさかんの頃は蚕神の神様として崇敬されていたものである。）

⑤名 称 勤功稻荷大明神（判形菴落）

由来伝承 宝曆十年（二七六〇）九月二十八日に京都方面から上野守助助の次ぎによつて、京都に出行し、從五位下を授け、勤功稻荷大明神の神様で、「お白狐」と云ふ。

御神影と詫書を受けている。以前から稻荷を祀つてゐたかは不明だが、この年に新たにこの神社を勧請したのである。代表は後藤左衛門と小林勢七郎である。

弘化四年（一八四七）と昭和二十八年（一九五三）に改修して現在に至つてゐる。

実施期日 二月十一日—十二日

実施場所 勤功稻荷神社境内

組 織 祭事の世話人が四人で祭りを運営する。今

年の世話人は後藤義好である。

元永年（一八六四）屋根えをしたことが
書誌があつた。

昭和四十年（一九六五）頃までは
関田、戸室の二



金甲稻荀大明神

実施内容　十日
所で花が集会を
く割ったものに
色づけした紙で
つくった花)づ
くりをする。また
神社と参道の
清掃をする。十
一日朝、花を社
殿の前へさして
かざり、今年内
五穀豊穣と
安全そして地域
円満を祈願して
祭が行われる。
この花は、毎

右碑為本山一再經修葺
之碑。望小紀祀修封之。
嚴重人等。敬寫。謹此上表。
忘也。

落の同志会が中心になって祭りをしていたが、それ以後、関田第七区で行うようになり現在に至っている。

実施場所 一月十一日
実施場期 金申福荷寺境内・見沢集落

組織 区長を中心にして震保班の班長によって諸準備が行われ、老人クラブの人たちのつくりの花かざしなどの手伝い、青少年健全育成会(福引き賞品づくり)若妻会(料理づくり、接待等)により行われ、中心になつて動くのは主として見沢、鐘々(小落)地区の人達である。代表者、飯塚六郎、関並刀美

美施内容 甚浦



小説の運行

車が置かれたり、「マントンウ」かたでたら、力さり立てたて、酒類、酒肴、のみのものがふるまわれる。午前十時頃から、明治時代に作られた車山の復元が行はれ、鎌田、見沢の衆落をまわり祭りは、にぎやかに終了する。この金甲桶成大明神とは関係ないかもしないが

改修して現在に至っている。
実施期日 二月十一日～十二日
実施場所 勳功稻荷神社境内
組 織 祭典の世話人が四人
年の世話人代表は後藤悦好であ

六で祭りを運営する。今

木に明治一年の
書銘があつた。

この関田に次のような稲荷勧請の証書が残されている。

依頼願移當 御社神影
正一位位福稲荷大明神

上甲州群馬郡尻高村

奉勸遷座改正到神壇之百宜祓除其祠而於奉鎮祭者水世五穀豐饒家内安全諸願成就可有守護者也

上田廿八ヶ國福荷總司

妻福御社

神官頬頭神主

天保七年丙申年正月豊日齋部宿守信

⑦名 称 役原福荷

由来承 承

いつの御室福荷

こう勤請されたか

わかつてない。

四十年位前まで

は、神社の前に太鼓を出し、あかりをつけて、夜遅くまで太鼓をたいてぎやかに祭りを行っていた。

参道の「のぼり」

に「御鎮寶寅神社」と見られない

ものが立てられて

て、太鼓をたいてぎやかに祭りを行っていた。

は、神社の前に太鼓を出し、あかりをつけて、夜遅くまで太鼓をたいてぎやかに祭りを行っていた。

参道の「のぼり」

に「御鎮寶寅神社」と見られない

ものが立てられて

て、太鼓をたいてぎやかに祭りを行っていた。

参道の「のぼり」

に「御鎮寶寅神社」と見られない

ものが立てられて

て、太鼓をたいてぎやかに祭りを行っていた。

五穀豐饒、一家内安全を願う神社である。

実施場所 役原神社と公民館

組 織 祭典幹事（世話人）は隣保班の班長（伍長）

がつとめる。頭（幹事長）は伍長の推選でできる。

八人が世話人となる。今年の頭は大瀬崎次である。

準備は十日夜世話人が公民館で供物などの

用意をする。供え物は、御神酒、頭つき、蘭玉、おこ

わ（赤飯）、水、塩である。

午後一時神主たのみ、供え物をして、祝辞奏上、

玉串奉炎して終わる。そのあと公民館で直会をする。

由来伝 承 昭和四年（一九四九）に都第一族の人達が

京都の伏見稲荷に

出向いて神影を受けて遷座し、社殿

を新築して都筑稲

荷として祭りをし

てきたが、その後

神社の戸室の集落

に移管し、「戸室福

荷」とし、区の行

事の一環として、

集落全体の祭りとなつたものであ

る。

実施期日 二月十

一日

実施場所 戸室福

荷神社 公民館

組 織 区長（荒木重雄）隣保班長、公民館長（若

月志生）運営委員が中心となり、準備祭典を行ふ。

実施内容 前日十日に世話人が、のぼり立て、お札つくり、燈籠はり（〇〇間、餅つき、福引き（毎戸二〇点以上寄附）あつめ、福引番号づくりなどの準備をする。夜になると燈籠に火をともす。

当十一日は神主を招いたのみ祭典、祝詞奏上、玉串奉炎をする。参拝者は福引き、甘酒、神酒、おこわ（赤飯）などを求める。おれは毎戸に配る。

終了後に、公民館（集会所）で直会（懇親会）をする。

実施内容 十日、北之谷の毎戸一人が出て準備をする。

午前八時から参道、社殿、境内の清掃が行われ、その

が発足して祭りの運営をしたが、昭和三十五年から北

之谷の区の行事として祭りが行われている。今年は区

長（一場進）、区長代理、隣保班長が世話係となり四十

戸の人が一人ずつ出て行く。

北之谷稲荷

由来伝 承 元禄十五年（一七〇二）午年、向井主税

（本旗）が尻高下組を知行所とした時、その駄目のため、戸五〇〇円。



役原稲荷



戸室稲荷



北之谷稲荷

江戸の御屋敷から稲荷様を勧請して祀らせた。社地を見立てるところ（滝の下半兵衛の林）の内がしきるべき所に候に付し。

午後一時神主たのみ、供え物をして、祝辞奏上、

玉串奉炎して終わる。そのあと公民館で直会をする。

松井十平衛の、免租地としての願願により、正徳四年（一七一四）中田五郎歩を許された。

享保八年（一七二三）御遷宮して今の大社が建てられたのである。それ以来、毎年二月初午の日を例祭してきたが、いつ頃かわからぬが、二月十一日を初午と定めて祭典を行うようになった。社殿は高山村指定の重要文化財となつている。参道入口に立てる「鐵」に

明治三十三年第三月穀旦、當所氏子中の墨書きがある。

享保八年（一七二三）御遷宮して今の大社が建てられたのである。それ以来、毎年二月初午の日を例祭して

きたが、いつ頃かわからぬが、二月十一日を初午と定めて祭典を行うようになった。社殿は高山村指定の重要文化財となつている。参道入口に立てる「鐵」に

明治三十三年第三月穀旦、當所氏子中の墨書きがある。

十一日 神主（林安弘）をたのみ、区長をはじめとする役員（世話人）と村長、村議会議員、教育長等の來賓を迎えて神事、祝詞奏上、玉串奉築が行われる。

その後、参詣者に福引き、たくさんの賞品が出される。終了後に公民館（集会所）に集まり、直会がおこなわれる。

⑩名 称 元宿稻荷

由来伝承 明治の頃にはじめられたといわれるが、さだかのことはわかつてない。中世の頃に山津波があつたと伝えられる。



元宿稻荷

後片づけをして終わる。

⑪名 称 新田宿稻荷

特別の計画した祭りはしていない。供物をして近くの人たちが参拝にいく。

（奈良秀惠）

吉祥寺の金甲稻荷祭り

名 称 金甲稻荷祭り

吉祥寺の守護神として江戸時代より寺の裏山に祀られている稻荷様の祭りである。この稻荷樹は江戸時代中期、京都の伏見稻荷より分社された。以降地元の安穩、そして特に養蚕の農業を願う利益があるとされ盛んな信仰が寄せられている。

実施期日 二月十一日（初午）

この日は養蚕の農家のため春駒が舞われる。

実施場所 利根郡川場村大字門前 吉祥寺境内金甲稻荷社

組織 吉祥寺

この祭りは吉祥寺の行事として寺が行うものである。参拝者はしたがって主に寺の檀家達である。

当日 寺では「金甲稻荷大明神」と書かれた木の札が書かれ。それが以外の特に養蚕を行う地域の農家の人々も蚕の農業を願つてお札を受けてお札を受ける。

なお、この日は地元門前地区的青年会の行う「春駒」の行事もあり境内を含め、当地区は人々で賑わう。

実施内容 この祭りは吉祥寺の行事として寺が行うものである。参拝者はしたがって主に寺の檀家達である。

当日 寺では「金甲稻荷大明神」と書かれた木の札を用意する。札の左右には「家

内安全、交通安全

全、商売繁昌、

五穀豊穣、など

が書かれ。札

クジ引なども行

われる。参拝者は白狐を持参す

る。和紙に「奉

納正一位金甲稻

荷」と書いた旗

新田宿稻荷



長加部稻荷

実施期日 二月十一日

実施場所 元宿稻荷社前と町田和男家

人などが六軒入っていたが、現在は参加しない。

世話人は町田和男（永代）町田新太郎、町田久江（この二人は交替）で行っている。

実施内容 十日 世話人により、燈籠はり、のぼり立て、神饌品などの諸準備がおこなわれる。

十一日 のぼりを立て、神饌品（御神酒、頭つき、米、塩、水、ねぎ、蘿王、うどん、すし、おこわ（赤飯））を供える。氏子は三三五五お参りに来る。お札は戸に配られる。午後二時頃に世話人だけで直会を町田和男家で行う。午後四時頃に神饌品（のぼり、燈籠など



稻荷祭に供えられた蘿王

を立てる、蘭玉の形をしただんごを捧げるなどそれぞれ蚕や家の守りを願うためお供え物をする。特に蚕糸の当たることを願ってお参りをする。受けた木の札（千由）は神棚へあげて一年間のお守りとする。

（金井竹徳）

黒田の稻荷祭り

名 称 お福荷様

由来伝承 大願成就、五穀豊穣、郷中安全を祈る。豊川稻荷の系統との説と、金毘羅大権現の説がある。キヅネが「眷属」である。

実施場所 多野郡万場町 黒田稻荷神社境内

組 織 鎮守、丹生神社の総代四人、区長、副区長

実施年代 四人計二〇人が世話ををする。金は集めない。

実施内容 朝九時すぎ、若いし（衆）二人が集落のなかで太鼓を朝一の竹竿で抱き出した。太鼓のたたき手が一人後ろに付いてドドン、ドンドンとたたきながら小高い山の上の稻荷様へ歩いて登つて行く（今年は特別歩いてもらった）。みなに祭りの始まりを知らせる寄せ太鼓である。太鼓に誘われるようにコウチ（集落）のみんなが神社を目指して坂道を行く。おばあさんたちは車で送つてもらい、神社前は賑やかになった。社は間口二間、奥行き三間、高さ一丈、開け放たれて賽銭箱の前に米、塩、ミカンが供えられ、お神酒も上がつて並む。カシの葉はサカキの代用という。ご神体の古い鏡があつたが盗まれて今は無い。城山稻荷神社の祭神は倉稻魂神（うかのみたまのかみ）。「城山稻荷神社、平成十二年（一九九〇年）神社総代一同」と、真新しい献額が十二年（一九九〇年）作成された。

社は文化十三（一八一六）年作り替えた。

失せ物をしたとき油揚げを進せて并むと出でると

いわれ、掃除したとき油揚げが上げてあつたという。

道端の広場では半分に切ったドラム缶で大火を燃やし、鐵瓶の上に大火瓶が湯気を立てていて、ゴザをすき、長机を二脚置きつまみが並び、酒盛りが始まつた。

版本があり、役員は総三二名、横六名のお札を、百枚手刷りにして、みんなに配つた。「己のない初午はない」とい、節分と初午の間に己の日が入るほうが多いという。また、三の午まである年は火事が多ともいわれる。今年は各戸で不用品を出し合い、バザーをしてしたので賑やかな祭りだった。



黒田の稻荷様

（十屋政江）

お札 城山稻荷神社 幸 福 義 玉 恵 五穀豊穣 御祈祷真里

山のすぐ下の碓氷川右岸沿いに開通して、一八号線を通りらずに當園方面へ通じるようになった。

平成二十一年一月六日(木)正午から七日(金)午後二時までの七草縁日(たるま市)は、あらかじめ高崎警察署と市当局や関係団体によつて協議、交通規制が行われて実施された。主な内容は駐車場の確保(新鼻高橋下部三四〇台、国道一八号線沿いに一七〇台、八幡小付近に二三〇台、群馬八幡駅付近に七〇台)、県道新鼻高橋周辺、乗附縁地に二〇台)、国道一八号線は歩行者横断禁止、駐停車禁止、乗附・鼻高線に乗り入れ禁止となつた。新鼻高橋から少林山までの参道は一方通行とし、夜間の照明のため東京電力は本部と待機所警備・安全のため境内講堂前で警察本部と消防本部を設けた。このためかっては夜間照明は限度があり相当暗く危険であったが近年は足元で明るくなつた。

参道は専門の手前でお焚き上げ用の古いダルマを奉納は本部と待機所警備・安全のため境内講堂前で警察本部と消防本部を設けた。このためかっては夜間照明は限度があり相当暗く危険であったが近年は足元で明るくなつた。

参道は専門の手前でお焚き上げ用の古いダルマを奉納(ふだんは本堂靈符堂へ奉納)したあと、新装の総門をくぐり、大石段を昇る。鳴り続ける鐘楼をくぐり、

一たん瑞雲閣(社務所)、講堂の前で息を整えたあと、さらに石段を昇り、最上段の本堂、靈符堂の前へすすみ参詣をする。

境内は出でて寺沢川を渡つたあと、下鼻高の集落を下つて鼻高橋へ通じていた

が、近年は寺沢川に沿つて南へ昇り立石橋を渡つて下鼻高の集落の西側を大き

くまわり、下鼻高公民館を通つて鼻高西側を

通つて、境内にも並ぶ露店が境内にも並ぶ

招き猫も豊岡で製造

なお、達磨寺の社務所(瑞雲閣)においても寺札と福袋の販売をしている。

なお、靈符堂の東側には昭和六十一年の秋に達磨堂が建設され、大阪の大山修氏の収集した全国のダルマコレクションの寄贈を受けて展示している。

(4) 県内のダルマ市

一月六・七日の少林山の最大のダルマ市であるが、このあと春先まで県内各地でダルマ市が次々と開催されている。例挙すると次の通りである。一月九日前橋市十日高崎和田多中琴平神社、同日瑞雲立石金比羅宮、十一日伊勢崎、十二日洪川、十四日中之条、十五日桐生音門寺・沼田、十八日高崎市南大類の猪俣頭観音・館林市、九日小泉、二十三日藤岡三夜櫻(二十五日晴志雷電神社)、二十八日室田不動尊、二月二十八日原市、三月一日松井田、同二日安中ひな市、同月第二日曜甘樂山兼森福禪院、三十一日磐戸、四月一日本宿、二日下仁田と、正月から春までの初市、節分会、ひな市、ざる市などの縁日でダルマ市が立つてはほか、埼玉、栃木、長野など近県にも店が出てるし、千葉県の成田山新勝寺では一年中高崎ダルマを売る店がある。

主なダルマ市へは組合として共同出荷しており、平成十二年の初市の場合は少林山(1/6・7)、一三店舗で四九名、前橋(1/9)五五名、金比羅宮(1/12)一四名が出荷、参加した。

(森田秀策)

伊勢崎初市

名 称 初市天王祭り

由来 伝承 伊勢崎の本町に一・六の六斎市が開設されたのは、元龜年間の頃と伝えている。また、この市の繁榮を願い、市神として牛頭大王が祀られた。その年

時は定かではないが、市の開設と同じ頃に、前橋領天川村(現文京町)に鎮座する天王社(八坂神社)の分霊を勧請したものという。その後、本町の六斎市を分けて、寛政二十年に一日と二十六日は新町(現大手)と



福だるまはいかがですか?



露店が境内にも並ぶ

磨の周辺には大小の橋をはじめ招きねこが山と積まれて客を待つ。さらに櫻起物、運勢占い店などが並ぶ。さらに露店は次の段の觀音堂

ここでダルマが売られるようになつたのは、明治の末期からで、高崎の少林山達磨寺のダルマ市の露天商が来ようになつてからだといふ。このダルマは「福ダルマ」と呼ばれ、当初から人気を博して次第に店舗を連ねて現在も増加し、現在に至つてゐる。

実施日 一月九日
二丁目 実施場所 本町

組 織 本市の商工観光協会
 関係者、本町二丁目の自治会・初市関係の役員等、およそ七〇名で組織している。

十時から八幡宮境内で、初市関係者の参列のもとに式典が行われ、つづいて境内に積まれた夥しい数の、古ダルマのお焚きあげが始まる。



お仮屋に安置された神輿



出御する市神の神輿

古ダルマの供養のためという。十時三十分、八幡宮の神社（市神様）が出御になる。神輿の担ぎ手は本町二丁目の青年会の人たちである。この神輿は昭和三十六年に新調されたものという。

神輿を中心とした行列は、まず八幡宮前エビス通り（旧称通天通り）に勢揃いし、露天商が店を連ねて本町の目抜き通りを練り歩く。行列は豪華・華麗なもので、その出でものをいくつあげると、まず本市の消防署本部隊員のプラスバンドが先頭に立つ。神輿の後には巨大な相生獅子がつづく。この大獅子は旧相生町（明治四十三年、本町二丁目に編入）のもので、当町内守護のために祀り、初市まことに引き継がれていた。骨組みは竹を編んで作られ、その上に御幣をいっぱい張りつけ、さらにその上に紙を張って、朱ウルシを塗ったものという。また地元をはじめ、伊勢崎、渋川、沼田、藤岡、安中、富岡の各市から参じた連携の人たちが、練り歩く。行列の後部からは、市内有志たちによって結成された酔将草（かたばみ）による華麗太鼓が打ち鳴らされ、祭りの雰囲気をいつそう盛り上げる。

一巡した市神様の神輿は、午前十時半頃、二丁目（東和銀行前）に設置されたお仮屋内に安置される。行は解かれれる。ここには参詣者が列を作つて絶え間なくつめかかる。参詣した人たちは、筆書きの籠竹に「八



前橋初市全景



市杭

中之条町の安市

名 称 安市

由来伝承 中之条町は吾妻川のほとりに、河原町つぎに長岡の地（俗に下の町）に在つたが、洪水などの諸事情により、寛永二年（一六二五）町割りして、道の中央に用水、両側を街道とし、開市を予定して広い通りとした。寛永九年（一六三二）真田信吉は市の新設を許した。これが現在の中之条市の始まりである。その頃すでに隣の町「原町」にも市が開かれていた

坂神社「前橋初市」と朱印の押された紙の小旗を結びと呼んでいた。これでシノバターまでの手を保つて持ち帰る。また、本町通りから表町の駅前通りまで店をつなげている露天商は、およそ三〇〇店といい、北は北海道から南は九州に至るまで、全国から参集しているといふ。これらの店は、福ダルマをはじめ、各種の縁起ものや、ヤキソバ、タコヤキなどの食べ物類を商っている。昭和の初年頃までは、ガマの油売りの大通芸人やバナナのたたき売りなども見られたと伝えている。なお、お仮屋に安置された神輿は、この日の午後十時に、出御した時と同じく二丁目の青年会によって担がれ、八幡宮に還御して祭りは終了する。（金子緑一郎）

のがたり、月ごとの縁

笠森の市と祭典

による。

日も一万人の人出と多くの露店で賑わう。普段の日も香煙絶えることがない。参詣者は、近隣はもとより、橋本、埼玉、東京、千葉、長野方面からも見えてくる。

各地の縁日や祭りの状況を把握する露天商が「が抜け抜き」といって切る盛況は、主要駅と参詣路の要所に掲げる旗幟と、定期的な新聞広告で、現代人の多様な願意を受け入れる寺院の姿勢と、狭い境内に、参詣者が自然発生的に定めたお参りコースがセッテされ、縁日はほとんどが堪能できる。

「日限地蔵尊」に統いて「水かけ不動尊」で淨い願いとし、なで仏の「びんずるさま」をサスリ、「护身符」さまはタマネギ奉納で眼病歎痛に靈験あらたか。良縁子玉安産に「金精大明神」が列をしての整然としたお参りは真摯な祈願がうがえる。

(平塚真作)



縁日の様子

笠森の市と祭典

による。

由来伝承 笠森福荷神社の境内で行われる祭典と市であるが、笠森福荷神社は祭神は倉桶魂神・農城人彦命。地元では笠森福荷と称し、古墳時代後期の全長六〇メートルの前方後円墳の笠森古墳の墳頂部に建立されている。創立期は八二五年と伝えられているが、現在の社殿は明和七年(一七七〇)の再建である。もとは、祭典を三月の初の午の日、二の午の日、三の午の日の三回行っていたが、戦後に、春の例大祭を三月の午の日のみとし、さらに社会情勢の変化を受けて昭和四十三年より、春の例大祭を三月の二日曜日と決めた。

実施期日 三月の第一土曜日が宵宮祭り(御旅所の神幸祭)、第二日曜日が春の例大祭(遷幸祭)

実施場所 甘楽郡甘楽町福島 御旅所と笠森福荷神社境内

組織 笠森福荷神社氏子

実施内容 笠森の市は三月の初午の日に県内及び、橋木、埼玉、長野、新潟その他関東一円から、業者が来て、戸板や筵を並べて店を開いた。商品は収穫具、農具、白綿、麻、機械器具、植木、桶、籠等農家で使用するものを中心としたもの。もとは、神社の近くの氏子の人造が、自家生産の物を売っていたのがこの市の始まりといふ。その後、参詣客目当ての各地の業者の出店となつたと、土地の古老は説明している。ここでの開市は地方での最初があるので、この後の祭礼での市の留品の儀式を左記する」とまいわれている。

笠森福荷の二神幸祭りが例大祭の前日に行われる。

この日、神社の御神体をお移しした神輿を中心、幣束を背負った神馬、万灯をつけた花馬、櫛・鉢・弓矢、稚兒など行列を作り、上町の御旅所まで進巡する。

ここで、天狗の舞、浦安の舞を奉納。神輿は御旅所で晩お籠もりをして、神輿番が交替で警護にあたる。

翌朝、御旅所より本社に遷御。祭典の後(二二)でも、天狗の舞、浦安の舞を奉納。神樂殿で神樂を奉納。現在三座を奉納している。笠森福荷神社伶人会の人達



(井田安雄)

名 称 沼田祇園祭
「沼田祇園まつり」(沼田祇園まつり)

名 称 沼田まつり(沼田祇園まつり)



山車行列

提灯、駕斗などで飾り付け、鉦・太鼓・笛で囃す。明治四十一年市街地に電線が引かれるまで一本柱の高

い所に人形を掲げて誇らしく大通りを行なって行い、大人が仕上げる。三日

の午前中までに山車の飾りつけを済ます。

大正の初め四本柱となり山車全体も低めになつた。又高欄が上へ出来る「すり込み式」、上部のみ回転

する回転式など新しい山車が時代の中で導入されてき

た。町内ごと組の名が付けられ、山車、提灯など一目でわかるよう名入れになつていてある。

町と組名は次の通りである。

東倉内町……ひ組
西倉内町……西組
柳町……や組
高橋場町……た組
材木町……さ組
原新町……
上之町……か組
馬喰町……む組
中町……な組
坊新田町……ほ組
下之町……い組
鍛冶町……い組
様名町……お組
清水町……よ組
薄根町……う組

小山町で飾られる人形には次のようなものがある。

田では山車をマンドウと言ふ」と呼ぶ、山車を洗う作業

当日の支度は桃色の鉢巻、腹掛け、肉襦袢に駒股、足袋、二枚底の厚さの草履、太鼓用の袋装を腰に下げ

る者もいる。氏子は紋付、羽織、袴、白足袋、雪駄、手古舞と呼ばれる山車の先導役は昔は若者さんなど出

たが現在は女の方がなる。男番役に右袖ぬぎ、左袖

黒の裁つ着をはき、手甲、脚絆、腰袋、わらじを着け、花笠を背に掛け、鉄棒を左に突き、右手に扇を持ち踊

るような動きで先頭を歩く。

お囃子は上州系続「さんてこ囃子」の中、サンチコ・テケチーフン、吉原カンラ、竜まわし・麒麟・夜

神樂など独特な曲が多い。又稀太鼓の音を高く調律させて、バチでたたく時の強弱をハッキリとさせる伝統的な奏法と長尺太鼓を中核にし高音な響きに仕上げ

ゆっくりとしたテンポで優雅な舞踏として扱われている。三日は午後一時より中心となる市街地は車両が通行止めとなり、市役所前広場より、マーチング隊の先頭によるオープニングパレードにより祭りは始まる。

先頭によるオープニングパレードにより祭りは始まる。

山車は車両の通行止後に各町内をまことにそれから巡行が始まる。地区によつては道案内の神社まで電線に大神が先導をする所もある。山車が道をまたぐ際には人形の横にいる鶯足が本で出来た棒を使って電線を押し上げて人形をくらせて進む。各町の祭典事務所には祭典の役員、婦人会、青年会、育成会などの役員が待機しており、神輿や山車が近づくと迎えて、飲物やお菓子などを出して接待をする。



天狗みこしの渡御

三一

卷之三

二四

三日の夜、七時すぎに各町の山車が市役所に勢揃をしてその後、「マンドウ行列」が市街地の本通りを走つてそのまま「天狗神輿」の渡御へとつながる。又六時すぎには主運行の天狗神輿の傍で夕方市役所前より出発する。町神輿の主運行には大人会による「千人おどり」の行列とか夕方より夜にかけて祭りは盛り上がり、夜の十時まで続く。

最後の殿に納ることに「蚕」古くから眼ねづりを

それがれば沼田の祇園、つれていくから辛抱しな」
ら近在の農家では夏の農繁期、この沼田祇園は
楽しみに、生活暦の一つとしてきた。こんな歌
れ継け、人々の間にこの祭りは深く息づいてき
る。

俗（参照）この後に、元禄年間より、三組で分担した祭礼を、上町、下町の二組に分担することとして、以後、上・下・下を天王町にて祭りをすることとになったという。なお、七丁目は屋台を持たず「割出し」と呼ばれて、高い間に上と下で交代で祭礼を主宰してきたものである。それを、昭和八年（一八九三）に加藤天王町事務所によつて、七区を当番町（天王町）に加えることになった。そのことが具体化したのは、昭和二年（一九二七）のことである。

祭りの最終日の五日は油田まで行のクルイーパーク

卷之三

大間々祇園祭

名 称 大間々祇園

子目は昭和二十一年に当番町を務めることになった

の渡御が満を持して始まる。見物人は二階より神輿を見下ろしてはいけないとされ、見物する者がいるとそ

由来伝承 犬山祭りは犬山牛頭天王に対する信仰であり、本来は防災除厄のための祭りである。ところが、

その後、戦後の混乱期をへて、昭和四十九年から「大間々まつり」の形をとつて、八月一、二、三日に実

の家を神輿が押し込んだということもあつたといふ。この日の夕方までお旅所に奉安された両社の神輿

本県では、このほかに、市神としての天王様に対する信仰が厚くみられる。

施することになり、この祭りの中に、大間々相撲を組み入れることになった。



神輿の渡御

大間々祇園の日程は、江戸時代には七月二十四日、二十六日、明治時代には太陽暦の日程によって、新暦の七月二十四日、「二十六日」、さらに八月一日、「三日」となり、現在に至っている。

実施場所 八月一・二・三日

組織 大間々町神明宮宗敎会が主催

大間々町大間々一丁目～七丁目

実施内容 現在の大間々祇園については、前述のように「大間々まつり」の中に組み込まれて行われている。

日程は八月一日から三日までの三日間。国道一二三号線沿線において山車の巡行等が行われている。

ここに古い形の大間々祇園の様子を示す資料として、昭和十年七月一日の「八坂神社祭典申合事項」の内容の大要を紹介する。

当番町は七月二十一日までに祇園宮をその町内に設けること。

八月一日を例祭（本祭）の日とし、当番町において午前十時に大真榦を、十一時に神馬を廻すこと。

八月一日の午後、御旅所前にて祭典を執行すること。

そのあと神輿は町内を渡御する。この順番は当番町

を先頭にする。一～三丁目が当番町の場合は先頭を北にして上より、四～六丁目が当番町のときは、先頭を南にして下より神輿が町内を一巡すること。

八月三日に神輿の渡御終了後、御旅所前にて渡御終了の手打式を行う。

八月五日には、当番町は神輿、祭器を神庫に格納。

獅子は次年度の当番町に送り渡す。

八月五日に当番町は祭典費を集計、各町に割当金額を通知する。各町は祭典費を八月末迄に当番町に払

い込む。

現在の祭典の様子は別図のとおりである。

なお、江戸時代には、天保十三年八坂神社（牛頭天王宮）の別当職をつとめた本山派修験大院院住職の日記（『大院院日記』）

には、天保十三年六月二十五日のところに、「四丁め

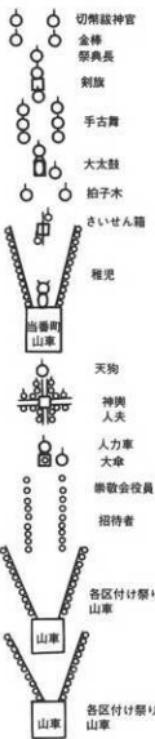
うさんこ珠の出し二面黒ン坊手踊り」とある。「川越水

川祭礼絵巻」の中にも「黒ンばふ」の踊りがある。

山車行列（第二街の山車）

二

三



神輿行列図

二

三

これは江戸歌舞伎系統の出し物という。江戸文化の地方への影響の様子を見ることができるといえよう。

世良田祇園祭

由来伝承 尾島町大字世良田に鎮座する八坂神社（旧郷社）の祇園祭である。祭神は素盞鳴尊。明治初年の神仏分離以前は牛頭天王を祀り、新田天王社または新田祇園殿とも称していた。当社の創祀についての明確な記録はないが、永祿八年（一五六五）、世良田長樂寺僧儀哲の記した「水様日記」の、六月七日の条に「天王祭ライタス（以下略）」とみえる。この天王祭りは世良田天王社の祭りと考えられるので、この頃にはすでに当社は勧請されていたとみられてる。また社伝によると、津島天王社（愛知県津島市津島神社）よりの勧請という。

当社の祇園祭は、かつては神田明神と秩父の妙見祭りとなりて、開基三大祭りの一つに数えられていた。ただ、祭りに本格的な構造をもつた「引き屋台」の巡行等が行われるようになったのは、当社の縁起書類によると、近世後期以降と推測される。さらに弘化二年（一八四五）に刷られた「上毛世良田絵巻」によると、登場する屋台の台数一一台や巡行する順路等が、近年まで伝わってきた世良田祇園祭と全く同じ形で記載されていたことがわかる。また祭りの主目的は疫病防除を祈念してのものであった。

この祭りも昭和三十二年、新田郡世良田村の東部が



八丁ジメ



進行する屋台

同郷尾島町へ、西部が佐渡郡境町への分村合併等を機に、從来からの形態を失わ、現在に至っている。その現状は後述するところである。

実施場所 日一・二十五日。古くは旧暦六月十四日、十五日

組 織 世良田八坂神社氏子
実施組織 当社宮司（加藤莫氏）・尾島町
大字世良田内は、上町・下新田・今井・大門・新町・南八・下町・下新田・下原の九町より成る。
（世良田九町及び柏川より各一名 計一〇名・行司

の町内の神輿番へと、リレー式に担がれている。この神輿は荒れ神輿といわれ、かつては盛んに揉まれたり落とされたりした。

七月二十四日 この夜、屋台の巡行がある。分村以前は全一台の屋台が、午前零時を期し、「お下り」にして、大字世良田の東端に当る下町区の道路上に設置された。現在では道路交通法などにより、祭り終了まで、氏子たちは鮮肉、魚などを食べてないで、精進潔齋の生活をつづけた。こうして、大字世良田の東端に当る下町区の道路上に設置された。現在では道路交通法などによっては守られている。又、キウリを輪切りにしてはいけない、初ものはかならずは天王様に供えてから食べるなどの禁忌を伝えていた。

（金子綱一郎）

（上記各地区より四一七名ずつ）・神輿取締役（九町内より各一名）・神輿番（神輿の担ぎ手。九町内より各若干名）なお、行司以下は祇園祭ごとに一年交代。また、昭和三十二年の分村合併以前は、現境町の大字三ツ木・女塚・境村（栄町）が参加していた。また、この三天字は屋台を一台ずつ持っていた。

祭り行事の次第 七月一日 八丁ジメ張り（立てて、氏子縦めにより、大字世良田の出入りに当る主要幹線道路の端や八坂神社の入口に当る道路及び大字世良田内的主要道路の交叉点など、およそ一二ヶ所に立てられる。かつての八丁ジメは、道路の両側を跨いで鳥居状に張られた。また、七月十四日に取り片づけて、その材は天王神輿を安置するお仮屋に使われたという。七月十五日 午後一時三十分頃から、隠居様と呼ばれる天王神輿の渡御がある。渡御の仕方にも変遷があり、現在では「町内持ち」といって、自町内からつき端の上町まで巡回した。途中「屋台芝居」と称し、歌舞役者に依頼しての芝居を演じる場面もある。

その他、平成六年頃まで、七月十五日と二十五回前は、この日の午前十時頃から、前夜に下町地区に集結していた屋台は「お上り」といつて、大字世良田西端の上町まで巡回した。途中「屋台芝居」と称し、歌舞役者に依頼しての芝居を演じる場面もある。

これは、役員たちによりバクメシ（麦飯）の共食が当社内で行われていた。この時の大麦（ヒキワリ）は、当社の分霊を祀る北群馬郡子持村植畠より納められていた。町・上新田・下新田の四台の屋台が集まり、隣したてる（曲名はサンテコなど）。国道南他の南八・新町・今井・下町の屋台は自町域のみ囃しながら巡回。七月二十五日 各町内の屋台は自町域のみ囃しながら巡回。後一時、八坂神社より当社様と呼ぶ天王神輿が出御。渡御の仕方は十五日の隠居様と同様である。この神輿が村を一巡して、神社に還御し、神輿内の御神体が社殿内に移されることによって、祇園祭は終了する。以前は、この日の午前十時頃から、前夜に下町地区に集結していた屋台は「お上り」といつて、大字世良田西端の上町まで巡回した。途中「屋台芝居」と称し、歌舞役者に依頼しての芝居を演じる場面もある。

近戸神社の御川降り

由来伝承 宮城村一夜沢の赤城神社の近くに「御殿」と呼ばれる場所がある。ここはそのむかし農城人彦命が居住していたところだという。命は第十代崇神天皇の第一皇子であったが東国治定の命を受けて毛野国に移駐し毛野國を平服したという。

命は七月一日に天地の神々を祀つたが祀りが終ると、そのことを月田の丸山に屋敷を持つて長女

に報せるため、白く濁った酒（ごぶろく）を川に流して祭典の終了を告げたという。

その川を酒の船を流すことから柏川とよんだとい

う。

この酒を川に流す神事について、享和二年六月に三夜沢の赤城神社の縁起を寺社奉行に提出した文書によると、赤城神社を最初に鎮座した地点から桓武天皇の延暦年間に現在のところに遷宮し、ものとのところを元三夜沢とよんだ。

この遷宮のときに富士見村の白い土で土器をつくり神に供えものをした。このとき酒を醸造したときの酒柏川に流したので、この川を柏川と言うようになつたといふ。

赤城信仰の一つの方法として現状の荒山を御神体として崇めていたが、その奥宮を近くまで擣するように里宮を近戸に祀った。これは近戸の神と赤城山のつながりをもつ柏川を伝わって、毎年農耕の神が赤城山から下ってくると考案されていたのではないかといふ。

その神の里へ下るときに行われていたのがほとんどの祭りであったのではないかと考えられる。

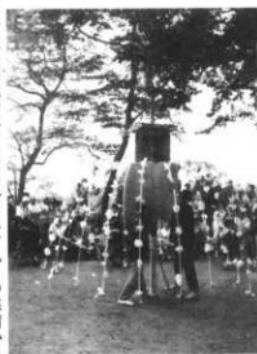
それが近戸神社の神輿になるものであつたと思われるという。またもう一つの見方からすると里宮の神が柏川を伝わって赤城山の奥宮へ神幸するという信仰があつたと言えるかも知れない。

実施期日 九月一日

実施場所 勢多郡柏川村月田

近戸神社

組 近戸神社社子 舞子舞保存会
実施内容 御川降神の神事は九月一日に行われるが、御川降神事の主役的役割を果たす獅子連による獅子舞は川がまかれる。宮城の八月三十一日は、午後から区長宅で獅子舞は練習成果を披露する。舞は「すり出し」「道行」「後庭」



万灯

近戸神社の祭礼行事として八月二十九日の準備から始まる。

八月二十九日の準備は近戸神社社掌、区長他役員、獅子舞保存会、獅子連を含めた全員が近戸神社社務所に午前九時に集合して各分担ごとに作業を進める。

万灯作り、花笠の修理等が主な作業である。万灯は頂部に櫛の枝を取り付けた、およそ一丈三尺の大きさである。

櫛の下に一九本の金銀の馬簾を取付けその下に四面四角の提灯を付ける。提灯の正面に「近戸神社」横面

を舞い、獅子連全員が酒者のもてなしを受ける。

その後近戸神社へ向かい「道行」を行い、近戸神社で半庭舞い、社掌宅で半庭を舞つて宵祭の終了となる。

本祭りの九月一日、まず、社掌宅で「すり出し」「前庭」を舞い、近戸神社で一度舞う。

御川降りの神事は近戸神社本殿で社掌によって神事が行われ、それが終わると神体を神輿に移し、氏子によつて担がれ神幸に移る。

神幸の順序は大きな鉢を担ぐ人に次いで、御祓箱、賽錢箱、神輿（四人で担ぐ）、社掌、獅子連、氏子といふ順序である。

獅子連の順序は、世話役、笛吹き、（六名）歌がかり（四名）カンカチ（二名）、獅子（三名）の構成である。

獅子は獅子頭を被り、上衣は麻襦袢、下衣は麻の武者袴、白足袋に草履はき、腰太鼓をつけるをもつ、氏子継代は紋付きに黒足袋で草履履き、万灯掛けは菅笠をかぶり、黒麻羽織を着て麻袴、白足袋に福草履である。



神幸



川に甘酒を注ぐ

笛吹きは花笠
灯挂りと同じ
ある。花笠には
五弁の飾花と紫
の房。杜掌は菅
笠である。
体勢が整うと
笛吹の合団で本
殿を七廻り半廻
回し南島居する。
村内の神幸に移
る。村の西方に
位置する柏川の
対岸の宇大光寺
という所に設け
られた御旅所に
移る。神幸は村内の辻々を巡つてゆくと辻には飲み物
を販賣に並べて接客をしている。
神幸の囃子は「金毬曲」、「城さばき」、「七ツ拍子」、「五郎兵衛の曲」、「岡山河原舞」
等、「舟扶み」、「轟さばき」、「大山河原舞」等のものである。
御旅所は方一間、高さ四尺の石垣で、その上に近戸
神社の石祠が祀られてあり、神輿をこの上に安置する。
つづいて柏川の流れに行き、酒樽（一升樽）に詰め

御旅所に神輿を安置

て持参した神酒をねこそがに流れに注ぐのである。この酒は甘酒である。この祭りを「升廿日祭」というのもここからきているのである。これがすむと、待つていた獅子舞連によつて一人立ち三頭の獅子舞が演ぜられる。獅子舞は全部行われず、一曲だけしか振られないのである。

同副委員長——会計—— 計五人（任期三年）、他に氏子総代一〇、伍長六、神輿供奉八、シャギリ一四（カシカンノ一踊り四、ハヤシ七）

实施内容

祭り前日
川瀬に川原石を四角に積み、笹竹四本を立ててシメ縄を張り、
回しし神輿の御台所を作る。伍長は旗立て役で大鳥居の
脇にのぼり旗一本を立てた。(以前は各コウチでもの
ぱり旗を立てたが、現在は乙父大鳥居横に一本立てる。)
大鳥居には襦袢をよって大蛇の形のシメ縄を垂りをする。
下流(東)に頭を向けて飾り付ける。各班長は各戸を巡回し、祭典費一戸三五〇円を集算する。

祭り前日
お供え用の餅つきを行い（以前は村神主相馬悦次家大
でついたが、現在は社務所、重ね餅一組や二組角餅（直
角三角形、厚さ一ミリ、底辺四ミリ、斜辺五ミリ、高さ二
五ミリほどに切る）一膳分を作る。オシメ（シメ飾り）
を乙父集落の上・下の境の道端に張る。女衆も出て
直会用の料理を作る。

第三回

由来伝承 奥多野山中は古くは甘美郡に属し、乙父神社の神社の祭祀は富岡市一ノ宮の貫前神社の分神で、姑妹の祐神の祭祀である。乙父五郷の神々を合祀し乙父神社と称するにいたつた。

実施期日 四月五日 春祭りだけ行う。各コウチ（小字）の小祠にて春祭りをとする。

実施場所 多野郡上野村乙父木森戸の乙父神社、及び乙父子遠西の神流川の川瀬。

乙父神社のお川下げる
名 称 お川下げ

藤岡市街地から約六〇^{キロ}、神流川に沿つて南西の山中へ入り、上野村乙父の集落から約一〇〇^{メートル}ほど北の山腹へ幅約三尺、八九段の石段を登つた境内の西側に乙

が嚴肅に進められる。

典儀 修祓 御簾後取 健後取 開屏
獻譲案後取 献譲 膜敷後取 祝詞後取 開屏
祝詞後取 神主玉串奉奠 懿禮 神輿神前進 膜敷後取
神輿渡河 川瀨 神靈本殿鎮座 膜敷後取 祝詞後取 閉典
取 還幸祝詞奏上 祝詞後取 膜敷後取 閉典

が演奏される。オネリ・カサボコ・オカサギ・ヨセビヤ・ナシ・カゾエ・ハマ川・嘘・シヤギ・リヨウエシ・カランキン・カジヤバヤシ・オカメバヤシ・ツリガネバヤシ・バカヤシ・オオミヤバヤシ・曲名不詳
午後一時からサンターノに会場を移し、独特のカンカンノリで踊りや地芝居などが上演され、二〇〇人ほどの人々が詰めかけて賑やかに楽しい時を過ごす。

箱を頭上に奉持した氏子絶代(主役)に向行祭場にて出発する。この祭場は、かつて廢わつた平塚河岸の跡地に当たる。到着すると、祭主役ほか二名の役員によつて、誠心を川瀬に三度、素早く浸して洗い淨め、木箱に

平塚赤城神社のお川入れ

千秋樂といつて後片づけを行ひのはり旗を倒しお怒り勘定をする。

名 称 桜川入り口

由来伝承
「社に安置する神社二体(一面)を和稀に祭る事の御神事也。」
川の潮に没して、洗い淨める神社二体(一面)を和稀に祭る事の御神事也。
代は当社の創祀年代と共に定かではないが、倭主(倭主二体)の御神事也。
(直角約三〇度)には「平塚郡赤城大明神 水様十三両」の銘鉄がある。
午年(元和元年)、「八〇八〇」に新調した縣主仮収納木箱には「御神社毎年五月六日吉日行
丑刻」との墨書きがあり、當時はこの日時に行われていたと推測されている。

お川入れが済むと、ふたたび行列を組み、同じ道を通つて神社に帰り、大杉会となる。この頭には、勇壮社(現合祀)の大杉社の神輿が平塚の船頭衆に、勇士に担がれて村内を渡わたたといふ。この大杉社は、近世の中期頃、水難防止を祈念して、当地の水運関係者



お川入れの神事

神主による祭式



実施場所 佐治宿町面平野
赤坂村
赤坂村役場
名、年交代 氏子代（六名）と祭り世話人代表（二名）
実施内容 午後六時（これ以前は同十時）、尾島町咲宮（兼住）を迎え、社殿内でその式典が行われる。氏子代と世話人は白装束に身支度。

土生神社のお川下げる
名 称 お川下げる
鎮守の祭典にあたり神流川の川瀬に禊御して
神事を行うて「お川下げる」と呼ぶ。
由来承 土生神社の祭神は埴安姫命、慶長十五年建立の権杖があり、土中から得た奇石（石棒）を神体とし土生大明神と称したと伝える。

実施期日 九月第一日曜日 例祭日は旧暦八朔（八月一日）

で天明五年（一七八五）より神奥の川下げを行つてき
たが、その後新暦九月一日となり、現在は九月第一日
曜日。

実施場所 多野郡万場町小平字元郷 土生神社及び神
流川の川瀬

実施内容 祭り前日

氏子が出て祭りの準備、境内の清掃、のぼり旗二本
を立て、神流川にお川原様という御座所を石を積んで
設けたが、今は木枠を据える。

祭り当日

「土生神社祭典行列役割」（表）が横長の紙に筆書きして
拝殿下横側に貼り出され、三四名の役割の氏名と行列
順が示される。役割は次の通り。

散米・御刀・御鉢・宝剣・大榊・小榊・宝幣・小幣
・御剣・金御幣・御魚・御供花・御神酒・御鏡・五
行・三神・一祇神・大麻・錦旗・納鏡（氏子總
代・小剣・御輿・八人）御囃方（五人）
(地元の称宜が神事を行う)



神輿を御座所に安置し称宜が岸に座り祭式を行う

午前十時に氏子が神社（東に向く）に集まり、神奥
を飾り付け拝殿前（東）向きに置く。社務所で幣
束・竹口ゴの花飾り六〇本などを手分けして作り、昼
食を取る。

午後一時に奥に本殿のある拝殿に役員一人が座り
称宜により神式を行うと、役割に従い社前に並ぶ。神
奥は一行は散米をまきながら社を一回りして出発。神
奥はトラックに乗せ一時五十分に川原に到着。神奥を
東流する川瀬の御座所に北（岸）向きに据えて、午後
二時に称宜が相対して座り祭式を行う。済むと役員が
お膳の御御供の四角の餅を参拜者に配り、御神酒を
注いで回り、大小の太鼓を打つてシャギリ四曲が演奏
される。神輿を飾った花飾りが一本ずつ配られる。二
時半には帰途につき神社に戻ると再び社を一回りし
て、神奥を拝殿内の庫に納め、三時にはのぼり旗を倒
しきを終了すると社務所兼公会堂で直会に移る。

（関口正己）

第四章 群馬の祭り・行事一覧表

凡 例

- 1 本章は、基礎調査票にもとづいて作成した群馬県内の祭り・行事一覧表である。
- 2 この表には、実地調査報告で取り上げた祭り・行事は載せていない。また、基礎調査表で提出された祭り・行事の中から、事務局の判断で選択した祭り・行事を載せているため、基礎調査表で提出された件数よりかなり少くなっている。その結果、ほとんどの祭り・行事が一覧表にのっていない町村もあるがご理解願いたい。
- 3 テーマ番号は、第1章であげた、全国共通テーマと群馬県独自テーマの番号に対応する。
- 4 旧町村名は、基礎調査地区割をした町村に対応する。基本的に明治22年の市制町村制施行時のものであるが、一部の町村ではさらに地区を細かく分けてある。
- 5 伝承は盛ん・順調・危機・魔絶の4つに区分した。
- 6 指定の「県」は県指定、「市町村」はそれぞれの市町村指定であることを示している。

群馬の祭り・行事一覧表

| 番号 | テーマ | 古町村名 | 詔吉町村名 | 行 事 名 | 所 在 地 | 行 事 日 | 組 織 | 行 事 概 要 | 伝承 | 指定 |
|----|-----|------|--------------|------------|---------------|---------------------|--|---|----|----|
| 1 | 17 | 片品村 | 片品村 | 十二様 | 村内一円 | 1月12日 | 小字行政単位(28単位) | 山の神に対して、お神酒を上げ五穀豊穣。村人の安全祈願をする。 | | |
| 2 | 8 | 水上町 | 水上町(垂垂) | 藤原源助祭 | 8月17日(日7月27日) | 藤原源子舞保存会 | 五穀豊穣を目的とした祭り。源子舞及び奉納相撲を行う。 | | | |
| 3 | 22 | 川場村 | 川場村 | ドンドン焼き | 谷地スポーツ広場 | 1月15日(1月14日) | 村商工会青年部 | 昭和7年創設。正月の飾り松などのおたきあげをする行事 | | |
| 4 | 24 | * | * | 念仏講 | 川場温泉太郎大日堂 | 桃岸の中日(桃岸の入りと卯日) | 太郎地区住民 | 大日堂内で念仏を唱え、既路を右廻しで巡る。 | | |
| 5 | 22 | 白沢村 | 白沢村 | ドンドン焼き | 高平新井鳶場造祖神前 | 1月14日 | 高平地区 | 厄年の人が中心となり、各戸の松飾等をたきあげる。 | | |
| 6 | 17 | * | * | 十二様の例祭 | 高平 | 2月12日、8月12日(毎月12日) | 高平地区 | 高平にはオサの十二様が祀ってあり、2月と8月の12日の日のみ年2回祭る。 | 順調 | |
| 7 | 17 | * | * | 十二山神社奉祭り | 岩室十二山神社 | 4月12日 | 岩室地区 | 山の神を祭るもので、塙を供え、塙城の中を集めて赤面をつくり。参詣者に渡す。 | 順調 | |
| 8 | 28 | * | * | 祇園祭り | 高平八幡神社 | 7月(7月23日) | 高平地区 | 夏風を除く神事を出して村祭で祭る。 | | |
| 9 | 12 | * | * | エーチョ祭り | 生枝生稲神社 | (9月末) | 社組のまわりを曳え物を持って「今年もエーチョ。来年もエーチョ」と言いながら3回まわる。 | | 廃絶 | |
| 10 | 29 | * | * | 天神祭り | 高平天神山 | 11月23日(2月) | 高平地区育成会 | 子供たちが村内に音符をめぐらし、天神様を掃除し、くじを引いてもらう。 | 順調 | |
| 11 | 22 | 昭和村 | 糸之瀬村 久保保村 | ドンドン焼き | 村内5ヶ所 | 1月14日 | 子ども会育成会 | 子供たちが中心となり、正月の松飾等のおたきあげを行なう。 | 順調 | |
| 12 | 24 | * | 糸之瀬村 | なんまいだ(百万遍) | 糸井地区 | 6月下旬 | | 新嘗造・苦虫御饌の儀式として子供たちが先頭にポンゼン、尾をさがす。その後に大きな飴巻をもち行列を組んで各戸をまわる。 | | |
| 13 | 24 | * | 久保保村 | なんまいだ(百万遍) | 久保保地区 | 8月下旬 | | 無病良薬・苦虫御饌の儀式として子供たちが先頭にポンゼン、尾をさがす。その後に大きな飴巻をもち行列を組んで各戸をまわる。 | | |
| 14 | 3 | * | * | つっかけまんどう | 川越地区八幡宮 | 9月28日～9月29日 | 子ども会育成会 | 2歳のまんどうが、神社に飾られた神像ややらの神像をまわる。 | 盛ん | |
| 15 | 17 | 沼田市 | 沼田町 | 十二山神まつり | 御町 | 11月2日(12月) | 町内 | 町内の十二軒の神間で譲りをつき山の神の御輿を行っているものである。 | 盛ん | |
| 16 | 27 | * | * | お銀音祭 | 沼田治 | 4月26・29日(日3月15日を日曜) | 正覚寺 | 百石組の祭典で銀音と呼ばれる。銀音が開かれ、境内には見物客や屋や商店などが出で、音が聞かれる。 | 盛ん | |
| 17 | 15 | * | * | 茅のぼりぐり | 中町頤賀神社 | 8月21日～9月1日(日7月25日) | 頤賀神社氏子連 | 頤賀神社の御神幸祭・乙姫命が御神幸する御神幸の神、麻衣経業と結びつきの縁を説いて疫病から荒れた飯田に立ち、茅のぼりをくくると魔除けとなる。 | 盛ん | |
| 18 | 15 | * | * | 原田の大祭り | 高崎町 | 10月15日～16日 | | 祭が終わると子供たちが家をまわる。また、豆がならごを集め、それを夜燃やす。この火は悪魔を払い、夜魔趕けとなる。 | 盛ん | |
| 19 | 23 | * | 利南村 | 富士大作現まつり | 新町 | 消滅 | 富士浅間神社? | 富士浅間御廟の一つでリラを盛大に燃やし、境内では相撲大会が行われていた。 | 廃絶 | |
| 20 | 15 | * | 池田村 | 獅子神楽 | 岡谷町 | 4月3日 | 岡谷地区 | 獅子頭をくわい、悪魔払いのために舞う太鼓で柴振り。岡谷地区の各町をまわる。 | 順調 | |
| 21 | 24 | * | 湯河村 | 百万遍 | 町内 | 7月7日～7月9日 | 地区を2つに分けた西と東。夕方より子供達が鼓や太鼓を鳴らしながら凱旋を持って村中の各戸の庭をまわる。 | 盛ん | | |
| 22 | 12 | 川田村 | 湯の平地藏造まつり | 若本町田幸寺地藏 | 3月21日 | | 地蔵の霊の不満足が祀られる。この地蔵は子供の安全を願うされ、祭日にはタジなども行われる。 | 順調 | | |
| 23 | 17 | * | * | 天狗ま | 上川町東光寺、鶴山 | 4月1日・10月1日 | 鶴山(鶴山) | 鶴山(鶴山)はアツミ天狗が祀られ、コモリになってるといわれる。而神津にござるものとおぼれに崇めてて、悪魔を守らせる。 | 順調 | |
| 24 | 15 | * | * | マダラ様のまつり | 下川町十二越 | 4月24日・9月24日 | 下川町地区 | 通水守持の夢多利禪を祀るもので、祭日には魔除が開かれ、のぼり旗が立てられ、お札が配られる。 | 順調 | |
| 25 | 17 | * | * | 高瀬の春まつり | 裾原郡高瀬町の観音堂 | 4月28日 | | 馬の守禪として祀られる裾原様。馬が死骸・駄馬の時や出かけるときにお香ををして馬の解絆薬・駄の安全を祈る。 | 順調 | |
| 26 | 2 | 月夜野町 | 桃野村 | 茂左衛門地藏尊絆日 | 月夜野千日堂 | 3月21日・9月23日 | 茂左衛門保委員会 | 茂の地蔵をもとめて奈良民もいた左近門の駄馬としてしき別地蔵尊。千日堂を建てて春節の地蔵奉りをし、豊む。 | 順調 | |
| 27 | 28 | * | * | 月夜野の祇園祭り | 月夜野高瀬地区 | 8月1日～3日 | 祇園祭実行委員会 | 沼澤の大きさとして知ら。祭は毎夜に神を立て、町内を神の渡御がある。一時中断したが、復活した。 | 順調 | |
| 28 | 8 | 新治村 | 久賀村 | 胸形音頭祭 | 頤川胸形山 | 11月10日、10月10日 | 頤川在住者 | 牛馬の除厄、お札を受けることができ、御神酒を振舞う。 | | |
| 29 | 25 | * | * | 十二山神社例大祭 | 永井二丁目・神社 | 4月12日 | 祭存会 | 獅子舞を奉納後、村内巡回をまわり、悪魔払いを行う。途中2回神樂を行う。 | | |
| 30 | 2 | * | 久賀村 湯ノ原村 | 祇園祭 | 頤川・湯宿・布施 | 8月1日 | 各地区単位 | 式典後、山車・神輿の巡行。 | | |
| 31 | 8 | * | 久賀村 | 小池祭 | 東峰頤川 | 11月11日卯の日 | 開催者 | 小池、本多、緋貫の一族の祭りである。一定の場所でホコラを作り、緋貫一同が参加してお祭りする。 | 順調 | 県 |
| 32 | 5 | * | 湯ノ原村 | 地蔵まつり | 下新田但馬院 | 11月23日 | 但馬院裡家 | 里家人が地区から白い袴をお願いし、集まつた白衆を製造して子供を作り上げ、お供えするとともに、子供夜が行われる。 | | |
| 33 | 22 | 高山村 | 中山村 | ドンドン焼き | 奉宿5、五第2、判影3 | 1月14日 | 各地区単位 | 子供たちが中心となり、正月の松飾等のおたきあげを行なう。 | | |

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|------|-----------|--------------|--------------------|--------------|--|----|
| 34 | 24 | 高山村 | 中山村 | 百万遍 | 中山五箇 | 1月27・28日(9月27・28日) | 五箇共和会 | 法螺が住職により鋸絆。参詣者により大きな歓声を贈しながら念仏を唱える。 | 危機 |
| 35 | 17 | * | * | 十二講 | 中山・新田・清水谷 | 2月12日、旧10月12日 | 清水谷郷 | 十二神社に供物を捧げ、7戸の構成員が寄り集い食事をとる。 | 順調 |
| 36 | 8 | * | * | 高岩講 | 中山・新田・清水谷 | 3月15日、旧10月15日 | 清水谷郷 | 中山古墳(清田)の御神体の石を戴ったものが御祖である。御田の娘から伝承だが、現在は7戸の家で石宮に供物を奉げる事となる。 | 順調 |
| 37 | 8 | * | * | 弘法様 | 中山・原・谷地 | 3月21日・9月23日 | 谷地郷 | 弘法様像を行われる事より、期間割合では完全の祭りであったが、現行中止され、後継したものに替わる事となった。 | 危機 |
| 38 | 8 | * | * | お天狗様 | 中山・本宿・清水谷 | 4月8日・10月8日 | 2区(本宿) 初夜 | 源巖山講との開連で、天祖大明神が祀られた。法螺寺住職による祈持風、振舞いがある。かつては露天席も出た。 | 順調 |
| 39 | 28 | * | * | 祇園祭 | 中山五箇 | 7月下旬の土・日(7月25日) | 五箇共和会 | 神事の後、子供・大人の神輿が集落内を練り歩く。 | 順調 |
| 40 | 19 | * | * | 百八灯 | 中山新田 | 8月16日(9月16日) | | 百八燈はえ蓋に火の入った瓶が一般だ。新田では送り番に行う。幕から家の邊に百八本の燈籠に蠟燭を挿し、点す。 | 順調 |
| 41 | 17 | * | * | お十二様 | 中山御剣・向井 | 11月11・12日 2月11・12日 | 向井御剣組 | 遡り番の神の山の神の靈廟をかけ、供え物をする。次の日は眞体まで山仕事をしなかった。 | 順調 |
| 42 | 8 | * | * | 尻高村 不動様祭 | 尻高河内室 | 1月27・28日 | 氏子会 | 10日には不動鼈を拝む人に行、当日は不動鼈を拝んだら、食事をする。不動鼈は丸太の持なので、丸を握る女が主に参詣に来る。 | 危機 |
| 43 | 26 | * | * | 金甲福舟祭 | 尻高開田 | 2月10・11日(2月細前日、当日) | 7区(開田) | 開田舟神社での神事後、山車に子供がお囃子道してのり、地区内を引き回す。 | 盛ん |
| 44 | 26 | * | * | 初午祭 | 尻高北之谷・熊野 | 2月10・11日 | 10区、11区住民 | 北之谷櫛組に供え物をし、招引を行ふ。 | 盛ん |
| 45 | 28 | * | * | 祇園祭 | 尻高の日 | 8月第一日曜(8月1日) | 火の回同会 | 神事の後、神輿をかついで集落内をまわる。 | 順調 |
| 46 | 8 | * | * | 薬師様 | 尻高北之谷 | 11月1日、5日 | 北之谷地区 | 夕方から、露店裏で炎火やおこし、電気のない暖い部屋でローソクを灯し、来客を迎えて食事をする。 | 危機 |
| 47 | 8 | 中之条町 | 中之条町 | 秋葉さま | 伊勢町只削地内 | 1月7日 | | 懇親会等だけでお祭りをする。 | |
| 48 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 西中之条 | 1月14日 | 西中之条講中 | 小正月の行事として、門松を集めて燃やす。 | |
| 49 | 22 | * | * | 鳥追い祭り | 西中之条 | 1月14日 | * | | |
| 50 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 伊勢町只削地内 | 1月14日 | 只削講中 | 昔は子供中心で行っていたが、区で行うようになった。 | |
| 51 | 8 | * | * | 不動祭り | 青山山荘田内不動 | 1月28日 | 世話役4人回り番 | 2才くらいの石の不動が奉母。婦人が主に参詣し、賽銭として菓子懐をもらう。 | |
| 52 | 17 | * | * | えびす講 | 中之条 | 1月20日・11月20日 | | 今はまだ行っていない。 | |
| 53 | 17 | * | * | えびす講 | 西中之条 | 1月20日・11月20日 | | 今はあまりやらなくなつた。 | |
| 54 | 26 | * | * | 龟石福舟祭り | 市城講員の家 | 2月11日 | 六人で講をつくる。 | 宿は待ちまわり、2月9日は供え物つきり、10日は女が福舟宮の御饌。11日は祭日。夜は挨拶で御軸を飾る。 | |
| 55 | 26 | * | * | 福舟祭り | 青山原の福舟のお宮 | 2月11日 | 1年交代で説話人 | 説話人はお鉢、甘酒を貰う。宮崎神主が伴む。 | |
| 56 | 26 | * | * | あき山大黒天まつり | 西中之条 | 2月11日 | 西中之条講中 | ミニ歌舞がでたり、くじ引きを行う。 | |
| 57 | 26 | * | * | 福舟様まつり | 伊勢町 | 2月11日 | 伊勢町講中 | 福舟の福舟講でお祭りをする。山札・ハサを説話にあた人にくれる。神主もたのむ。 | |
| 58 | 8 | * | * | 觀音祭り | 青山圓通寺跡の觀音堂 | 3月11旬の日曜日 | 青山講中 | 宗派の御物が伴む。各自で福餅を出す。 | |
| 59 | 17 | * | * | 地神講 | 伊勢町 | 春秋の社日の日 | 講中 | 宿に集まり御軸を掛け、拌んで酒食をともにする。20人ほど。 | |
| 60 | 17 | * | * | 十二講 | 伊勢町 | 4月第1日曜日 | 講中 | 昔は2月1日であった。神主に来てもらい、宿(回り番)で酒食をともにする。正直明神も一緒にお祭りをする。 | |
| 61 | 17 | * | * | 太子講 | 伊勢町 | 4月20日頃 | 講中 | 昔は青葉神社の南、名久田川の堤上。代参の後、全員集まりお札を配り費用を集め。代参の前におたきあげ。 | |
| 62 | 28 | * | * | 天王祭り | 青山永井正巳宅 | 7月21日 | 話題は子供たち 青山講中 | かつては、子供たちが宮を担ぎ、各家を回り、太鼓をたたきお払い。現在は地内を回らない。 | |
| 63 | 28 | * | * | 祇園祭 | 中之条 | 8月1日 | 中之条講中 | 昔は6月だったが、農耕期のため8月1日に変更されている。 | |
| 64 | 28 | * | * | 祇園祭り | 伊勢町 | 9月第1土・日曜日 | 伊勢町講中 | | |
| 65 | 8 | * | * | 二十三夜講 | 伊勢町 | 毎月23日 | 講中(女性) | 以前は太陽體の23日に宿に集まり就寝して月の待ちで全員で月を拜んで解散。現在は太陽祭。4・10月大祭。 | |
| 66 | 8 | * | * | 三峰講 | 伊勢町 | | 講中 | 9月(上6下6)、代参4人、行く前に古いお札をおきあげる。帰ってから代参、お宿に集まりお札を配り。就寝。 | |
| 67 | 8 | * | * | 秋葉山 | 青山 | 毎月7日、5~8月は農耕期で休 | 5~9人ほどのグループ | 秋葉春や秋葉神社と記す御軸を拂み、縁香を立てる。飲食や世間話をする。 | |
| 68 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 御殿坂・豊丘・長谷・長良 | 1月14日 | 各組単位 | | |
| 69 | 8 | * | * | 秋葉さま | 横尾長久保 | 1月24日頃 | 長久保中 | 神官による社前祭後、厄年の者による酒肴等の配付。 | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|-------------|--------------|----------------------------|-----------------|---|---------------------------------|----|--|
| 70 | 17 | 中之条町 | 名久田村 | 地神様 | 横尾振袖 | 3月と9月の社日 | 有志3戸 | 御袖を振り、地神を祭る。 | | | |
| 71 | 8 | * | * | 石食稻荷祭り | 横尾山中 | 4月9日頃 | 高津・長久保全城 | 太々神樂奉納、福引。 | | | |
| 72 | 8 | * | * | 八幡様 | 横尾八幡神社跡 | 4月15日頃 | 八幡・西久保・上の原中 | 神を祀り。販賣を行う。 | | | |
| 73 | 8 | * | * | 大日如来まつり | 横尾八幡神社跡 | 4月15日頃 | 照鏡中 | 五色糺を立て、戦死者供養。輪番宿で御国を掲げる。 | | | |
| 74 | 8 | * | * | 豪御様 | 横尾長久保中 | 4月29日 | 長久保中組 | 大般若の日に代表2名(輪番)が赴きお札を受けて帰り全戸へ配る。 | | | |
| 75 | 17 | * | * | 十二講 | 平字妻 | 1月11日 | 宇妻有志 | お日待ちにつき日引に行われる。娘は誰中各戸巡回。 | | | |
| 76 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 平字妻・2区・3区・4区 | 1月14日 | 各地區単位 | | | | |
| 77 | 8 | * | * | 三峰講 | 平字妻 | 1月19日 | 宇妻有志 | お日待ち。 | | | |
| 78 | 8 | * | * | 不動様 | 平3区・4区 | 1月28日 | 福人有志 | 長尾山の湧き水へ水まいに登る。 | | | |
| 79 | 26 | * | * | 稻荷様まつり(初午) | 平字妻 | 2月11日 | 宇妻中 | 1戸1人が出でかさごを作り灯籠をたてる。 | | | |
| 80 | 26 | * | * | 稻荷様まつり | 平 | 2月11日 | 世話人8人 | 平福寺神社例大祭。半の2・4区で想る。宵に行灯30個を奉納する。雛を立て、太鼓を奏す。 | | | |
| 81 | 8 | * | * | 毘沙門天祭り | 平家の庭 | 春分の日 | 平中・能代及び世話人 | 大收の後、御舞子舞を奉納。 | | | |
| 82 | 8 | * | * | 不動様のまつり | 平字妻 | 3月28日 | 宇妻中 | 参拝時に赤瓶を酒呑す。 | | | |
| 83 | 8 | * | * | 觀音様の祭り | 平字妻・白井沢 | 4月18日 | 白井沢 | 供物を神げ。参拝者には赤瓶を振舞う。 | | | |
| 84 | 17 | * | * | 十二神 | 平遠望山山頂 | 9月19日 | 平中 | 供物・赤瓶・清酒を捧げ。登山道に添い赤を張る。 | | | |
| 85 | 8 | * | * | しょうほう講 | 平字妻 | 12月3日 | 宇妻有志 | 現在中3名。各戸輪番。毎回講立ててし。小豆粥を食す。「しょうほう」の意味は不明。 | | | |
| 86 | 8 | * | * | 西向き觀音祭り | 大坂西向き顕音 | 1月18日 | 大坂の区長、祭り世話人 | 昔は若者が音頭をとる。雷付を出し、くじ引きなどもある。 | | | |
| 87 | 8 | * | * | 十二講と祭り | 大坂十二さん参道・境内 | 2月10日延と宵 | 竹貝川集落の人 | 以前は毎月雷持ち回り、神楽・相撲をした。今は年一度、2月10日、延は境内で飲食。夜は参道に行灯を打す。 | | | |
| 88 | 8 | * | * | 越尾不動祭典 | 大坂不動堂境内 | 4月29月の第2日(今は古い山日) | 9区区長、班長8人 | 新嘗の音不動を始詔。以前は獅子舞もあり。お経の後、くじ引きや飲食。 | | | |
| 89 | 8 | * | * | 八幡神社の祭り | 大坂八幡神社境内 | 10月10日前後の日曜日 | 11区 | 秋の道場講終了後、轍、太鼓。 | | | |
| 90 | 8 | * | * | 塙姫さんの講 | 大坂竹貝戸 | 月末の都合の良い日 | 竹貝戸の3軒で講 | 女性の講。以前は隣町尻高の人も参加。茶菓子と雑談。 | | | |
| 91 | 26 | * | * | 桔梗様 | 赤坂12区・13区 | 2月11日 | 12区・14区 | 轍をして、懇親。 | | | |
| 92 | 29 | * | * | 天神講 | 赤坂並瀬 | 2月25日 | 蟹瀬17戸 | 講中17戸より輪番宿に集合。供え物の後、懇親。 | | | |
| 93 | 8 | * | * | 豪御様 | 赤坂豪御堂 | 4月8日 | 下赤坂(12区)42戸 | ご馳走持参し、懇親。百萬の鰯珠・古文書保存。 | | | |
| 94 | 17 | * | * | 參取13区 | | 4月12日・10月12日 | 13区 | 寄付を募り、供え物をして祭る。福引を行う。 | | | |
| 95 | 8 | * | * | お天狗様 | 赤坂12区天狗社前 | 4月15日 | 下赤坂(12区) | 神主を頼いて死る。後、懇親。 | | | |
| 96 | 8 | * | * | お日待ち | 赤坂並瀬 | 5月10日 | 蟹瀬17戸 | 供え物をし、輪番宿に集合し、蟹瀬の神を祀り。懇親する。 | | | |
| 97 | 8 | * | * | 庚申講 | 赤坂中組輪番宿 | 当番宿主にて日時を決める | 中組6戸 | 当番宿にて懇親。 | | | |
| 98 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 輪番前薪田・中村・輪番穴 | 1月14日夜(前薪田・中村) 15日(輪番穴) | 輪番6戸・中村4戸・輪番穴2戸 | 此話人 | お堂の講習と供養のお祈り。 | | |
| 99 | 8 | * | * | 十王堂供養 | 輪番中村 | 1月16日、8月16日 | 輪番全3戸 | 御袖を掛け、夜のお祭り。昼間、地蔵に赤瓶を供える。 | | | |
| 100 | 17 | * | * | 地神様 | 輪番福寿穴 | 3月8日、9月社日 | 輪番全3戸 | 御袖全3戸 | 秋葉山；山頂にボンテン立て、天神さん；福引あり、1月3点奉納。 | | |
| 101 | 8 | * | * | 秋葉さん・天神さん祭り | 輪番ハダカヤ山頂 | 4月1日 | 輪番全3戸 | | | | |
| 102 | 22 | * | * | 伊勢村 | ドウロクジンまつり | 五反田 | 1月14日 | 各小字ごとの道陣神祇 | | 順調 | |
| 103 | 8 | * | * | 觀音様まつり | 五反田 | 2月17日(中旬) 3月18日(上旬) | 中組・上組 | | | 順調 | |
| 104 | 8 | * | * | 十日夜 | 五反田 | 3月1月10日 | 1月10日 | 十日夜 | | | |
| 105 | 8 | * | * | 観都神社のまつり | 五反田観都神社 | 5月5日 | 五反田村中 | 伝承単位で行う。 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----|----|------|-----|---------------|-------------------|-----------------|------------------------------------|--|
| 106 | 8 | 中之条町 | 伊村参 | 金神社 | 五反田 | 1月 | 馬込組 | 春の道普請後、ボンサンをたてる。 |
| 107 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 五反田 | 11月23日 | 伝長組 | |
| 108 | 24 | * | * | 企念謙 | 五反田 | 御藏の夜 | 伝長組 | |
| 109 | 8 | * | * | 不動まつり | 五反田・山の不動尊 | 春秋2回 | 上組 | 地神祭ごとに。 |
| 110 | 8 | * | * | 庚申講 | 五反田 | 庚申の日 | 庚申組 | 毎年交代あり。 |
| 111 | 17 | * | * | 地神講 | 五反田 | 社日の前日（2回） | | |
| 112 | 8 | * | * | 三峰講 | 五反田 | 4月 | 間小組・大久保組・西山組 | |
| 113 | 8 | * | * | 秋収さま | 五反田 | 春秋2回 | 馬滑組 | |
| 114 | 8 | * | * | 薬師絆 | 五反田 | 旧10月10日を中心7日 | 下組 | |
| 115 | 8 | * | * | お日待ち | 五反田 | 春秋2回 | 上組 | |
| 116 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 岩本各地区 | 1月14日 | 各区ごと | |
| 117 | 8 | * | * | 初不動まつり | 岩本高麗不動さん | 1月28日 | 上之台・高麗計35戸 | 湯美寺の御商さんにお經をあげてもらう。 |
| 118 | 8 | * | * | 子育地蔵のお祭り | 岩本上郷地蔵堂 | 2月24日 | 信仰者 | 地蔵堂に集まり十三仏の御軸を掛け、お経をあげていた。現在は中止。 |
| 119 | 24 | * | * | てんどう念佛 | 岩本上郷地蔵堂 | 春彼岸中日 | 信仰者 | 地蔵堂に集まり、お経をあげていた。現在は中止。 |
| 120 | 8 | * | * | 薬師絆の祭り | 岩本寺尾 | 4月8日 | 寺尾会 ^{18戸} | 現在法事さんはたのまない。 |
| 121 | 8 | * | * | オロカブさんの祭り | 岩本湖桃田 | 4月8日 | 下久保 | 福引あり。 |
| 122 | 8 | * | * | 御祖さんの祭り | 岩本高麗地内 | 5月5日 | 上組・下組 | お宮の前で神事とボンダン立て。福引きを上組・下組交代で奉納。 |
| 123 | 8 | * | * | 八坂神社・三峰神社祭り | 岩本お天狗やま | 5月5日 | 3区合計45戸 | 神主による祈祈。以南サンティサンとも呼ばれ、お座の神として拝んでいた。 |
| 124 | 16 | * | * | 石尊さん・お雷電さん祭り | 岩本上郷地内山崩 | 8月7日 | 懇幹季と上組有志 | 石尊さんまでの厄除とボンダン立て。お衣がえ。 |
| 125 | 8 | * | * | 不動さん祭り | 岩本高麗不動さん | 9月28日 | 上之台・高麗計35戸 | 湯美寺の御商さんによる祈祈。 |
| 126 | 8 | * | * | 諏訪神社嚴嶽祭り | 岩本諏訪神社 | 11月27日 | 岩本氏子 | 神事後、上級は個別に米を献款。中・下級は祭り仲事がまとめて献款。 |
| 127 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 鶴川各地区 | 1月14日 | 各地区単位 | |
| 128 | 26 | * | * | 福荷祭り（細乍） | 鶴川大倉・池田 | 2月11日 | 行沢・太田畠・百々・通田 | 拜札場、境内で福引き、各5点奉納。 |
| 129 | 8 | * | * | ねはん祭 | 鶴川貢地内 | 2月15日 | 鶴川駒の12戸 | ねはん船の御舟を掛け奉香と立てて拝む。宿泊の舞いで直合。ヤシケウシマ（コモモチ）を供える。 |
| 130 | 8 | * | * | 安宿さんの祭り | 鶴川貢沢安宿山 | 2月24日 | 倉沢組13戸 | 怨角と神事。 |
| 131 | 8 | * | * | 秋葉さん祭り・金堤羅山祭り | 鶴川越・大龜 | 3月10日前後の日曜日 | 大龜組15戸 | 金堤羅山は山の中腹にあるため、若者が二へい・しめをもって山に登る。 |
| 132 | 8 | * | * | 秋葉さん祭り | 鶴川錦 ^{1戸} | 3月15日近くの日曜日 | 東二組全戸 | 神事後、福引1戸3点奉納。1年おき。 |
| 133 | 8 | * | * | 塙平賀音お祭り | 鶴川塙平 | 3月17日に近い日曜日 | 塙平 ^{1戸} ・削石 ^{8戸} | お坊さんが来ての祈祈。 |
| 134 | 8 | * | * | 豪音さん・お雷電さん祭り | 鶴川宇原野地区 | 3月23日に近い日曜日 | 宇野原 ^{15戸} | 豪音さん：3月23日、お雷電さん：4月25日だったが、現在は一緒に。ギンザンをもって鶴川街雷電宮に登る。 |
| 135 | 17 | * | * | お十二歳祭り | 鶴川行沢地内 | 4月12日 | 行沢4戸 | しめ縄・ご幣を新しくして拌祝。 |
| 136 | 8 | * | * | アレーリー（荒船）鍛冶さん | 鶴川富士沢 | 4月18日近くの日曜日 | 東二組全戸 | 新御後、福引1戸3点奉納。1年おき。 |
| 137 | 8 | * | * | 稚現さん祭り | 鶴川越 | 11月10日前後の日曜日 | 大龜組 | |
| 138 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 鶴川大龜・池田・倉沢 | 11月18日～20前後の日曜日 | 各組 | |
| 139 | 8 | * | * | 椎野神社嚴嶽祭 | 鶴川椎野神社 | 11月28日 | 鶴川・大道氏子 | 嚴嶽玄界（ウルチ）1升、令1344戸。 |
| 140 | 8 | * | * | 庚申祭り | 鶴川宇原野 | 年6回 | 講に入っている家 | 掛軸を掛け、うどんを食べる。 |
| 141 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 大道・櫻石・行沢 | 1月14日 | 各組祭祝 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|-----|---------------|------------|-----------------------|--------------|---|------------------------|--|--|--|
| 142 | 17 | 中之条町 | 伊参与 | 地神様・社日のお日待ち | 磐石 | 3月の社日 | 磐石金337戸 | 3月に社日前後、宿廟番で夕食振替物を掛けお祭りをする。 | | | | |
| 143 | 8 | * | * | 十二講・お日待ち | 大造長坂 | 4月11日 | 長坂金33戸 | お十二さんが2体あります。娘は順番でしの祠を振り（2ヶ所）、お日待ちをする。 | | | | |
| 144 | 8 | * | * | 八坂神社のお祭りとお日待ち | 大道 | 5月3日 | 大道郷 | お日待ちをして、獅子舞を奉納する。 | | | | |
| 145 | 17 | * | * | 地神講・社日のお日待ち | 大道長坂 | 9月の社日 | 大道16戸・長坂3戸 | 御輿を掛け、お祭りをする。 | | | | |
| 146 | 8 | * | * | 天狗講 | 大道 | 12月10日 | 大道全戸16戸 | 石宮2ヶ所にポンダン2本を立てる。ご幣束を新しくして祈祷してもらう。 | | | | |
| 147 | 17 | * | * | 高沼田村 | 高沼山入り | 山田十二社 | 1月3日 | 高松謹中 | 高沼・櫛沢十二社を祝い、山仕事の安全を祈る。 | | | |
| 148 | 22 | * | * | 大竹ドンドン焼き・鳥島イ勢 | 山田邑中 | 1月14日 | 大竹謹中 | 山車を引き、延太鼓を打ち村中の喧騒をなし、河原堂に集まり打ち上げる。同じ日にドンドン焼きも行う。 | | | | |
| 149 | 8 | * | * | 高沼火事祭り | 山田 | 1月19日（山田郷）12月20日（高沼郷） | 町田郷・高瀬郷 | 女祭りで、祇園に寄り合い次の福心を申し合わせる。 | | | | |
| 150 | 8 | * | * | 大竹五社祭 | 山田善源・中居・下原 | 2月1日（高瀬・中居）2月2日（下原） | 祭祇 | 各戸4番で舞い（頭振る舞い）、神官を頼んで参拝。 | | | | |
| 151 | 3 | * | * | 中島天狗祭 | 山田天狗社 | 2月卯日 | 10戸 | 火焚天狗祭り。お祭りをする。 | | | | |
| 152 | 8 | * | * | 庚申講 | 山田 | 2月・11月 | 2戸 | 講組が此ったため、年2回のみ行われている。 | | | | |
| 153 | 16 | * | * | 上の中島瀧祭 | 山田下山田牛番制宿 | 3月10日 | 祭祇14戸 | 瀧瀧を望む真質の酒き水あり。流れを神託と呼ぶ。下流の住民、水を感謝して社建立。当たり日にお祭りを行う。 | | | | |
| 154 | 8 | * | * | 鏡音祭 | 山田善福寺境内 | 3月18日 | 社家全戸 | 納経後、縁引あり。 | | | | |
| 155 | 8 | * | * | 大竹泥沙門天祭 | 山田中島泥沙門堂 | 被原 | 祭祇29戸 | 当たり日に納経、祭祇員集い酒宴。春秋院泥沙門堂。被原は春祇辱のみとなる。 | | | | |
| 156 | 8 | * | * | 加性善跡様祭 | 山田加性善跡堂 | 被原 | 祭祇10戸 | 善跡加性本像・本堂3（1560年3月24日）。堂において行われる。 | | | | |
| 157 | 8 | * | * | 上養天狗祭 | 山田上の山天狗社 | 4月1日 | 祭祇12戸 | 昭和4年、天狗社建立。有志は名石社に附す。当日火焚天狗祭りで組員集いお祭りを行なう酒宴を催す。 | | | | |
| 158 | 8 | * | * | 中の天狗祭 | 下山田天狗社 | 4月15日 | 祭祇6戸 | 祭祇年番制で酒肴を調べる。室内安全を祈る。 | | | | |
| 159 | 8 | * | * | 大竹河原堂觀音 | 山田大竹河原堂 | 4月18日 | 祭祇25戸 | 各組員会費を運営。お参りに際しては供物が振る舞われた。古くは山車を引き馬追いの厄払いが行われた。 | | | | |
| 160 | 8 | * | * | 高沼大師講 | 山田高沼大師堂 | 4月20日 | 高沼金3戸 | 想り世話を年番とし、お祭りをする。古くは太々神事の奉納もあった。 | | | | |
| 161 | 8 | * | * | 麻多利神祭 | 山田下山田田社跡 | 4月24日前後の日曜日 | 下山田金3戸 | 一区公民員集い花見の宴となる。村人の競勝を図るため古くから行われた行事である。 | | | | |
| 162 | 8 | * | * | 浜沢不動祭 | 山田大竹浜沢不動尊 | 4月28日 | 祭祇28戸 | | | | | |
| 163 | 8 | * | * | 大竹古跡講 | 山田 | 4月下旬 | 講組25戸 | 稻本稻古跡神社参り。 | | | | |
| 164 | 8 | * | * | 舟天祭 | 山田瀧水舟天堂 | 5月4日 | 瀧水27戸 | 神官のお祓いを受け、瀧水集落中の祭り。天明2年建立。全戸集い酒宴あり。 | | | | |
| 165 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 山田各地區集合所 | 11月23日 | 下山田・大竹・瀧水・高沼 | 各集落ごとに集合し実施される。 | | | | |
| 166 | 17 | * | * | 地神講 | 折田 | 3月17日、9月23日 | 7戸・当番制 | 豈作祈祭・迷惑祭・御祓。 | | | | |
| 167 | 24 | * | * | テントウ念仏講 | 折田 | 被原中日 | 下折田13戸・各戸年番制 | 日の出より没まで毎日で毎日で念仏を唱えてお互いの先祖を供養する行事。 | | | | |
| 168 | 8 | * | * | 荒沙門さん | 折田 | 4月13日・10月13日前後の日曜日 | 堂境内・祭祇6戸 | 納経・御饌。肴を各自持参し、要会。 | | | | |
| 169 | 8 | * | * | 成田不動 | 折田 | 4月28日前後の日曜日 | 25戸 | 獅子舞を奉納、家庭安全を祈る。4月28日大祭、折田金戸の祭りとなる。縁引あり。 | | | | |
| 170 | 8 | * | * | 天神講・御講講 | 折田 | 9月25日 | 中折田講中 | 道路清掃施行後、境内にて懇親会を行う。 | | | | |
| 171 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 折田 | 11月23日 | 上折田講中 | 豈作感講の祭りを行なう。 | | | | |
| 172 | 8 | * | * | 森上才日持 | 折田 | 毎月14日 | 才日持組26戸・年番制 | 組の親交を深めるため毎月集まり感講する。 | | | | |
| 173 | 8 | * | * | 森下才日持 | 折田 | 毎月14日 | 順番制 | 組の親交を深めるため毎月集まり感講する。 | | | | |
| 174 | 8 | * | * | 原庭度申講 | 折田 | 福月庚申前後の土曜日 | 講組20戸 | | | | | |
| 175 | 8 | * | * | 水田組皮事講 | 折田 | 講月當日 | 講組5戸 | | | | | |
| 176 | 8 | * | * | 庚申講 | 折田 | 当たり日 | 5戸 | | | | | |
| 177 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 下沢瀧翁田9区 | 1月14日夜 | 上網・下羅・加賀郡・新道 | 各地区に分かれて実施。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|-----------|------------|--------------|---------------|--|--|--|--|
| 178 | 22 | 中之条町 | 沢田村 | ドウロクジンまつり | 下沢渡祖神の十字路 | 1月14日夜 | 中郷（10区） | 道祖神にシメを振り。酒を振る舞う。 | | | |
| 179 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 下沢渡金原 | 1月14日夜 | | 金原と沢口に分かれで行う。厄年の人がみかんを配る。 | | | |
| 180 | 8 | * | * | 地蔵まつり | 下沢渡金原 | 1月16日、8月16日 | 世話人 | 世話人（懸り世話人）が交代でです。 | | | |
| 181 | 27 | * | * | えびす講 | 下沢渡舟中郷 | 1月20日、11月20日 | 菅田（9区）中郷（10区） | 各戸で実施。 | | | |
| 182 | 8 | * | * | 觀音まつり | 下沢渡中郷の觀音様 | 3月 | 中郷（10区） | 村中で赤瓶を供える。ヤキマンジュウを子供たちにやる。 | | | |
| 183 | 8 | * | * | 觀音まつり | 下沢渡舟千穂觀音 | 4月17日 | 菅田（9区） | 参詣人に甘酒などで接待。婦人部が中心で出る。 | | | |
| 184 | 26 | * | * | 稻荷祭り（初午） | 下沢渡訪神社 | 2月11日 | 下沢渡集中 | | | | |
| 185 | 8 | * | * | 不動まつり | 下沢渡金原・原口 | 4月28日、9月28日 | 金原・原口講中 | 交通安全不動を祭る。20軒くらいの人が集まり3時より宗本寺の住職が各家をまわる。 | | | |
| 186 | 28 | * | * | 祇園祭り | 下沢渡中郷 | 8月1日 | 中郷（10区） | 中之条10区と沢田10区の交流で、中之条祇園祭に子供たちが参加する。 | | | |
| 187 | 8 | * | * | 秋祭り | 下沢渡訪神社 | 9月第2土曜日 | 下沢渡集中 | 獅子舞をやり、下沢渡をまわる。 | | | |
| 188 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 下沢渡金原 | 11月23日 | 金原郷 | 2～30年歳暮では実施していたが、今はやっていない。 | | | |
| 189 | 15 | * | * | 青祖神祭 | 上沢渡沢温泉 | 1月14日 | 区内2名祭典係 | 夕方正松舟を青祖神前で燃やし、無病息災を祈る。社頭より太鼓・屋笛で各家路を島造歌を合唱、室内安全を祈る。 | | | |
| 190 | 15 | * | * | 直祖神祭 | 上沢渡久森 | 1月14日 | 久森・前尻16軒 | 門松、ダム火を燃やし、無病を祈る。 | | | |
| 191 | 8 | * | * | アキヤサン | 上沢渡官舎山秋葉神社 | 1月24日、11月24日 | 6区内祭典係2名 | 早朝秋葉神を御影、安全を祈る。 | | | |
| 192 | 8 | * | * | 栗駒さん | 上沢渡大岩灘詠神社 | 4月7日 | 氏子大岩駒典係 | 夕方祈祷し、安全を祈り奉納をすると。 | | | |
| 193 | 8 | * | * | 栗駒さん | 上沢渡反下山 | 4月8日・10月8日 | 氏子 | 赤瓶を引き奉納、感謝をすると。 | | | |
| 194 | 8 | * | * | 上沢渡神社春・秋祭 | 上沢渡波神社 | 4月14日、10月20日 | 6区内氏子 | | | | |
| 195 | 8 | * | * | おくまんさん | 上沢渡蛇野郷神社 | 4月14日、9月29日 | 蛇野氏子 | 年2回、五穀豊穣、感謝を祈る。会食・致謝をする。 | | | |
| 196 | 8 | * | * | ひめみやさん | 上沢渡牧場御宮神社 | 4月14日 | 牧場氏子 | 五穀豊穣、感謝を祈る。 | | | |
| 197 | 8 | * | * | 押野講 | 上沢渡大岩灘詠神社 | 4月15日 | 講宿従、大岩駒典係 | 詠説神社参拝、茶飲・致謝をする。 | | | |
| 198 | 8 | * | * | 大岩不動尊 | 上沢渡大岩不動尊 | 4月27日、9月28日 | 大岩区内 | 大岩獅子舞を奉納、会食・致謝をする。 | | | |
| 199 | 8 | * | * | 諏訪神社祭 | 上沢渡諏訪神社 | 4月27日、9月28日 | 大岩区内 | 大岩獅子舞を奉納、会食・致謝をする。 | | | |
| 200 | 8 | * | * | 大黒天祭 | 上沢渡大岩 | 4月28日 | 大岩祭典係、講宿従 | 大黒天に感謝、祈祷をする。 | | | |
| 201 | 16 | * | * | 石尊山 | 上沢渡久森 | 7月28日 | 久森・前尻16軒 | 注連縄を張る。 | | | |
| 202 | 8 | * | * | 秋葉山 | 上沢渡久森 | 9月27日 | 久森・前尻16軒 | 注連縄を張る。 | | | |
| 203 | 8 | * | * | 諏訪神社 | 上沢渡大岩灘詠神社 | 9月27日 | 氏子 | 五穀豊穣を感謝し、獅子舞を奉納。会食・致謝をする。 | | | |
| 204 | 8 | * | * | 庚申さん | 上沢渡蛇野 | 庚申の日 | 蛇野9軒 | 宿屋で落成み合・致謝をする。 | | | |
| 205 | 8 | * | * | 甲子まつり | 上沢渡反下 | 甲子の日（年6回） | 反下4軒 | 甲子の日に当番宿で女性が会食・致謝。 | | | |
| 206 | 22 | * | * | ドンドン焼き | 四万 | 1月14日夜 | 各地区 | | | | |
| 207 | 22 | * | * | 鳥遊い | 万新湯・桐ノ木平 | 1月14日 | 新湯・桐ノ木平組 | 若衆が太鼓をたたいて鳥遊いをします。 | | | |
| 208 | 26 | * | * | 稻荷祭り | 万新湯・木平福舟社 | 2月10日 | 桐ノ木平講中 | 子供に朱衣。大人は新年会を含めて4零会の開催をかねて行っている。 | | | |
| 209 | 8 | * | * | 白石不動まつり | 四万稚視現祝 | 4月 | | 永まつを楽しんで行なった。水道の普及で中止。 | | | |
| 210 | 8 | * | * | 茱萸まつり | 四万 | 4月8日・10月8日 | 6常会 | | | | |
| 211 | 8 | * | * | 地蔵まつり | 四万ガニ沢地蔵の祠 | 4月24日 | 12区 | くじ引する。 | | | |
| 212 | 8 | * | * | ハバキヌギ | 四万貴湯満 | 11月23日 | 貴湯満組中 | くじ引する。賞品あり。 | | | |
| 213 | 12 | 六合村 | 入山地区 | おぼやしない | 入山引詔地区長の家 | 旧15月5日 | 引詔地区 | 区長があずき餅をふきの巻っぱにくるんだものを地区の子供たちに振る舞う。由と里の娘と辻に供える。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|---------|---------------|---------------|------------------|----------------|--|-------------------------------------|
| 214 | 17 | 六合村 | 入山地区 | 十二種 | 入山田代原 | 5月 8日 | 豊木・品木・田代原・喜延地区 | 4地区の人が集まり、田代原地区にある十二種のお参りをする。 | |
| 215 | 4 | * | * | 十日夜 | 入山引道地区内 | 田10月10日 | 引沼子子ども会 | 地区の小学生が中心となり行う。落葉を歌い、わら鉢遊を叩きながら踊り。お金もらう。 | |
| 216 | 29 | * | * | 赤岩地区 | 天神講 | 赤岩地区公民館 | 12月25日 | 赤岩子ども会 | 中学生が中心となり。小学生、幼児も地区的公民館に招待して食べ物を販売。 |
| 217 | 8 | 草津町 | 草津村 | 光景寺 | 光景寺花まつり | 5月 7～8日 | 光景寺 | 光景寺信説人 | お駒湯湯の運営と神事。 |
| 218 | 20 | * | * | 永木の節供 | 西の河原公園 | 6月 1日 | 永木の節供実行委員会 | 天田山の水をからんで来た水でお茶をたてて歓会を行う。 | |
| 219 | 2 | * | * | 白根神社祭 | 町内各地区 | 7月 17～18日 | 各地區白根神社氏子 | 神社本拠地や各地区の神例が町中に繰り出す。町民中心の祭りで、夜は湯湯に神例が集まる。 | |
| 220 | 8 | * | * | 草津温泉感謝祭 | 湯畑 | 8月 1～3日 | 草津式典保存会 | 長湯祭りとして始められ。湯畑の温泉湯み上げの後の後、分湯する。 | |
| 221 | 8 | * | * | 金毘羅宮祭礼 | 金毘羅神社 | 8月10日 | 兵子 | | |
| 222 | 7 | * | * | 鬼子母神八助祐荷祭り | 日光寺 | 8月20日 | 日光寺縁代、世話人 | | |
| 223 | 17 | 東村 | 東村 | 十二講 | 広場・中郷 | 5月 2日 | 広場中、下中郷全員 | 梵天を立て、飲食する。 | |
| 224 | 24 | * | * | 高橋平五郎の百万遍 | 五町高橋平五郎地区 | 7月19日(旧8月1日) | 高橋平五郎地区 | 天正元開の平五郎願文設立時より行われ。珠玉約200個、長さ約15mの輪柱にして使用。 | |
| 225 | 8 | * | * | 地神さん(地鎮講) | 奥田下郷 | 春・秋被席柱日 | 下郷有志5人 | 聖天地神の御輿お供物。宿は回り番。 | |
| 226 | 8 | * | * | 秋葉さん(お日待) | 奥田下郷 | 10～4月17日(かつては毎月) | 下郷有志10人 | 秋葉大神の御輿に供え物。懇親。宿は回り番。 | |
| 227 | 8 | * | * | あきやさん(秋葉信仰) | 奥田中郷下 | 11～3月17日(かつては毎月) | 奥田中郷下5戸 | 宿は持ち回り秋葉大神の御輿を振り、供え物をして、飲食する。 | |
| 228 | 28 | 吾妻町 | 原町 | 原町祇園 | 原町地区 | 7月25日・26日 | 原町地区 | 原町の上之町区、下之町区、新町屋、新舟井の四区で祇園祭行。25日宵祭り、26日には荒神行列。 | |
| 229 | 29 | * | * | 岩島鳥 | 天神講 | 岩島古原 | 2月26日・27日 | 今度、小学生になる児童を集め、一夜中楽しく遊び、天神様を祭る。 | |
| 230 | 15 | * | * | つちうらんご | 岩島地区 | 11月30日 | 岩島地区 | 祓禊したとき集めた御飯団(ヲヂウ)を舟にし、舟子にしたものを神體・座敷神等にカサの先に刺して供える悪魔除け。 | |
| 231 | 22 | 福志村 | 今井地 | ドシンジ続き | 各地区 | 1月14日・15日 | 各地区 | | |
| 232 | 22 | * | * | かんじん棒 | 袋倉(上袋倉) | 1月14日 | 子供会 | ワラを編んだ棒状のもので「カンジン、カンジン」と言いながら家のゆをたたき悪魔祓いをする。 | |
| 233 | 22 | * | * | かんじん棒 | 門貝 | 1月15日 | 子供会 | 子供たちが各家庭をまわり、米やお金を集め。 | |
| 234 | 22 | * | * | 舞い込みとだるま踊り | 紫倉(下袋倉) | 1月15日 | 子供会 | 「脳の舞い込み舞い込み」と子供たちが口づつ回り。だらまの頭をかぶり踊り無病息災を願う。 | |
| 235 | 26 | * | * | 初午祭 | 袋倉 | 2月10日(初めの午)の日 | 区 | 細分後、初めての午の日の午五穀の神としての福留明神を祭り豊漁を祈る。悪魔祓いの獅子舞も行う。 | |
| 236 | 25 | * | * | 羅原神社例大祭 | 羅原羅原神社 | 4月30日～5月 1日 | 羅原神社氏子 | 獅子舞の練習及び各戸を回りをして悪魔祓いを行う。 | |
| 237 | 8 | * | * | 天明(御身)禱し業者供奉祭 | 羅原羅原觀音堂 | 8月 5日 | 奉仕会 | 天明二年(1782)御身の噴による犠牲者47人を祀る扶養祭。聖觀音前廣場にて位念・和韻が行われる。 | |
| 238 | 8 | * | * | 十日夜 | 西宿 | 10月10日 | | ワラの芯に「みよしが、いもがら」を入れそれを纏で巻きそれで村中をたたいて回る。モグラを追い払う風習であった。 | |
| 239 | 11 | * | 大前地 | 舞い込みと箭術 | 大前 | 1月14日 | 子供会 | 夜半、子供たちが鳴哨しながら各家庭を回り無病息災を祈る。その時の奉納まで宿へ煮て農作物の出来具合を占う。 | |
| 240 | 25 | * | * | 大前神社祭 | 大前大前神社 | 5月 1・2日 | 大前八十八ヶ禁典誦 | 八八夜の宵禁りと里目の本番があり。獅子舞は神社での奉納舞のはず、地区内をまわる。 | |
| 241 | 25 | * | * | 大銀社祭 | 大銀大銀神社 | 9月16・17日 | 大銀神社氏子 | 獅子舞を奉納し、各戸で本舞を行う。 | |
| 242 | 24 | * | * | 企念講・回り企念 | 各地区 | 農耕期(毎月1～2回) | 老人会等 | 各地域へ老人たちが各戸を回って行う。羅原区では復興祭の犠牲者の供養として毎月7日・14日に行う。 | |
| 243 | 8 | 桐生市 | 桐生町 | 御嶽神社 | 毎月9日前の日曜日 | 講 | | 供物を供え、講主は御嶽神を唱える。 | |
| 244 | 28 | * | * | 八坂祭典(桐生祇園祭) | 八坂神社(本町1～6丁目) | 8月第1金曜日～月曜日 | 懇七祭例会委員会 | 8月第1金曜日から御嶽神出巡、宵祭り、御嶽渡御、本祭り、祝宴、御嶽還御、封箱所引継ぎ、宵祝いで終了。 | |
| 245 | 8 | 広沢村 | 金毘羅のまつり | 金毘羅のまつり | 広沢5丁目金毘羅宮 | 元旦、4月第2日曜日 | 町会 | 新年例祭。4月のまつりとともに、地区住民が社前に集会。宮司の代わりを務める住民により御酒あげ、祥拌。 | |
| 246 | 26 | * | * | 初午 | 広沢町7丁目山の御嶽 | 3月の初午 | 町会 | 草履の大糸が2月の初午の日だからこその、この日の山の御嶽にこもって祈願したのが始まり。 | |
| 247 | 8 | * | * | 日隈地蔵尊 | 寄居日隈地蔵尊 | 4～10月の24日に近い日曜日 | 寄居地区住民 | 御本を立て、説法の後、参拜者は皆御地蔵(地蔵尊を描いた版画)・ごふう(手紙でくるんだお菓子)を配る。 | |
| 248 | 28 | * | * | 天王祭 | 寄居地区石宮前 | 7月20日に近い日曜日 | 寄居地区住民 | 石宮とその隣に3つある寄居塔の前に青竹をたて、祝詞をあげ、地区的無病息災を祈願する。 | |
| 249 | 8 | * | * | 一本木祭り | 広沢町7丁目東澤寺 | 8月23、24日に近い日 | 町会 | 八坂神社のお祭り。東澤寺の地蔵盤を統合。お札を焚き、翌日神例の御渡。 | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|---------------|-------------|----------------------------|----------------|--|--|--|--|
| 250 | 8 | 桐生市 | 広沢村 | 薑師講 | 後谷薑師堂 | 10月15日前後 | 後谷薑師講 | 夕方6時頃。薑師様の御堂に集合し、十三仏を唱えた後、真会。 | | | |
| 251 | 8 | * | * | 庚申さま | 宇西 | 12月中旬ころ | 宇西地区住民 | 庚申塔に行き、おさご（米）と雑香をあげて供む。宿（当番）に行って鉾袖を掛け、供え物をしてお参りする。 | | | |
| 252 | 8 | * | 梅田村 | 鶴音祭まつり | 浅部觀音堂 | 1月16日、8月16日 | 梅田2丁目の7組合 | 7組合が交代で当番。しのに旗を立て、お供えをする。 | | | |
| 253 | 8 | * | * | 庚申さま | 宿 | 庚申の日 | 天神祇（組合） | 宿に集まり、庚申の日詠を掛け、供え物をしてお参りし、各人願い事をする。2・3年前から中断。 | | | |
| 254 | 28 | * | * | 天愁り | 穴切八坂神社 | 3月第1日曜日（以前は7月15日） | 穴切組合 | 宿（当番）が詠送料理・一升搗きのお供えをする。八坂神社の石宮に集まり、供物を供える。 | | | |
| 255 | 3 | * | * | ほんでんまつり | 山の石宮 | 3月第1日曜日 | 上ノ原組合 | ほんでん2本をあらかじめ買っておき、見り口にほんでんを立てる。石宮の前の木と木の間にシメ縄を張り、拌合。 | | | |
| 256 | 28 | * | * | 天愁り | 天神宮さま | 3月第1日曜日（以前は3月3日） | 前東組合 | 当番が供物を用意し、拌合、真会。この時供えたおさごを社頭に配る。お詫が軽く済むという。 | | | |
| 257 | 28 | * | * | 天愁り | 皆沢地区 | 3月第2日曜日 | 皆沢組合 | 集会所で宮司に寄りてもらった御札を種に付け、各家の耕道に立てる。 | | | |
| 258 | 8 | * | * | 愛宕さまのおまつり | 愛宕神社 | 4月3日（築供） | 梅田町6組合 | 6組合が交代で1年ごとに当番。山に登り、石宮に幣帶などの供物を供え、祥礼。 | | | |
| 259 | 8 | * | * | 雷電さまのおまつり | 雷電石宮 | 4月10日前後 | 小谷戸（組合） | 石宮にお詫えと御物を供える。 | | | |
| 260 | 8 | * | * | 弁天さままつり | 弁天様 | 4月15日 | 弁天様の所有物 | 供物やうそくを持っての祠へ行き、御供えをして祥礼。女の方が聲やかに成長するよう祈願する。 | | | |
| 261 | 17 | * | * | 山神さま | 山神神社 | 4月15日に近い日曜日 | 石鶴4組合 | 7刻で行う。根本山神の御殿や十二社など12社に御幣と御神酒を手分けして供える。 | | | |
| 262 | 17 | * | * | おじょうじん（山の神怨り） | 山神神社 | 4月第2日曜日 | 中村（組合） | 7刻で行う。根本山神の御殿や十二社など12社に御幣と御神酒を手分けして供える。 | | | |
| 263 | 17 | * | * | 山神さままつり | 忍山、山神の石宮前 | 4月第3日曜日 | 忍山氏子 | お供え（2段のもち）、赤撒等をせなえ。 | | | |
| 264 | 8 | * | * | 庚申さま | 上ノ原 | 春（4月下旬）秋（10月中旬） | 上ノ原上組合 | 宿（当番）の人が、庚申場にうどん・酒・団子などを供える。 | | | |
| 265 | 8 | * | * | 庚申さま | 宿 | 年に2回春・秋（以前は4月4日） | 東園谷6組合の有志 | 交次で宿をつめ、十三仏の精勤を行け、御物に供物を用意し、灯明と雑香を用意する。 | | | |
| 266 | 8 | * | * | 大黒さまのおまつり | 大黒さま石像と社務所 | 5月第1日曜日（以前は八月十六日） | 金沢組合 | 三峰さまと山の神などの祭り組合、供物を供え、三峰や山の神の石宮まで登り、参拝。 | | | |
| 267 | 8 | * | * | 大黒さま | 大黒神社 | 8月第1日曜日（以前は7月23日） | 大黒神社氏子 | 面面に八丁の神事の御祭りに参る。祝詞をあげ、手布施。役物隊を祈願する。 | | | |
| 268 | 8 | * | * | 観音さままつり | 忍山、觀音堂内 | 9月 | | 3～5年毎に行われる。うどん・煮物・御神酒などを供え、お詫をあげてもらう。 | | | |
| 269 | 8 | * | * | 薑師ごもり | 馬立集会所（元薑師堂） | 相談して決定（例年～11月） （例年9月1日） | 桐生川の西側集落 | 8時ころ、団子・煮物・花・雑香・灯明をあげて除病・災厄祈願を行いう。 | | | |
| 270 | 8 | * | * | 庚申さま | 宿 | 10月か11月の組合の良い日 | 福治3 | 7時に集まり、組合された鉾袖と御物にうどんや料理・酒を供え雑香を立てる。 | | | |
| 271 | 17 | * | * | 山神さまのおまつり | 山神石宮 | 10月10日前後 | 小谷戸（組合） | 石宮にお詫えと御物を供える。 | | | |
| 272 | 8 | * | * | 庚申さま | 宿 | 11月23日（以前は4回） | 中井組合 | 供物をし、祥礼、餅食。 | | | |
| 273 | 17 | * | 川内村 | 山神さまのおまつり | 大上組合 | 4月第3日曜日 | 大上組合 | 山神宮の前に参詣し、御物を供え。お参り。 | | | |
| 274 | 8 | * | * | 阿弥陀さまの供養祭 | 三丁目 | 5月中旬の日曜日 | 壽華会 | 阿弥陀・尊勝に上んし粉と白玉粉で作った団子を供える。 | | | |
| 275 | 8 | * | * | 美輪坐炎供 | 鷲島薑師堂 | 7月第1日曜日 | 鷲島薑師講 | 男性は行灯を用意し、街道沿いで奉く。女性は子母子の組だ。祈願後、お詫り、御席繕ひが行われる。 | | | |
| 276 | 8 | * | * | 観音さまのおまつり | 鴨脛子安祖音 | 8月17日 | 大上組合 | お堂に集まり、組合報告にお詫をした後、真会。点けたらうそくは安産のお守りとされる。 | | | |
| 277 | 8 | * | * | 名久木親さまのおまつり | 光源寺 | 9月10日が当たり日 | 五丁目第4町会 | 真言祭では、お詫の後、正詫。諸導行の後、真会。 | | | |
| 278 | 8 | * | * | 庚申仲持 | 五丁目第三町会 | 庚申の日 | 庚申説員 | 吉田金剛の街に供物と雑香を供える。飲食、歎談。 | | | |
| 279 | 17 | * | 堀村 | 山神さまのまつり | 山神の石宮 | 2月第1日曜日 | 上小友（上・中・下・下組合） | ボンセツを作り、御宵で祥礼し、供物を供える。山の安全、風水警け・火事防げなどを祈願。 | | | |
| 280 | 26 | * | * | 糸屋商店の初夏のおまつり | 糸屋商店 | 8月仲旬に近い日曜日 | 細田・小北・久保田組 | 3度で合費をし合ひ。回り香で当番となつて準備。御祭者は対面のビヤッコ（面白狐）を奉納し、お参り。 | | | |
| 281 | 28 | * | * | 天愁り | 宿 | 3月第1・3の都合の良い日曜日 | 上平下垂めのちの書道會 | 小糸をくわくわいつねに持ち替りうどんを作る。夜の間に小さな机を設け、供物を供え。他の間に向かい拌礼。 | | | |
| 282 | 8 | * | * | 観音様のおまつり | 小雀観音 | 春の彼岸 | 観音近くの7・8軒 | 小雀周辺観音と書かれた顛旗を2本立てる。供物を供え祥礼。御札と赤撒等を参拝者に配る。 | | | |
| 283 | 8 | * | * | 不動さんのおまつり | 不動 | 4月第1日曜日 | 堀町5丁目・堀町2丁目組合 | 供物を供え、詠歌をする。病気平癒と長寿。 | | | |
| 284 | 8 | * | * | 雷電さまのおまつり | 雷電神社 | 4月第1か2日曜日 | 雷電神社氏子 | 梵天を作り、供物用意。露上で梵天を松の木に拂り付け。祥礼。その後、真会。 | | | |
| 285 | 8 | * | * | 子育て観音のおまつり | 子安觀音堂 | 4月第2日曜日 | 茂倉・鰯谷地区 | 供物が供えられ、詠歌。子供の健康祈願。 | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|----------------|----------------|------------------|-------------|--|---|--|--|
| 286 | 8 | 桐生市 | 菱村 | 雷電様のおまつり | 雷電神社 | 4月第3日曜日 | 上小友（3組合） | ボンゼンを作り、山の石落へ行き、木に縛り付ける。供物を供え、拝礼し直会。 | | | |
| 287 | 8 | * | * | お鉢巡りのおまつり | お鉢巡のカゴ（駿馬の鹿踏） | 5月第2日曜日 | 浅倉・朝谷地区 | 1時半ほど山を登り、駿馬のカゴで行く。供物を供え、全員で拝礼。山仕事の安全祈願、現在は各人の願い事。 | | | |
| 288 | 3 | * | * | 横木さまのおまつり | 横木神社 | 7月第1土曜日 | 妻籠聯合 | 概ね2本設置。神事、直会を行ひ、御札を配る。 | | | |
| 289 | 16 | * | * | 石尊さまのおまつり | 石尊神社 | 7月最後の日曜日 | 引田・小松組合 | 八阪神社のお祭りと統合され現在は天王様の御祭り。御幣・火天を木に縛り付ける。 | | | |
| 290 | 8 | * | * | お地蔵さまのおまつり | 地蔵の前 | 8月最後の日曜日 | 上平（上・下轍） | 旗を造る作場にてて、供物を貰える。和謡も行われ。参拜者は拝礼し、歎珠詠りを行う。 | | | |
| 291 | 8 | * | * | 産土さまのおまつり | 産土組合 | 10月第1日曜日 | 引田組合 | 男性だけ石宮に向向き、拝礼。供物を供え、御酒酒で乾杯。後、社務所で女性を含めた全員で拝礼し直会。 | | | |
| 292 | 22 | | | 道除神 | 道除神 | 10月の毎日、各家の都合の良い日 | 道除神の近所5・6軒 | 道除神にお供えをあげ、拝礼する。不自由な足を直すことや難産を祈願。 | | | |
| 293 | 17 | 藤塚本町 | 藤塚本町 | 彦影祭り | 湯ノ入 | 1月14～16日 | | 1月14日は夜に山田から運びてきた山桑の枝にマツダモを木に吊し、神社に奇数個奉納。15・16日の間飾る。 | | | |
| 294 | 28 | * | * | 大原祇園祭 | 大原中町 | 7月最後の日曜日 | 大原5区 | 屋台が出てお囃子を演奏。 | | | |
| 295 | 8 | * | * | 新海堂宮（御祓様）例祭 | 新海堂宮 | 11月第1日曜日 | 下平・杉坂新海堂神 | 春と秋の例祭にひっことこ踊りを行う。 | | | |
| 296 | 3 | * | * | 風の神送り | 湯ノ入 | 12月31日（12月15日） | 湯ノ入育成会 | チラバという葉の茎をついて、葉を立ててその回りを四角形（葉の形）で説み、風の神送りと唱えながら地区内を一巡する。 | | | |
| 297 | 19 | 新田町 | 木崎町 | 地藏盆祭 | 木崎橋下長命寺門前 | 8月23日 | 色地藏奉賀会 | 地藏堂・奉年寺の清音、仮設舞台の設置などを前日に行。当日午後から供養が行われる。 | | | |
| 298 | 8 | * | * | 八幡神社例祭 | 赤坂 | 10月15日 | | 神主・氏子が奉拝の後、獅子舞奉納、村内を一周する。 | | | |
| 299 | 28 | * | * | 福打村 | おぎょんまつり（祇園） | 金井 | 7月25・26日 | 育成会・子供会 | 神樂をめぐらしくて囁く。獅子舞は3体あるが重くて引げず。神社の前に庭に出して置くのみ。 | | |
| 300 | 8 | * | * | 源説祭 | 花子隊 | 8月上旬の日曜日 | 体協・育成会 | 子供会の前祭りとヤクーに參拝した神戸を引きまわす。おはな源説神社直参を各戸に配付。 | | | |
| 301 | 11 | * | * | 雨乞い天王様 | 大根大根神社・矢太神社 | 不定期 | 大根大根社氏子 | 日暮れより朝まで雨乞い神事を行ひまわる。大根大根社は御神事正月に神事を終ひよしと申す。延べ2回もあらわし矢太神社へ祝ひこむ。延べ2回もあらわし矢太神社へ祝ひこむ。延べ2回もあらわし矢太神社へ祝ひこむ。 | | | |
| 302 | 8 | * | * | 生品村 | 般若音講 | 1月20日・2月節分・4月20日 | 四軒の唐輪 | 4月20日は大根で、般若音を祀り、赤面で飲いて飲食する。 | | | |
| 303 | 12 | * | * | 鏡矢祭 | 出野井 | 5月 8日 | 氏子組代会 | 以前は市野井の柳原八幡で行われていた。今は生品神社で新田直苗の鏡自衛隊討伐にちなんで矢を神社で放つ。 | | | |
| 304 | 28 | * | * | 祇園祭 | 市村神明宮 | 7月後半日曜日 | 神明宮氏子 | 屋台でお囃子をしたり、余餌で踊りを行い。最後にくじ引きで景品がもらえる。 | | | |
| 305 | 28 | * | * | 祇園祭 | 小金井 | 7月28日 | | 御神例（大人用・子供用）をかつす。 | | | |
| 306 | 11 | * | * | 雨乞い | 小舟井敷若高寺田分水地 | 不定期 | | 干伏さきの時、八坂王權と呼ばれた10cm足らずの小さい石舟を高田川の分水の瀬に持てて行き水をかけて雨乞いをした。 | | | |
| 307 | 11 | * | * | 笠置不動 | 村田 | 不定期 | | 日並が張る小繩の中に竹刀がある笠置不動は毎年二角ばかりに人れて看人の方も。地区内を歩いてまわる。現在廃絶。 | | | |
| 308 | 15 | 尾島町 | 尾島町 | 獅子廻し | 押切三柱神社 | 7月 1日 | 氏子 | 厄除けを引き、獅子頭に入った神戸の神幸り回り。各戸の屋敷前にてくじ神戸の下を案入がぐり、お札をもらう。 | | | |
| 309 | 28 | * | * | 祇園祭 | 尾島町賀神社 | 7月 19・20日 | 町内・神社絆代推 | 2日間にわたり。各戸内会所に町内30人が集まる。ハヨ町を大人神戸が渡御する。 | | | |
| 310 | 16 | * | * | 水神まつり | 大船子鷲巣地区及び同地先河原 | 7月25日前後の日曜日 | 鷲巣地住民 | 大船には海岸があり、奈良は明らかではないが、奈良と同様に人気がある。船出の時、川筋路鬼屋の行灯を行う。 | | | |
| 311 | 17 | * | * | 忠比呂講 | 尾島電燈神社 | 11月 19・20日 | 神社奉賀会・社主社代 | 神社奉賀会と酒呑堂との合併祭。奉賀会をお勤めした人にお供えと勝負を配る。 | | | |
| 312 | 1 | * | * | 鏡火祭 | 岩松六幡宮 | 12月 15日 | 氏子組代 | 祇園の御神事に奉納された阿波津の鏡子舟で使用的な船を保護しておく。消費に火を ø してお札を奠る。各戸に配る。 | | | |
| 313 | 3 | * | * | 世良田村 | 四國様 | 1月 16日・8月 16日 | 南八区民 | 万灯・逆灯が新しく張り替え。足元。費錢をあげてせんべいをいただく。 | | | |
| 314 | 15 | * | * | ナイダー・ナイダー | 出屋大和神社（行者堂） | 7月 1日 | 出屋木村地区 | 万灯・逆灯に見立てて、円灯を作り、左側に3回「ナイダー・ナイダー」と唱えながら回す。綱を切り、各戸に配る。 | | | |
| 315 | 16 | * | * | 石香祭（アフリ（阿夫利）祭） | 此良田下新田会館 | 7月 25日～8月 16日 | 下新田村民 | 八坂神社の机懸祭了後、アフリ（阿夫利）神社に神施を立て、御殿を中心に西側に岩舟を立ててシメ調を張る。 | | | |
| 316 | 8 | * | * | 義真祭 | 世良田經持寺 | 8月 1日 | 世良田上町・新田・今井 | 世良田村民を祀った祭である。3地区の河川により義真様と呼ばれる木像を本堂前拂堂の前に祀る。御神。 | | | |
| 317 | 16 | * | * | 雨乞い地蔵 | 此良田普門寺（地蔵堂） | 10月第3日曜日 | 下町区民 | 「地蔵尊」の職を見て、紅灯を下げ社灯を立てる。参拜者は猿子を分け、夜になると御膳紙。 | | | |
| 318 | 17 | * | * | 麥がら薬師 | 柏原木本郷地区 | 11月上旬 | 柏原木本郷地区 | 供物を貰えた後、御神。以前は一晩中から（今は古利）を燃やし続けたが、今は燃りの人がいる調だけ燃やす。 | | | |
| 319 | 11 | 太田市 | 太田町 | 御祓神社御御禰禰津 | 金山町御禰神社 | 2月 9日 | 御禰神社氏子 | 大船に御祓をつく。すぐ後に有る御祓は長さ約3mの中央のヨリオサ基盤を二分割してしんし、御祓入りで作業の農田を立てる。 | 順調 | | |
| 320 | 12 | * | * | 伊勢神社弓引き | 内ヶ島町伊勢神社 | 1月 7日 | 伊勢神社氏子 | 神社境内にて。4～6歳の男の弓で矢を1本放ち。子供の成長祈願を祈念して行われる行事。 | 順調 | | |
| 321 | 23 | * | * | 沢野村 | 浅間神社細山参り | 7月 24日 | 浅間神社氏子 | 子供の無事成長を願い、1歳未満の子供をお参りさせる。参拝した後、箭や着物のひもに神社の神印を押してもらう。 | 順調 | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|---------|------|-------------|-----------|----------------|------------|---|----|
| 322 | 1 | 太田市 | 沢野村 | 浅間修火祭り | 吉ヶ町長良神社境内 | 8月26日 | 浅間神社 | 境内にしめを張り、薪を中に山形にして、折柄の後、火をつけオキアケする。火祭除けや安寧祈願。 | 順調 |
| 323 | 26 | * | 沢野村 | 冠稲荷神社初大祭 | 轟谷町冠稲荷神社 | 3月第3日曜日 | 冠稲荷神社氏子 | 獅子舞や厄除け毘奈行列、福井神舞祭(福井鉢、フジワルミサヒ祭、御ノ奉射)などが行われる。 | 順調 |
| 324 | 28 | * | 垂川村 | 祇園祭 | 沖之郷町地区 | 7月第2日曜日 | 沖之郷町地区 | 八坂神社の祇園祭で、式典の後、山車2台を地区内に巡行。祇園電子を奉納する。 | 順調 |
| 325 | 1 | * | 垂川村 | 浅間修火祭り | 茂木町御室神社 | 8月25日 | 御室神社氏子 | 浅間様の境内にしめを張り、薪を中に山形にして、折柄の後オキアケをする。火祭除けや安寧祈願。 | 順調 |
| 326 | 11 | 大泉町 | 小泉村 | くがたち | 上小泉社日神社 | 3~9月の後原に薪も近い田畠 | 社日神社氏子 | 境内に大巫を擺え湯をわかして熱湯を作り、薪の小枝を熱湯に浸して全身に振りかけ。人々の健康を祈願する。 | 順調 |
| 327 | 23 | * | * | 初山 | 下小泉浅間神社 | 6月1日 | | その年に生まれた赤ん坊の額に魔除を祈願して朱印を押す。 | 盛ん |
| 328 | 15 | * | * | 地蔵回し | 潤之原地蔵堂 | 旧8月24日 | 地蔵堂年番 | 地区的無病災厄を除いて地蔵堂に安置される地蔵を巡回トラックに乗せて地区を巡る。音は年番が引けで回った。 | 危機 |
| 329 | 11 | * | 大川村 | つづがい | 鈴石神明宮 | 1月15日 | 神明宮役員 | 茅を編んでスダレを作り。それを小笠がゆの中に入れ、茅笠と小笠のつに入った茅で、その年に毒く病を占う。 | 順調 |
| 330 | 15 | * | * | ささら | 鈴石神明宮 | 年5回実施 | 鈴石ささら保存会 | 新潟県の無病災厄や病除を願って行う茅葺祭。年6月に行い、うち1回は「村回り」として地区内の全てを回る。 | 順調 |
| 331 | 8 | 邑楽町 | 中野村 | 根本様のお祭り | 中野前瀬戸宿 | 1月7日 | 前瀬戸宿地区 | 供物を根本様に供える。以前は4月15日と11月15日に根本様の根本神社に参拝に行つた。 | 順調 |
| 332 | 24 | * | * | 前谷の百万遍 | 中野前谷地区 | 田植え終了後 | 前谷地区 | 直径5cmくらいの豆球を安置し、念仏を唱えながら豆球を回す。5回豆球が回ると二手に分かれもみ合う。 | 順調 |
| 333 | 28 | * | * | 天王の祇園祭り | 中野天王元宿 | 7月14・15日 | 天王地区 | 天王様の社名にある赤、青の2体の獅子が川辺地区的前を回る疫除退散のお祓いをする。 | 盛ん |
| 334 | 16 | * | * | 十三拾塚の石燈籠 | 中野十三塚 | 7月27日 | 十三塚地区 | コウモリの因縁石を燃やして祀る立正だんじ。光明灯である。疫除除けや病除退散をお祓いする。 | 盛ん |
| 335 | 23 | * | * | 浅間修火祭り | 中野浅間神社境内 | 8月21日 | 浅間神社氏子 | 新・札根祭を境内に始め幕上げる。折柳の端、立丸矢、弓矢は道踏と奉御、燃えさきを奉取り家の入り口に置く。 | 順調 |
| 336 | 24 | * | * | 鶴の十六夜念仏 | 中野鶴 | 毎月16日 | 善哉地区 | 仏事会を念仏供養をする。講者がそろそろと20人くらい。 | 順調 |
| 337 | 4 | * | * | 洪沼の花まつり | 石打洪沼阿弥陀堂 | 5月8日前後の日曜日 | 洪沼地区 | 花開堂を阿弥陀堂の前に飾り、その中に御供の供養を喰え、甘茶をかけます。 | 順調 |
| 338 | 8 | * | 高島村 | 一本木の庚申講 | 藤川一本木 | 麦まき後 | 一本木地区 | 稻という当農の家に各家庭からもらひ米を持ち寄り、餅をつき、復申様に供える。 | 順調 |
| 339 | 2 | * | 長柄村 | 馬頭観音の祭典 | 鶴屋馬頭観音 | 8月19日 | 御屋地区 | 神例の渡御、八木屋の上席。以降は、益絆再による駕馬や相模大会などをを行っていた。 | 盛ん |
| 340 | 8 | 船橋市 | 鷺宮村 | 寄宿の庚申祭 | 寄宿町庚申寺 | 11月最後の日曜日 | 庚申講員 | 寄宿地区が東と西に分かれて行。庚申祭の餘物を受け供養を終え五段腰棒を斎行。 | 順調 |
| 341 | 24 | * | 大島村 | 山王金仮屋の念仏 | 大島町山王の地蔵堂 | 毎月3日、13日、23日 | 念仏講員 | 山王の地蔵堂に金仮屋と呼ばれる厄除地蔵があり3のつく日に集まり、念仏を行う。 | 危機 |
| 342 | 23 | * | 蘿麻町 | 花町の富士神社社主 | 花町富士神社 | 4月30日~5月1日 | 富士神社 | 初山とえる子供が参拝し、額に丸い神印を押してもらう。 | 順調 |
| 343 | 10 | * | 赤羽村 | 駒形神社の弓取火 | 上赤生田駒形神社 | 1月25日 | 駒形神社氏子 | 13年に1回、祭礼で当日は馬鹿馬鹿参拝する。火の鳥の所に作る。参加者が弓矢でこれを射る。 | 順調 |
| 344 | 4 | * | * | 子ノ母規様 | 赤生田町子ノ神社 | 3月15日 | 子ノ神神社 | 夏の神様として良く知られ、厄が強くなるようにと参拝する。昔は歌へがなった人はわらじを奉納し、今は今のかわいに変わった。 | 順調 |
| 345 | 15 | * | * | 夏越祭り | 赤生田町長良神社 | 7月30日 | 長良神社氏子 | 手の舞をやり、参拜者は輪をくくる。人形用に走る。サンベと呼ばれる暴闘団の人形を敷き場に立ててお祭りする。 | 順調 |
| 346 | 24 | * | 三野谷村 | 十九夜様の念仏 | 上三野町十九夜堂 | 毎月10日 | 十九夜講員 | 女郎として、安産・子育て祈願が多い。練日の時はお堂中にてより念仏をあげる。数日前からやならくなつた。 | 危機 |
| 347 | 12 | 板倉町 | 西谷田村 | 十九夜衣舞 | 鶴川 | 3月上旬 | 北尾コウチ内での女性 | コウチ内の輪で組いた娘たちの安産を祈って行われる。十九夜の宿禰舞を掛け、ロウソクと羅香を燃やすさず行う。 | 順調 |
| 348 | 22 | * | 大船野村 | どんど焼き | 全町内 | 1月15日 | 町内の行政区 | 正月通り、供え物などを地域の子供を中心に集め、燃やし、正月神を送り、無病息災を祈る。 | 順調 |
| 349 | 4 | * | * | 七夕の鷹と馬 | 全町内 | 8月7日 | 各家庭 | マコから七夕鷹と馬り、居す。七夕鷹、馬子供たちが花火を引いてから山へ流される。 | 危機 |
| 350 | 15 | * | 伊奈貞村 | 夏越(輪くぐり) | 板倉電雷神社 | 6月30日 | 電雷神社氏子 | 神社の一の鳥居に茅の輪を振り付け、人形用に走る。壁間に茅の輪を斜置用舟底に流し、その年の健闘を祈る。 | 順調 |
| 351 | 22 | 明和町 | 佐貫村 | どんど焼き | 矢島大鳥貢 | 1月の土・日 | 各行段区 | 正月通り等を焼き去病祝いを祈願。 | 順調 |
| 352 | 15 | 千代田町 | 永楽村 | 不動尊大祭(庖瘡神様) | 千代田町赤羽光恩寺 | 3月28日 | 不動講 | 庖瘡祭(祇園も包丁)の祭りから御本不動御馳明王の祭りとして凝縮される。延喜不動御明王闇闇、大般若あり。 | 盛ん |
| 353 | 28 | * | * | 八坂社大祭 | 千代田町赤羽 | 7月15日~近い日曜日 | 八幡神社氏子代 | 十の社が合祀して、延喜寺は八坂神社の祭り。かつては神例と山車が有る。 | 順調 |
| 354 | 17 | 東村(勝多郡) | 審村 | 十二種 | 草木本字八沢 | 1月12日 | ツゴ(五解) | オシギ・アキラミズ・十二種等の舞を作りこれらを奉納し、当番の家で飲食する。 | |
| 355 | 17 | * | * | 新御影 | 沢入字黒坂右 | 4月24・25日に近い土・日 | 6軒 | シメ講を張り、のぼり旗を立てて、お祭りの人に赤飯等を配る。 | |
| 356 | 17 | * | * | 山の神 | 沢入字鬼宿 | 5月第1日曜日 | 石材組合 | 東宮神社に供物を供え、神主に詠みお祓いをしてもらい、御神酒をいただく。参詣者にごくしもをくれる。 | |
| 357 | 15 | * | * | 桜岡の草鞋 | * | 6月15日頃 | 日枝神社氏子 | 各地区の役員の人が草鞋を作り、日枝神社のお札を付けて桜岡地区の入り口も+所につける。 | 順調 |

| 順位 | 年月日 | 祭事名 | 主催者 | 開催地 | 開催日 | 開催場所 | 開催内容 | 備考 |
|-----|-----------|------|---------------|-----------|----------------|---------------|--|----|
| 358 | 2 東村(伊多郡) | 東村 | 太郎神社祭 | 神ノ井 | 7月 | 太郎神社氏子 | 赤瓶を焼き、子供たちは御神体を担ぎ神戸地区を練り歩く。 | 順調 |
| 359 | 28 * | * | * 日枝神社夏祭り | * | 7月25日頃 | * | 各戸から男女2人ずつの当番が出て、赤瓶を焼き、神前に供物等をして拝む。 | 順調 |
| 360 | 8 * | * | 庚申祭 | 沢入字春嗣見 | 庚申の日(11月か12月) | フボ(四軒) | 当番の家に集まり、庚申稚の御神体をかけ、皆で拝んでから飲食する。 | |
| 361 | 8 * | * | 庚申祭 | 桜岡 | 毎年12月中 | | 5軒の家で開催。現在は各家大人一人ずつ参加。一年を無事過ぎたことを庚申様に感謝し、会食。 | 順調 |
| 362 | 15 黒保根村 | 黒保根村 | 桑ノ代十二山神社祭 | 八木原 | 4月12日 | 十二山神社氏子達 | 以前は講が組まれたが、現在はない。安斎音子育てを祈願する。 | 順調 |
| 363 | 17 * | * | * 舞衣縁のおまつり | 栗門全戸 | 4月23日 | 栗門全戸 | 石山寺があつて、山頂に石祠があり、舞衣の他の人が奉飯を飲む。 | |
| 364 | 8 * | * | * 庚申講 | 高橋 | 旧暦10月16日 | 高橋祇 | 衆の間に庚申の御神体を掛け、だんごが16、ご飯、うどん、おかゆを供え、飲食した。 | 危機 |
| 365 | 22 * | * | * 諏訪神社の奉納子供相撲 | 城 | 8月上旬の日曜日 | 城子とも相撲保存会 | 以前は大人の草相撲として実施。現在は子供教育会が柱となり、子供相撲を行っている。 | 順調 |
| 366 | 30 * | * | * 宵神まつり | 八木原 | 秋の道普請の後 | 八木原地区 | 地区民はこぞって登山し、神事の後に宮の庭前で祝宴を張る。 | 順調 |
| 367 | 29 新里村 | 新里村 | 武井天然天神講 | 武井天然 | 1月5日 | 武井天然地区 | | |
| 368 | 8 * | * | * 庚申祭 | 各地 | 春を中心一部秋行う | | | |
| 369 | 8 * | * | * 赤城の山開き | 村内各地 | 5月8日 | 板橋・新川地区 | コミキ峰をえて大洞まで行った。 | |
| 370 | 28 * | * | * 新川宿天王様(祇園)祭 | 新川八坂神社 | 7月最後の日曜日 | 新川地区 | | |
| 371 | 28 * | * | * 武井赤城神社祇園 | 武井赤城神社 | 8月1日 | 小林・武井地区 | | |
| 372 | 8 * | * | * 梅薺節縁日 | 山上・西後園 | 11月12日 | | 日の神様 | |
| 373 | 11 鮎川村 | 鮎川村 | 掛御の行事 | 三夜沢赤城神社 | 1月14・15日 | 赤城神社氏子 | 日の中の劍の人り方を見て作物の収穫を占う。 | 順調 |
| 374 | 15 * | * | * 大祓い | 市之閑佐吉神社 | 6月30日、12月31日 | 市之閑佐吉神社氏子 | カヤで輪を作り、鳥居の下に吊るし、拜殿にお参りを3回繰り返す。(6／20のみ) | 順調 |
| 375 | 宮城村 | 宮城村 | 簡御の行事 | 三夜沢赤城神社 | 1月14日・15日 | 神主・氏子 | ゴンテギを縛って数を打ち込むもので、主に、兵子船立ちのいのもの、ヨシを開き中にいる米の茎でその年の遺作の出来を占う。 | |
| 376 | * | * | * 御神幸祭 | 三夜沢赤城神社 | 4・11月の最初の日の辰の日 | 神主・氏子 | 二宮赤城神社と三夜沢赤城神社の御舟を御輿が扛運するという行事。道中の辻ノ神社と宮城村船合御輿例で小休止する。 | |
| 377 | * | * | * 大祓い | 市之閑佐吉神社 | 6月30日・12月31日 | 氏子 | 紙飴で形をくり、体の悪い部分をささってへ流すと体が良くなるといふ。 | |
| 378 | 28 大胡町 | 大胡村 | 八坂神社例大祭 | 大胡八坂神社 | 7月最終土・日 | 大胡町青年会 | 神樂を出し、町内を練り歩く「天王様」と獅子を担ぎ、練り歩く「あばれ獅子」の2行事がある。 | 盛ん |
| 379 | 22 富士見村 | 富士見村 | どんどん焼き | 鶴谷 | 1月14・15日 | 子供会等 | だらま・正月の低俗等を嫌く。 | 盛ん |
| 380 | 8 * | * | * 山開き例大祭 | 大胡赤城神社 | 5月8日 | | 赤城山の山開きの行事。 | 順調 |
| 381 | 28 * | * | * 八坂神社のまつり | 穂積八坂神社 | 7月15日 | 八坂神社氏子 | 4台の山車が町内を練り歩く。 | 盛ん |
| 382 | 24 * | * | * 土用念仏 | 高松 | 7月20日 | 高松区 | 高松は12段の輪の輪に、玉が2cm直径のものでできており、長老が解・太鼓を鳴らし、村中の子供が詠歌を遊ぶ。 | 順調 |
| 383 | 22 北橘村 | 北橘村 | どんどん焼き | 八崎 | 1月14日 | 育成会 | 前日の夜にぬしくついた餅を長い竹串にさして焼き、無病無災を願って述べる。 | 順調 |
| 384 | 24 * | * | * 念仏講 | 八崎 | 春彼岸の中日 | 八崎1区長寿会 | 十三仏の御神体前面で太鼓と錆をたなきながら念仏を唱え、鼓踏まわしをする。 | 順調 |
| 385 | 15 * | * | * 八丁じめ・人形流し | 下箱田本曾三社神社 | 7月25日、12月25日 | 各区区長 | 各区の区長が三社神社で大祓をし、村の出入り口の三本辻に八丁じめを立てる。人形を下箱田区長が利根川に流す。 | 順調 |
| 386 | 8 赤城村 | 赤城村 | 三原田西の堂縁日 | 三原田 | 1月10日 | 長岡一族(20軒) | 通称「長岡の音様」と呼ばれ、長岡一族(20軒)により祀られている。 | 順調 |
| 387 | 8 * | * | * 三峰講 | 津久田 | 1月17日 | 講目 | 講の代表者は2ヶ所が、海塙氏の三神社に奉仕する。代表が宿泊すると講目はその年の安全を祈願する。 | 順調 |
| 388 | 8 * | * | * 八ツ鉾音祭り | 博 | 春彼岸の中日 | 角田・石田の両族(11軒) | 八ツ鉾音祭は博の両族・石田の両族11軒で毎年開催している。祭札は二人一組の当番が一年交替で当たる。 | 順調 |
| 389 | 8 * | * | * 古峯原講 | 津久田 | 5月8日 | 講目 | 講の代表者は野村の古峯原神社に奉仕し、お酒を貰う。代表が宿泊すると講目は当番の年に集めてその年の安全祈願をする。 | 順調 |
| 390 | 28 * | * | * 枝垂祭り | 散島 | 7月25日 | | 明治22年鳥居が発見したのから記念として山車を作り枝垂祭りで安産地を行っている。 | 盛ん |
| 391 | 28 * | * | * 枝垂祭 | 深澤金山八幡宮 | 8月1日 | | 行政8組ごとに花まんどを作成し、八幡宮神社に引いて奉納し、祭典を行いう。 | 順調 |
| 392 | 22 * | * | * 地藏かつぎ | 上三原田日向 | 8月1日～8月12日 | 日向郷管理部 | 上三原田日向地域の中央に薬師堂があり、その中の地蔵尊を奉侍し、ナンマイダンボと唱えながら巡行する。 | 順調 |
| 393 | 28 * | * | * 桐原祭 | 満呂木 | 8月27日 | 区役員と若狭幹部 | 神樂を担ぎ練り歩く。昔は「あばれみこし」の勇名をとるほど多数の若者衆の熱気で包まれた。 | 順調 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|----------------|-----------|------------------|-----------|--|---|----|
| 394 | 8 | 赤城村 | 赤城村 | 三峰講 | 持柏木 | 10月第2日曜日 | 持柏本西郷三峰講 | 講の代表3名が境玉様の三峰神社に参拝し、お札を拝受し、お仮屋で供物を供え祈願する。 | 危機 | |
| 395 | 8 | 赤坂村 | 赤坂村 | 摩利支天尊 | 香林火雷神社境内 | 元旦 | 火雷神社氏子 | 願いが成就すると木札をお札に供えることになっている。 | 順調 | |
| 396 | 24 | * | * | 観音供養会 | 今井宝珠寺 | 3月18日 | 今井地区 | 二体あった觀音様のうち一体を完却した後、其変が起きたので、宝珠時に安置し、観音供養としてお経をあげる。 | 順調 | |
| 397 | 24 | * | * | お金仏 | 香林下 | 4月8日 | 香林地区 | お駕籠巡の誕生日を祝ひの祭典として吉備津寺の行事を行ひ、老人会は室内にて念仏を合唱する。 | 順調 | |
| 398 | 28 | * | * | 八坂神社祭典 | 幡下字宿 | 4月12日 | 八坂神社氏子 | 神主の神事終了後、近くの宿舎会議場にて懇親会、飲食する。 | 順調 | |
| 399 | 17 | * | * | 安藤山祭 | 今井南区 | 5月2日 | 農事組合 | 農村村であったため、行わせていないが、豪雨のなくなった現在でも引き継がれて家内・太速安全祈願を行う。 | 順調 | |
| 400 | 17 | * | * | 安達便り(六十八夜のお祭り) | 間野谷 | 5月八十八夜 | | 豪雨又は一本柳便り(柳)が祀られており、初夏の八十八夜に豪、五穀豊穣・室内安全祈願を行う。 | 順調 | |
| 401 | 28 | * | * | 天王様祭り | 下触八坂神社 | 7月16日 | 下触地区 | シメ縄を張り、供物を供え、飲食する。 | 順調 | |
| 402 | 28 | * | * | 天王様祭り | 五日牛 | 7月20日 | 五日牛地区 | 天明の鉛錆の時に疫病がやり、天王様を祀り。疫病が休息した。その後、現在まで、縄を立て、供物を供え祈願。 | 順調 | |
| 403 | 28 | * | * | 八坂神社祭 | 今井津今井神社 | 7月末の日曜 | 今井津地区 | 今井津神に合したてた阪東村の石舟島にて神縄を張り、御神物を立て、供物を供え祈願。 | 順調 | |
| 404 | 28 | * | * | 天王様 | 西久保 | 7月末の日曜 | 祭典委員会 | 明治初期から行われていたお祭りで神輿を出し神事を行った。現在はヤクヤドで廻り、家所で招ぐ。 | 順調 | |
| 405 | 15 | * | * | 七夕灯籠祭り | 西久保 | 盛前の土日 | 鶴金育成会 | 中央を走る大通りの両側に花燈を立て、神事の流れを守り、豪雨の流入を防ぎ、併せてこくなつた人波への供養を行う。 | 順調 | |
| 406 | 15 | * | * | 地主様祭り | 五日牛 | 8月23日 | 子宮地区保存会 | 明治初期にエヌギで配りだして地蔵が地蔵の時折新して地蔵があったので、以降、子宮地区として供物を供え祈願。 | 順調 | |
| 407 | 15 | * | * | 素戔媛 | 香林 | 10月22日 | 香林地区 | 中原地区に祠が以前よりあり、日の守神として信仰の対象となる。練日には燈籠を立て、飲食祝賀する。 | 順調 | |
| 408 | 8 | * | * | 秋葉垂現祭 | 今井・西原 | 12月16日 | 今井・西原地区 | 白光・朱光の神として次第の御神事により、室内安全五穀豊穣と祈願する。 | 順調 | |
| 409 | 8 | 塙町 | 糸女村 | 塙講 | 下瀬谷 | 2~3月講までの雨季の田の上の里 | 下瀬谷名瀬横町下町 | 元治光武(1865)から始まっていたと推測される。夕方、宿の宿の前に集まり地蔵様の掛軸を拝み、普作を祈念する。 | 順調 | |
| 410 | 8 | * | * | 塙町 | 境沙門様祭り | 平坂天人寺 | 4月8日 | 境沙門講 | 平坂・境沙門区と主体とした約250戸の講員と一般の信頼者により祭りが執り行われる。 | 順調 |
| 411 | 8 | * | * | 御子様祭り | 糸岡神社の御子堂 | 4月9日 | 隅谷一帯7町 | 隅谷家庭墓地内に隣接する御子堂で納められた御子堂を御子堂の組織で祀る。 | 順調 | |
| 412 | 15 | * | * | 人蔵と八丁注連 | 平坂赤城神社 | 6月30日、12月30日 | 赤城神社氏子 | 人蔵の神事後、村の大人は日に当たる主要道6丁目に八丁注連が立てられる。 | 順調 | |
| 413 | 28 | * | * | 境町の祇園祭 | 境 | 8月第1土・日 | 八坂神社氏子 | 境河北神社の境内にある石賓があるが、祭りは盛大に行われる。 | 順調 | |
| 414 | 8 | * | * | 境河北寄天財祭り | 境 | 8月21日に近い日曜 | 境河北寄天財奉賀会 | 境公園講の祠門に安置された寄天財天面を立て、本尊の開帳と供物が捧げられる。 | 順調 | |
| 415 | 19 | * | * | 川越鬼 | 境佐渡新田用水路 | 9月第1土曜 | ヤングアズラン会 | 大正12年の開拓大震災や殉難者供養から開始した手作で、前進流しを行い、お経の誦唱が囁かれる。 | 順調 | |
| 416 | 15 | * | * | 幽志村 | 小林木の石移修祭り | 小此木 | 7月28日 | 小此木地区 | 石移修をする石移修・安産キ(1000疋立)にシテ繩張り、御子を御神代とする。 | 順調 |
| 417 | 8 | 伊勢崎市 | 伊勢崎町 | 御子様 | 草薙寺町 | 4月2日 | 草薙寺町民 | 御子祭は穂を立て、灯籠も50ほどはある。祭典では昔は穂ををおの境の境内でやった。 | 順調 | |
| 418 | 8 | * | * | 寿利天王様 | 寿利町天官宮前 | 4月3日・10月17日 | 寿利町区 | 役員、祇代表・子供達が盛り上がり、一同で御神事。お神夜・お祭子が祝われる。 | 順調 | |
| 419 | 8 | * | * | 節分会 | 大手町 | 節分の日 | 大手町二丁目 | 区民挙げて、祭は抽選会・子供用グッズや景品配り等を行い、夜は宴会(部分会)を催します。 | 順調 | |
| 420 | 8 | * | * | 庚申講 | 大手町 | 毎年最後の中の日 | 大手町三丁目庚申講 | 年間大際の庚申修祓にくるの方々と町内で信仰している方々とで、毎年最後の中の日には庚申羽笛を一夜にして過ごす。 | 順調 | |
| 421 | 4 | * | * | 茂尻村 | 茂尻の灯篭流し | 美濃茂尻水神宮 | 7月31日夜 | 美濃茂尻祭典委員会 | 6月既定・周辺の川を点滅させるので、毎年まよはる老若の笠をつめて広瀬川に浮かべる灯篭流しを行う。現在は花火打ち上げも行う。 | 順調 |
| 422 | 22 | * | * | 秋葉神社奉納子供相撲 | 茂呂山秋葉神社 | 11月23日 | 子供修祓会 | かつては、豪雨、後者が御神事の境内に上げた祭りであったが、最近は相撲を取る人が少くなり、子供修祓会を中心に行う。 | 順調 | |
| 423 | 22 | * | * | 植蓮村 | どんどん焼き | 東本町 | 1月中毎日曜日 | 東本町親和会 | 正月飾りを日々一箇所に集めて燃やす行事である。 | 盛ん |
| 424 | 8 | * | * | 三茅講 | 赤本町西・中・東組 | 4月中旬(日) | 東本町三茅講 | 西原・中原・東原の3グループの講が毎回に宮内に祀る神に参拝してお祓いを。活動している。 | 危機 | |
| 425 | 8 | * | * | 十日夜 | 植蓮全城 | 10月10日 | | わら焼祭で大蛇をたたながら大声で騒ぐ。 | 順調 | |
| 426 | 8 | * | * | 秋葉神のお祭り | 宮前町 | 11月23日 | | 秋葉神社は火代の神のあり、各地で相撲大会が行われている。 | 順調 | |
| 427 | 10 | * | * | 三郷村 | 玄蕃広場相撲大会 | 波志江町 | 3月15日 | 江戸期に岡上郡が坂戸郡に苦しむ若狭郡の朝倉を領主に直轄した結果、朝倉に易せられ。相撲打しきであった玄蕃の供養のために相撲が行われた。 | 危機 | |
| 428 | 15 | * | * | 神樂遷し | 波志江町 | 3月15日・8月22日 | 八坂区 | 管楽を奏り、太鼓を主に吹いて、続いて伴舞(獅子)が頭をくぐり、無病息災を願う。平成10年より復活。 | 順調 | |
| 429 | 28 | * | * | 波志江祇園祭り | 波志江町 | 10月17日 | | 毎年行う訳ではないが、最近では、平成2年、平成12年にそれぞれ行われた。 | 順調 | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|------|---------|--------------|----------|-----------------------------|---|--|----|
| 436 | 8 | 伊勢崎市 | 三郷町 | 福岡組の秋祭り | 鹿志江町福岡組 | 11月23日 | 福岡組 | 行政役員が心となり、石宮に謹説。飲食する。 | 盛ん |
| 431 | 8 | * | 宮郷町 | 社日講 | 宮郷町 | 辛 ^{2回} （3月・10月の土日） | 宮郷地区 | 当番の家に聚まり飲食。講演。 | 危機 |
| 432 | 8 | * | 名和村 | おくんち | 堀口町 | 10月19日 | 飯玉神社氏子 | 吉は花見をさした。苑内にノリギリ咲いた。堀口は、社地より昔な衣裳を着て町内を駆けまわる。御詠とついで「1年苦」にやっている。 | 順調 |
| 433 | 17 | * | * | 八十八夜 | 柴原町京成寺 | 5月2日又は3日 | 武氏 | 最初の祭りで寺内・茶の巻等を振舞。稽古合戦より院の幕までシメを張りそこに物をつけその壁についておくと良い運がとれる。 | 順調 |
| 434 | 4 | * | 本妙寺母子神祭 | 山主町 | 11月第4土・日 | 本妙寺檀家 | 山王作成の内門で万葉を作り、それをひいて八重子印傳神に奉納する。宿泊、雁巣行があり。鬼子母神移形。 | 危機 | |
| 435 | 15 | * | 豊受村 | お手長講 | 下道寺町 | 正月元旦朝 | 下道寺町区お手長講 | 講演が年次例大祭と天祖大神御神事に御殿してお酒を貰う受け、丸元の頃。講中の豪々に願い願い。通し、手をかけさせることで、大事を守ることをさがせる伝統が続いている。 | 順調 |
| 436 | 8 | * | * | 二十二歳待 | 馬場塚清水町 | 毎月28日 | 清水町区 | 縁日と並んで毎月28日21時になると回りの宿の、夜の出物を床の間に飾り説み、飲食する。 | 順調 |
| 437 | 22 | 玉村町 | 玉村町 | どんどん焼き | 南玉 | 1月15日に近い日曜 | 南玉子供会 | 竹と面で組み立てた道祖神や正月の飾り等を積む様である。 | 盛ん |
| 438 | 28 | * | * | 角渕の狛姫祭 | 角渕 | 7月14・15日に近い土・日曜 | 八坂神社 | 八坂神社は廻転と廻転の二ヶ所にあり、各郷が1台ずつ屋を所有する。屋台を引き廻す。 | 危機 |
| 439 | 15 | * | 上陽村 | 黒魔払い | 飯坂 | 7月30日 | 飯坂 | 飯坂神社の八坂神社の黒魔退治の祭り。供養を利用した獅子舞を作り、獅子が各家々を廻る。 | 順調 |
| 440 | 25 | 苗嶺市 | 上陽村 | 東善の持神祭り | 東善町内 | 1月15日・7月25日 | 保存会 | 面を張った舟供が境内安全・五穀豊饒・病除除遣を唱えながら回向。獅子を振った太鼓が組んで家庭訪問する。 | 順調 |
| 441 | 25 | * | * | 西善の持神祭り | 西善町内 | 1月最終日曜日 | 年番 | 全境内年始魔除遣をして廻る。 | 順調 |
| 442 | 15 | * | * | 中内町の人型祭り | 中内町内 | 7月23日 | 内小学生 | 小学生男子の神輿を繰り出し、全室内安全、無病虫災を祈願し、厄除祓を行なう。 | 順調 |
| 443 | 15 | * | * | 西善の天王祭 | 上野町明神様 | 7月24・25日 | 年番 | 厄除祓いの神輿を祀る。 | 順調 |
| 444 | 24 | * | * | 中内町の天道念仏 | 中内町公民館 | 農休みの中日 | 老人会 | 聞き入るに見るが、村の高齢者が精神疾患、室内・交通安全・五穀豊饒等を祈願する。 | 順調 |
| 445 | 8 | * | * | 東善のお不動様 | 東善町公民館 | 8月27・28日 | 保存会 | 2日間のうちにも公民館に安置しているお不動様までの巡遊に舟供が船を張り描かれた灯籠にローソクを出す。 | 順調 |
| 446 | 27 | 前橋市 | 前橋市 | おとり様 | 熊野神社 | 11月の西の酉 | 前橋市光輝会 | 熊野神社の参道や北町通の路面に菖蒲が立ち並び、頭をさげる他の菖蒲祭が開催される。 | 順調 |
| 447 | 3 | * | * | 上川湯村 後園町の梵天祭 | 後園町金玉神社 | 1月15日 | 祭り組人会 | 後園町神社の内参道で高い木に梵天像を掲げる。その掛けに先に御笛を吹け。それに専らのお札を付けたものである。 | 順調 |
| 448 | 28 | * | * | 後園町の天王様 | 後園町八坂神社 | 7月24・25日 | 八坂神社氏子 | 大正初期より八坂神社の余興として出来事。又はマンドウを出して夜祭りで催され、現在、氏子会による神輿神例で一斉する。 | 順調 |
| 449 | 22 | * | * | 龜里のどんどん焼き | 亀里町 | 1月15日 | 自治会青年部 | あらかじめ作っておいた小屋に、シメ縄垂れ、道端などを飾り、燃やす。 | 順調 |
| 450 | 25 | * | * | 下河内のお獅子様 | 下河内町八坂神社 | 3月15日 | 自治会 | 新田井直田の八坂神社に代参を送り、持神持廻し、お盆を配り御神体を先頭にして町内各戸にお問い合わせに行く。 | 順調 |
| 451 | 24 | * | * | 房丸町の火万遍 | 房丸町 | 7月20日 | 自治会 | 直径2m位の数段を使つて、念仏を唱えながら境内安全の御神とお供物を各戸へ配る。 | 順調 |
| 452 | 4 | * | * | 下河内の天道念仏 | 下河内町雷光寺 | 7月22日 | 自治会 | 7月上旬の3日めの日の朝から入りの日まで延べ天道をたむけて体に日光普照の御神に念仏を唱える。 | 順調 |
| 453 | 28 | * | * | 八坂神社例祭（天王祭） | 八坂神社 | 7月24・25日 | 八坂神社氏子 | 右宮シメ縄垂れ、長い竹竿の間に火盆を掲げ、棒の木に結びつける。参加者全員でお祓いをする。 | 順調 |
| 454 | 16 | * | * | さんげさんげ | 阿夫利神社 | 7月26日～8月17日 | 阿夫利神社氏子 | 26日の午後、用水路にシメ縄を張る。阿夫利神社と書いた灯籠も立て、用の御神酒を注ぐ。その後全員お祓いする。 | 順調 |
| 455 | 28 | * | * | 方丸町の天王祭（祇園祭） | 方丸町飯玉神社 | 7月25日 | 子供会 | 獅子頭を先に各家庭を巡回する。巫女主任に火大祝がある。巫女が進行ごとに獅子頭を押す。厄除祓を行なったといふ。 | 順調 |
| 456 | 8 | * | 桂萱村 | 下沖の秋葉講 | 下沖町 | 1月17日 | 秋葉講中 | 当番の家集合。秋葉神明神輿を床に説み、火盆。火に対する感謝と敬意の年を賣り、防火の意識を高める。 | 順調 |
| 457 | 8 | * | * | 江本の御姫女入講 | 江木町 | 3月8日 | 武氏 | 子供会主催で江木に自分の好きな名前を書き、灯籠に入れ露路にて廻る。 | 順調 |
| 458 | 22 | * | * | 三保町の火燈祭 | 三保町 | 7月第1日曜 | 子供育成会 | 第二次世界大戦で進退したが、昭和48年西園。1日中火盆踊りなどを廻る。 | 順調 |
| 459 | 15 | * | * | 鹿町の獅子舞 | 堤町熊野神社 | 7月20日 | 子供会 | 無病除災、室内安全を頼って町内各戸を獅子が廻る。 | 順調 |
| 460 | 22 | * | * | 幸坂町の葉栗燈行祭 | 幸坂町要御様 | 7月23日 | 要御様組人会 | 灯籠を点灯し、葉栗燈の参道及び付近の道路に飾る。灯籠は小中学生が懸垂し、実施。 | 順調 |
| 461 | 8 | * | * | 龜原の地蔵祭 | 龜原町758 | 7月27日 | 龜原町地区 | 子前で地蔵堂の地蔵堂として、土地の八代目御前集め、多力より本堂において酒漬を焼き、多くの人々が参拝。 | 順調 |
| 462 | 16 | * | * | 西片貝の大山講 | 西片町御町3丁目 | 7月27日 | 西片町市民有志 | 衆家の八人組御前。面写して木板を斬る会である。同じシメ縄を張り、木をかけ。お取りする。大山は信州の阿夫利神社である。 | 順調 |
| 463 | 25 | * | * | 疫病祓い・厄除祓い | 八坂神社 | 8月7日 | 八坂神社氏子 | 八坂神社を祀るに、町内所有者が若狭御子來を差し、疫病祓いに迎れる。 | 順調 |
| 464 | 8 | * | * | 龜原の巫跡祭 | 龜原町316-9 | 8月28日 | 龜原町地区 | 如意のお絆さんが来て、巫跡堂で説教する。目によいといわれている。 | 順調 |
| 465 | 15 | * | * | 下沖の道祖神祭り | 下沖町金井地区 | 8月1日 | 道祖神講中 | 石碑が上中に入り、一時中断したが、石碑が再見され引き渡し。夕御辰牌の前に恵み供物を挙げ、会食をする。 | 順調 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|------|------------------|--------------|-------------|-------------|---|---|--|
| 466 | 16 | 前橋市 | 桂音村 | 秋窓の石尊祭 | 萩原町 | 8月1日 | 西宮神上祖 | 江戸末期に起源。昭和40年頃までは赤城御剣山御堂を参拝。現在では登山はせず、当番が昼夜灯籠をあげる。 | | |
| 467 | 3 | * | * | 幸峰の報音堂灯籠祭り | 幸峰町報音堂 | 8月1日 | 報音堂説話人会 | 灯籠を点灯し、報音堂付近の道端路に約50個飾る。灯籠に中小学生の名を振り、大人の年番が西尊し、実施。 | | |
| 468 | 18 | * | * | 上津町のきのえね | 上津町大國主神社 | きのえねの日 | 大國主神社氏子 | 年度替のきのえねの日を御甲子として盛大に祝り、奉神祭で賀わう。 | | |
| 469 | 22 | * | 芳賀村 | 勝沢のめんどん焼き | 勝沢町 | 1月15日 | 東照会 | だるま・正月の松ぼし・おせ等を焼却する。 | | |
| 470 | 24 | * | * | 勝沢の百万遍 | 勝沢町公民館 | 7月25日 | 自治会 | 長寿会・武子会・自治会役員で無病息災願い念仏を唱える行事。 | | |
| 471 | 22 | * | * | 小坂子の地蔵尊祭 | 小坂子町地蔵尊会館 | 8月22・23日 | 祭実施委員会 | 享保21年に地蔵尊を作成以来、小坂子の宝物としてお祭りを続けていた。現在は子供歌舞、舞踊等が行われる。 | | |
| 472 | 22 | * | * | 五代町の福禄 | 五代町本福明神 | 旧暦10月14日 | 町区 | 斯内会堂が境内に位置。子供達の中心で金銭を投げ、それを子供達が拾う。昔はお面の団子を作り奉納。 | | |
| 473 | 11 | * | 元郷社村 | 郷社神社水神の式 | 元郷社町郷社神社 | 1月6日 | 郷社神社氏子 | 宮司が竹で作った「アマ」の矢を向かいで射る。的に対する運送により、隣面の多少を占う。 | | |
| 474 | 15 | * | * | 鳥羽の道祖神祭 | 鳥羽町東部公民館 | 1月13日 | 鳥羽町東部子供会自治会 | 町内の厄除け、安全を祈願して公園で行われている。 | | |
| 475 | 11 | * | * | 郷社神社鶴禰の神事 | 元郷社町郷社神社 | 1月15日 | 郷社神社氏子 | 年の事を入れた時に、茎で作った2cmの茎を2つの茎にしてよく煮て、中に入っている鶴の巣の夢砂で豊凶を占う。 | 市 | |
| 476 | 11 | * | * | 郷社神社瀧波の神事 | 元郷社町郷社神社 | 1月15日 | 郷社神社氏子 | 鶴禰神事の際に、21cmの木炭12本を火の中に入れ、煮立った湯が黒くなつた部分の多少により降雨を占う。 | 市 | |
| 477 | 15 | * | * | 大友町道祖神祭り(びとくじまき) | 大友町さくら会館 | 1月15日 | 大友町自治会 | 稻荷等を14時頃神舟が集め、小屋造りをする。稲網、小屋に炎し、ミカンと甘酒が衆に配られる。 | | |
| 478 | 8 | * | * | 郷社神社節分祭 | 元郷社町郷社神社 | 2月3日 | 郷社神社氏子 | 千百人もの参加申込があり、延長(延長)を行なう。 | | |
| 479 | 8 | * | * | 元郷社二区十二夜講 | 元郷社町宿主宅 | 2月22日 | 各女久講 | 女講中の人が境町内の宿宅へ集まり、二夜様の御番を掛け、供え物をし、会食、和諧の詠明を行なう。 | | |
| 480 | 24 | * | * | 下石倉の伝乞講 | 下石倉町二十二夜塔 | 3月18日・7月24日 | 下石倉町婦人会 | 文政7年に二十ニ夜塔(如意輪觀音普門)を建立し、昌黎今日まで、伝乞講として長く続いている。 | | |
| 481 | 8 | * | * | 大友町二十二夜講 | 大友町友公民館 | 3月22日 | 女人講 | 女性だけになり(女人講)や如意輪觀音に対する信仰で、現在は奥闇弘法誕生日にあります。其食し齋やかに過ごす。 | | |
| 482 | 8 | * | * | 鳥羽の二十二夜講 | 鳥羽町東部子供民館 | 4月3日 | 女人講 | 江戸時代初期から始まった講の一つで安産や女性の病気などの厄除けを願う女入講である。 | | |
| 483 | 22 | * | * | 要御灯籠祭 | 鳥羽町菅原神社 | 7月14日・8月9日 | 鳥羽町東部子供会自治会 | 日の出様で、子供が想い・思ひの時季の絵を書いて、灯籠にロープを付し、家の夜を楽しむ。 | | |
| 484 | 24 | * | * | 元郷社町窓小路辻笠神 | 元郷社町窓小路辻公民館 | 7月16日 | 窓小路町内会 | 日の出番を掛け、大祓で神作を立ち神を祀る。終了後、満御所の邊に郷社神社の厄除けのお札をたてる八丁じめを行なう。 | | |
| 485 | 24 | * | * | 阿弥陀寺町百万遍念仏 | 元郷社町阿弥陀寺町公会堂 | 7月16日 | 阿弥陀寺町内会 | 日の出番を掛け、大祓で神作を立神を祀る。終了後、満御所の邊に郷社神社の厄除けのお札をたてる八丁じめを行なう。 | | |
| 486 | 28 | * | * | 駿小路の天王様 | 元郷社町駿小路町公民館 | 7月21日 | 駿小路町内会 | 八坂神社の分社から天王様をお迎えて、供食し、宿台の飾り幕等の虫干しもさせて行なう。 | | |
| 487 | 15 | * | 郷社町 | 立石道祖神祭 | 町内空地 | 1月15日 | 子供会・育成会・講話会 | 午後3時半頃から子供達が頭を悪いながら町内を練り歩き、午後6時頃道祖神に点火する。 | | |
| 488 | 21 | * | * | 立石鳥居の祭り | 町内一円 | * | 子ども会・育成会 | 子供達が神の社の神札を受け各家を回し迷惑を加えないを願う。 | | |
| 489 | 15 | * | * | 山王の道祖神祭り | 町内空地 | * | 自治会・子供会 | 子供達が歌を歌いながら町内を練り歩き、道祖神に点火する。 | | |
| 490 | 21 | * | * | 山王の鳥居いなり祭り | 町内一円 | * | * | どんどん能を演じさせた後、小学生が振り出し。櫛の本の御宿家を得た子供達が歌を歌い、太鼓をならしながら行なう。 | | |
| 491 | 15 | * | * | 轟井の道祖神祭り | 郷社町道祖神場 | * | 自治会 | 正月の門松、神像を入したグルマ、正月のお札を当日焼く。 | | |
| 492 | 15 | * | * | 轟島の道祖神祭り | 郷社町石崎公園 | * | 自治会・青年会・子供会 | 15日早朝、太鼓に合わせて子供達が呼び声で町内を一廻り、どんどん焼きを行なう。 | | |
| 493 | 15 | * | * | 大庭の道祖神 | 町内空地 | * | 自治会 | 正月飾りを町内から集め、三角状に束ねて吊り廻す。 | | |
| 494 | 26 | * | * | 初午祭り(丁酉賀祭奇角) | 郷社町丁酉賀神社 | 2月節分以後の初午の日 | 丁酉賀神社氏子 | 庚午年に奇角御神事が天御用刑用開拓した点火を開り、火除躬射を勤めして以降、室内・交通安全、合合祈願を行う。 | | |
| 495 | 8 | * | * | 泥塑会(泥塑道場) | 郷社町粟島公民館 | 2月15日 | 老人クラブ会 | 江戸中期頃の泥塑の授業を振り、手作りの料理を以て供養。 | | |
| 496 | 8 | * | * | 善仏会(花まつり) | * | 4月8日 | * | 水盤は10cmほどのお耕海藻(瀬波生)を立て、小さな網杓で甘草を注ぎ灰撒し、手料理を供える。 | | |
| 497 | 24 | * | * | 大庭の百万遍 | 郷社町八坂神社 | 7月15日 | 子供会 | 古は善仏会で中央に神龕前に御札を立てて懸垂をした。現在は供養を中心とし太鼓で金札を吹き、御玉を撒く。 | | |
| 498 | 24 | * | * | 栗島の百万遍 | 郷社町栗島公民館 | 7月16日 | 生新学習連絡協議会 | 祇園中斷するも、昭和30年に復活。夏・大庭に合わせて盆化を明治で既路を避ける。無病息災・室内安全を祈願する。 | | |
| 499 | 8 | * | * | 光嚴寺の童御祭り | 郷社町光嚴寺 | 8月22日 | 町会 | 無数の病魔を治すという御祭りである。昔は目の病を治す神様として御祭りされてきた。 | | |
| 500 | 24 | * | * | 栗島の百万遍 | 郷社町栗島寺及び町内一円 | 8月22日 | 町会及び子供会 | 光嚴寺内で百万遍を誦ませて、子供神は明治で練り歩く。町内の厄払い、瓶を振る行事である。 | | |
| 501 | 8 | * | * | 出口子育て地蔵尊祭 | 郷社町御沢町 | 8月23日 | 青年会 | 慈母は地蔵坂の8月24日でその祭りの23日が盛大であり。古くは木だった。 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|---------------|--------------|---------------------|-------------|--|--|--|
| 502 | 2 | 南砺市 | 能村町 | 植野福神社渡御行 | 能村町福野福神社 | 毎年10月初旬 | 植野福神社子自治会 | 行列は道内・御持旗・旗陣彦太郎・神官等・太鼓の順で進む。その後に一般の氏子や子供陣が続く。 | | |
| 503 | 8 | * | * | 黒島の秋葉講 | 紀伊郡黒島公民館 | 10月17日 | 青年会 | 火伏せの神の御説を振り、町内を火災から守ってくれたことに感謝する。 | | |
| 504 | 22 | * | 東村 | 西郷田のどんど焼き | 西郷田町内兎庵庭 | 1月15日 | 自治会・子供育成会 | 約1週間前から、開催者と子供で小屋立てを行い、当日は町内一円で無病息災を祈願。 | | |
| 505 | 15 | * | * | 前郷田の道祖神祭 | 前郷田町福神社 | * | 自治会・親睦会・子供会 | 正月のしめ飾り・門松・お札等を燃やす。無病息災を祈願する。 | | |
| 506 | 22 | * | * | 田舎の道祖神(どんど焼き) | 川曲町公園・場 | * | 自治会 | お正月飾り等を焼き、お清めをする。 | | |
| 507 | 15 | * | * | 上新田の道祖神祭 | 上新田町農地 | * | 子供育成会 | 昭和20年頃まで続くが、中断。平成元年に復活し、現在200名あまりの参加となる。 | | |
| 508 | 15 | * | * | 小畠木の道祖神祭 | 小畠木町 | * | 祭典実行委員会 | 平成元年に20年ぶりに復活。その後、1月14日より15日に日程変更。 | | |
| 509 | 22 | * | * | 古市のだんんど焼き | 古市町公園 | * | 自治会 | 1週間前より竹や枝松で、高さ3mほどの円錐形の山を作り、当日松飾りやだるま等を加え。午前7時半に点火。 | | |
| 510 | 8 | * | * | 前郷田の二十二夜様 | 前郷田町一丁目公民館 | 2月22日 | 二十二夜様保存会 | 女人講として安産信仰で如意輪觀音像に供物をする。 | | |
| 511 | 8 | * | * | 江田の二十二夜様 | 江田町如意輪觀音石像前 | 2月22日 | 二十二夜様保存会 | 約250年前の如意輪觀音像が伝承されており、特に婦人の信仰が厚く、石像の前で和諧を奉祝する。 | | |
| 512 | 8 | * | * | 古市のだんんど焼き | 古市町公民館 | 3月13日 | 二十二夜講中 | 文政の頃から如意輪の神を祭る習性があった。毎日3月13日だが、現在2月8日、和諧を祝える。 | | |
| 513 | 24 | * | * | 古市の大天造立講 | * | 春秋彼岸の中日 | 天造立講中 | 男性のみの心配会で会員15名で構成。日の出からの入りまで金仏を唱和続ける。 | | |
| 514 | 15 | * | * | 小畠木の八丁じめ | 小畠木町内八ヶ堂 | 7月10日 | 自治会 | 寺で御持神を受けた百姓を、町場を廻して疫病神への防ぎとともに町内の平和祈願。平成元年に復活。 | | |
| 515 | 15 | * | * | 古市の大天造立 | 古市町外堀の辻々 | 7月13日 | 自治会 | 大悲寺の住職に相談してもらった「サンベロ」を30本ほど竹に付け、辻々の辻13ヶ所に立て、疫病の侵入を防ぐ。 | | |
| 516 | 12 | * | * | 子育て地蔵尊祭 | 小畠木町大悲寺 | 7月最終日曜 | 自治会・子供育成会 | 生まれた子供の健常・成長願い、既生・生母日を両手に記し、手紙、和紙を張り地蔵尊とともに境内巡回。平成元年、20年ぶりに復活。 | | |
| 517 | 27 | * | 南砺村 | 青柳大師緑日 | 青柳町青柳山電藏寺 | 1月3日 | 電藏寺家臣他 | 天明の年間に大晦日の折に多くの人々の参詣にあわられたとして、仏頂を製める。尼姑大師にお参りしてお札を求める。 | | |
| 518 | 22 | * | * | 川原町のどんど焼き | 川原町広場 | 1月15日 | 育成会 | お正月のお飾りやだるま等を各家から集めて飾り、残り火で餅やお正月の供物を焼いて食べ、健康を祈る。 | | |
| 519 | 22 | * | * | 上小出どんど焼き | 上小出町国体公園 | 1月15日 | 子供育成会・みこし会 | 一時中止となつたが、昭和57年より正月の縁起物や松など子供の厄払を兼ねて焼き、豚汁などを振る舞う。 | | |
| 520 | 22 | * | * | 青柳のどんど焼き | 青柳町白川河原 | 1月15日 | 青柳町自治会 | 古いだんな、お札頂く。 | | |
| 521 | 25 | * | * | 青柳子祭り | 上郷町新田地区 | 1月2日(1月2日(現在2月第二回)) | 自治会 | 150年前に、柳の枝っこ木等を材料として綴った白木の獅子頭を神體にあげたところ。炎の痛みがなおり。その後、この獅子頭に威力があるとして「黒魔除け」を行なう。 | | |
| 522 | 8 | * | * | 北代田の若宮八幡様 | 北代田町若宮八幡宮 | 3月15日・9月15日 | 西曲輪地区 | ムラの守護神、同張神、尾張神がウツギとして祀られるようになつたもので、施設の人が参詣にのぼりをえて、お供物をあげる。 | | |
| 523 | 8 | * | * | 北代田のアキヤ様 | 北代田町神社前 | 3月16・17日、9月16・17日 | 地区 | 正しきは秋豊穣、火伏せの神として祀られ、邑人達が安心となって各家からお密篭を積みお祭りに繰続している。 | | |
| 524 | 12 | * | * | 上郷井子育地蔵尊 | 上郷町新田地区 | 3月22日・8月22日 | 長寿会 | 厄除を致すお子育地蔵をして御供。年賀挨拶で餅を、赤い帽子を着たらぬ、星は綿糸を焚き、全戸にお札等を配付。 | | |
| 525 | 24 | * | * | 日輪寺祭り(チナミダギ祭) | 日輪寺町青柳神社・公民館 | 8月 1日 | 自治会 | 桶の棒を5cmに切り、直径のよう10㌢程いたものを輪にして頭に巻き明るながら顔面前や束を走り歩く。 | | |
| 526 | 28 | * | * | 青柳町祇園祭 | 青柳町一円 | 8月 7・8日 | 青柳町自治会 | 町内2ヶ所・西・西の裏に分かれ、そのそばに準拠した神輿を奉安して巡行。その後三台の山車が合流の内・内・内番行事を行なう。 | | |
| 527 | 8 | * | * | 北代田の吉田薬師 | 北代田町吉田薬師前 | 9月 8日 | 沼地区 | 高さ約2mで長い帽子に赤いお掛け。胸の前に両手で薬瓶を貯める。地区の人達はごちそうを作り、お祭りをする。 | | |
| 528 | 29 | * | 清里村 | 青梨子の天神持 | 青梨子町 | 2月24日 | 子供会 | 集会所に集まり、音楽を奏でる後、食事をする。 | | |
| 529 | 8 | * | * | 上青梨子の庚申持 | 上青梨子町集会所 | 3月第1日曜日 | 自治会 | 庚申塚を清掃し、奉事し、会食会を行う。 | | |
| 530 | 8 | * | * | 北内出町の庚申祭 | 北内出町内 | 3月から4月の申の日 | 地区 | 当番の人に集まり、餅飴を貰けて、祝い、酒食をともにする。 | | |
| 531 | 22 | * | * | 上青梨子町の百万遍 | 上青梨子町集会所 | 10月第1日曜日 | 自治会 | 御王玉を老人、子供で囲んで念仏を唱えて遊ぶ。 | | |
| 532 | 8 | * | 木瀬村 | 上大鳥町分会 | 上大鳥町百番鍾音堂 | 2月 3日 | 観音移設会 | 約50名ほどの参加で豆まき、お札の配付を行う。 | | |
| 533 | 22 | * | * | 東上野天神萬念祭 | 東上野町内各戸 | 4月15日に近い日曜日 | 東上野町自治会 | 「ナマ・ハイ・デーカンマー」と稱めた八日喰え。 | | |
| 534 | 28 | * | * | 駒形町の祇園 | 駒形町会議所・小学校 | 7月最終日曜日 | 駒形町自治会 | 祇園会の江戸祭りの「鬼門除け」であった源源一対の獅子頭を買い受け、祇園節の御神体として会議所に安置し、祭が行われる。 | | |
| 535 | 8 | * | * | 上大鳥町十日夜 | 上大鳥町百番鍾音堂 | 旧暦10月10日 | 観音移設会 | 祇園節の感謝祭で午前、午後3時間程かけて行なう。 | | |
| 536 | 15 | * | * | 野中町庚申講 | 野中町当番各戸 | 毎年12月申の日 | 庚申講 | 庚申を祭る講で江戸時代から伝統を継続している。 | | |
| 537 | 22 | * | * | 上增田の天糸念仏 | 上增田町大塚田公民館 | 3月18日 | 大塚田組 | 組住民を4等分为して1組が年1回行う。以前は日の出から日の入りまで組を叫いたが、今は10時から3時頃で終了。 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|-------|-------------|-------------|--------------------|-----------|--|----|--|--|
| 538 | 8 | 前橋市 | 寛永村 | 寛井三事講 | 寛井日待遅り番 | 4月19日 | 講中 | 三祭神社代参5名で、お札を授けてきて。日待ちの案で非飯で食食し、お札を分ける。 | | | |
| 539 | 15 | * | * | 寛井永神祭 | 寛井町桃木川 | 7月24日 | 寛井町自治会 | 組屋以上全員、川に入って、川上に向かって両手で水を跳ね上げ、唱えながら水運除けを祈願。 | | | |
| 540 | 15 | * | * | 二宮赤城神社夏越の祭り | 二宮町二宮赤城神社 | 7月31日 | 赤城神社氏子 | 午後2時過ぎ、神事後老若男女の入注が茅の輪をくぐり、無病息災を願う。 | | | |
| 541 | 8 | * | * | 二子山由来講 | 西大室町最善寺 | 随時 | 東・西大室個人 | 明治1年、前二子古墳より出土した御酒器が多賀殿是がされたことに因り、鬼子母神の様子や由来を抜粋して作成。昭和6年より復活。 | | | |
| 542 | 22 | 吉岡町 | 駒齋明治村 | どんど焼き | 各地区の田 | 1月14日 | 子供会 | 竹や松かぎ等で三角錐状に串み上げて焼く。 | | | |
| 543 | 8 | * | * | 古峯講 | 下野田地区古峯神社 | 5月連休頃 | 北部・中部の各講 | 恵比須御宿の古峯神社(火伏佐の神)を詣する人々が講を作り毎年代参人が参詣しお札を配る。 | | | |
| 544 | 26 | 椎葉村 | 相馬村 | 宿禰荷神社の獅子舞 | 広馬場宿禰荷神社 | 2月初午 | 宿禰荷神社氏子 | 現在は2月の初午のみ開催され、近郷在から参詣者が駆けわ。また獅子舞の奉納もある。 | | | |
| 545 | 22 | * | * | 下の南郷地蔵祭り | 広馬場下の南郷地区内 | 8月14・15日 | 観音会 | 觀音堂と地蔵堂の門を子供たちで運行し、和紙を燃える。「下の南郷地蔵」の印の人達が持物を配る。 | 村 | | |
| 546 | 19 | * | * | 広馬場13区の地蔵祭り | 広馬場13区内 | 8月15日 | 御詠会 | 食糸不押と御酒を撒いて子供の健やかに育つよう地蔵(御詠地蔵)を立てての内にはじまり、日暮の御詠地蔵ならびに御内を各神社する。 | 祭 | | |
| 547 | 15 | 渋川市 | 古巣村 | みそぎ流し | 平田利根川飯坂駿橋下 | 7月31日 | 地区 | 利根川の駿橋下で行われる。身の汚れを落し、水難除けとなる。茅の輪をくぐり、人形を流す。 | | | |
| 548 | 17 | 子持村 | 白郷井村 | 十二講 | 上白井 | 1月12日 | 講中 | 十二山神社(石祠の蔭で講)を拝み、当番宅にてまき散食。 | | | |
| 549 | 29 | * | * | 天神持ち | 上白井 | 1月24・25日 | 地区 | 小学生の3歳以上が参加する。オヤカチの家で御油餅などを煮てくれる。背字をし、そのまままで守る。 | | | |
| 550 | 8 | * | * | 山開き | 上白井駒山の頭上 | 5月8日 | 地区 | 駒山(865m)の開拓を前に山に土塁を築いた。4地域より氏子代表・御内人が持ておみくじお札を白石君に記る。 | | | |
| 551 | 28 | * | * | 祇園祭り | 上白井 | 7月下旬の日曜 | 育成会 | 子供のみこ祭りとして行われている。 | | | |
| 552 | 22 | * | * | 地蔵まわし(地蔵縁) | 中郷 | 8月1日~13日 | 育成会 | 御内の中郷、駒、地蔵まこし、鳴らしもの組で行列を組み「テンマイダー」などと叫んで各組を囲り、審査を決める。 | | | |
| 553 | 22 | * | 長尾村 | どんど焼き | 北牧河原 | 1月15日 | 育成会 | 門松やシメ縄籠等を焼く。 | | | |
| 554 | 26 | * | * | 稻荷祭り | 北牧西福崎地区 | 2月の初午 | 稻荷農場地区の氏子 | 幕末、島根県左近門の御座敷前を華岡化して氏子が祭典をするようになった。五穀豊穣を祈願する。 | | | |
| 555 | 8 | * | * | 弁天櫻祭典 | 鹽沢 | 4月14・15日・10月14・15日 | 鹽沢内自治会 | 本版で弁天櫻と、御内を祝え式典典。各家庭にお札と餅を配付する。 | | | |
| 556 | 22 | 小野上村 | 小野上村 | どんど焼き | 村上駒の内、田畠の空田 | 1月14~16日のいずれか1日 | 駒の内地区 | 子供達と餅を切り、松等を集め建て、古くなったダブルや折柄などと一緒に燃やす。 | 順調 | | |
| 557 | 29 | * | * | 天神持ち | 小野子駒久保地区 | 1月25日 | 駒久保地区 | 御内神社でうなぎ、握り寿司を行う程度で、現在は祭伴が少ない。 | | | |
| 558 | 26 | * | * | お橘荷さん | 小野子本の間地区 | 2月11日 | 金甲福荷神社氏子 | 木の間地区を中心とした祭典の場所で古くから朝半の日に春番供詠人が中心となって行われる。 | 順調 | | |
| 559 | 22 | * | * | 観音祭り | 村上中尾地区 | 3月後半平日 | 上・下中尾保存会 | 若者が中心となって、神曲を初いで上・下中尾地区を一軒一軒回り、地区内の人々の無病息災を祈願する。 | 順調 | | |
| 560 | 15 | * | * | 厄神祭 | 村上田島地区 | 3月27日 | 田島内地内氏子 | かまと・次の神として、厄神は「直六八の木本で、三生堂神社に納められている。供え物をして飲食する。 | 順調 | | |
| 561 | 8 | * | * | 金兆羅のお祭り | 村上中尾地区 | 4月第1日曜 | 中尾青年会 | 五穀豊饒・氏子懇親会を祈念し、獅子舞を奉納。梅引も出で盛大に行われる。 | 順調 | | |
| 562 | 23 | * | * | 浅間神社の祭典 | 村上浅間神社境内 | 4月13日 | 神子 | 神子囃子、巫女囃子として信頼される。かつては太鼓伴奏・獅子舞の奉納もあったが現在は無く、お札配付と祝いのみである。 | 順調 | | |
| 563 | 22 | * | * | 延命地尊祭り | 村上駒の内平地区 | 7月24日 | 平地区 | トランクの舞台で御内を祝す。御内は太鼓伴奏と獅子舞の奉納もあったが現在は無く、お札配付と祝いのみである。 | 順調 | | |
| 564 | 8 | * | * | 巻巻御神様 | 小野子昭和地区 | 7月末の日曜 | 昭和地区 | 地区全戸が御内にまつり、皆既経の終、全住を明るめ祝舞を贈る。お供物・お札を参詣者に配る。 | 順調 | | |
| 565 | 16 | * | * | 根利本明神日待 | 小野子西部地区 | 八十八夜・二百十日の前夜 | 西部地区 | 100年以上続いているもので、春は屋根が降りない様、秋は台風が来ない様御酒を供えして祥む。 | 順調 | | |
| 566 | 17 | * | * | 十二孫のお祭り | 村上・上野場地区 | 9月29日 | 上・中尾地区 | 地区的人が山腹に登り、御神酒・赤飯を供え祭りをする。山の中腹と山上に石宮がある。 | 順調 | | |
| 567 | 15 | 勝馬町 | 金古町 | 造祖神 | 金古足 | 1月14日(15日) | 子ども組・青年会 | 各大字界に3~4km、多いところで6本程の八丁目を行く。 | | | |
| 568 | 26 | * | * | 甲州桜荷 | 本光寺 | 2月初午 | 中・下宿地区 | 本光寺境内にあり、御内信宿の一つとして今まで主な宿泊しながら、現在は御内を行われる。 | | | |
| 569 | 26 | * | * | 桃山鶴舟 | 金古桃山鶴舟 | 初午(以前は八十八夜) | 下宿・上組講 | 御内(88)・商業の祭として信頼され、大勢の参詣者がいた。現在は御内を行われる。 | | | |
| 570 | 8 | * | * | 二十二夜講 | 金古上宿 | 4月8日・10月18日 | 女人講 | 如意輪院金剛の御神像を掛け、和調、食会。 | | | |
| 571 | 8 | * | * | 観音講 | 内金古觀音堂 | 4月8日 | 女人講 | 子有觀音。念仏を唱え、歌の数だけ甘茶をかける。 | | | |
| 572 | 8 | * | * | 妙義講 | 本ノ門妙義社 | 4月9日・9月9日 | 土組 | 火伏せの神として祀られる。灯籠をたてる。 | | | |
| 573 | 28 | * | * | 天王様 | 尼門八坂神社 | 4月15日・7月14日 | 八坂神社氏子 | オギヨン除け・ぬれ苦除けを行う。 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|---------------|-----------|-------------------------|------------|---|----|---|
| 574 | 8 | 群馬町 | 金古町 | 庚申講 | 金古 諏訪 | 4月庚申日 | 講中 | 五人組・七人組などを中心に行われている。宿は権藤町で、場所によっては「良いごろしん」など舟舟灯行事をする。 | | |
| 575 | 15 | * | * | 愛宕様 | 愛宕 | 7月24日 | 地区 | 雨乞い、火難・盜難を防ぐとして信仰される。 | | |
| 576 | 17 | * | * | 十二様 | 金古 | 10月12日 | 地区 | 内の十二山お宮にオノベロ・鹿・猪・魚(オコゼ)・煮干し・秋刀魚・酒 | | |
| 577 | 8 | * | * | 太子講 | 金古 諏訪神社前 | 毎月21日 (1月21日) | 範舟講 | 五穀講 (大工・左官・虎職・建具・呪) 拝輪を掛け、供物をし。会食を行う。 | | |
| 578 | 15 | * | 国府町 | 道祖神 | 国府内の各大字ごと | 1月14日 | 区民・道祖神子 | 小屋造り (7日) を行い、松振り等を燃やす。 | | |
| 579 | 8 | * | * | 福島様 | 後疋開 諏訪神社 | 1月2日・4月22日・7月22日・10月22日 | 地区 | 祭神は木之花代夜見命で、男祖を奉納、子供の生まれない人やしもの病の人等が頼りに来る。 | | |
| 580 | 8 | * | * | 武州御綱講 | 西国分 新田 | 3月～4月 | 講中 | 講員15～16人、代歩を行い、お太鼓の番輪を掛け。「オヒマナ」を行う。 | | |
| 581 | 8 | * | * | 庚申講 | 西国分 後疋開他 | 4月庚申日 | 庚申組 | シメ闇を現し、赤瓶・うどん等で会食する。 | | |
| 582 | 28 | * | * | 天王様 | 西国分 三ツ屋 | 7月15日 | 地区 | 赤瓶を上げ、参詣。 | | |
| 583 | 24 | * | * | 地蔵祭り | 西国分 地藏堂内 | 7月16日 | 地区 | 辰と太鼓に合わせて念仏を唱和し、人形舞を廻す。 | 順調 | |
| 584 | 8 | * | * | 菱師様 | 引間 後疋開 | 9月8日 | 男子組・若者組 | 染谷川をさみ、菱師様の取り合ひ。…一把羅香とロウソクをあげる。 | | |
| 585 | 8 | * | * | 二十二夜様 | 西国分 | 毎月22日 | 女人講 | 宿帳を開け、相談を明らかにする。 | | |
| 586 | 15 | * | 堤ヶ岡村 | 道祖神 | 堤ヶ岡各地区 | 1月14日 | 青年会地区 | 小屋作り及びドンドレを行なう。 | | |
| 587 | 8 | * | * | 二十二夜講 | 音谷静願寺 | 3月・10月22日 | 女人講 | 和諧を唱える。 | | |
| 588 | 15 | * | * | 庚申講 | 音谷寺懐高 | 春秋庚申日 | 地区 | ほた餅を貰え、会食。 | | |
| 589 | 15 | * | * | * | 音谷三ツ寺 | 4月の庚申日 | 全日本顕番制 | シメ闇を現し、アンコロ御を供え、五日餅を会食。 | | |
| 590 | 8 | * | * | 二十二夜様 | 櫻高公会堂 | 4月・10月22日 | 女人講 | 和諧を唱える。 | | |
| 591 | 8 | * | * | 虎茶師 | 音谷石碑古墳 | 9月8日 | 地区 | 顔面・腰・膝の病の平癡。 | | |
| 592 | 8 | * | * | 秋葉講 (火わたり) | 中里公会堂 | 4月17日 | 講中 | 行者が中心となる祭りで、折鉢の後、無病息災・五段巻紙を祈願し大わたりを行い、一般の人たちもわかる。 | | |
| 593 | 8 | * | 上郷村 | 道祖神 | 保渡田両光寺 | 9月8日 | 地区 | 保渡田が始め、道祖神の効験あり。「め」札配付。 | | |
| 594 | 22 | 箕輪町 | 箕輪村 | 道祖神祭り (どんど焼き) | 矢原原中 | 1月7日～15日 | 地区 | 各家庭の門口・正月飾り等を始め、道祖神小屋を造り、小屋に火をつける。 | 順調 | |
| 595 | 27 | * | * | 箕輪市 | 上芝 | 2月28日、12月28日 | 露天商 | 年に2度あり、露地商品を売る2月28日の露市、正月の飾り物を扱う春の市がある。 | 順調 | |
| 596 | 19 | * | * | 今宮戎尊廟 | 船木沢今宮地区 | 8月13～16日 | 地区 | 江戸時代中頃より開始した。子供の無病息災折鉢、神舞を中心とする祭りで、正月・夏・秋に合わせて和諧を唱ねながら繰り多く。 | 順調 | 町 |
| 597 | 22 | * | 車塚村 | 道祖神祭り (どんど焼き) | 白川 | 1月7日～12日 | 地区 | 各家の門口・正月飾り等を始め、道祖神小屋を造り、小屋に火をつける。 | 順調 | |
| 598 | 16 | * | * | 九頭龍侍 | 白川宿地区 | 4月第2日曜 | 宿地区 | 明治40年に引き続き白川の丸太舟以降開催。岩村町御神社・丸太籠置の舞陽神の舞陽でもいい。石宮に參りし、会食する。 | 順調 | |
| 599 | 22 | 久留馬町 | 久留馬村 | 道祖神祭 (どんど焼き) | 久留馬 | 1月15日前後の日曜 | 各地區 | 各地区で、竹骨とワラを組み合わせた円錐形の道祖神小屋を作り、正月の松飾りや往通闇などと一緒に燃やす。 | 順調 | |
| 600 | 8 | * | * | 百鬼申 | 久留馬 | 4月20日 | 本郷・新井下長谷地区 | 本郷・新井下長谷地区で、使用場所が数多めで建立されている正月参りに対する祭りで、城れの無い豆び無病息災を祈願。 | 順調 | |
| 601 | 19 | * | * | 地蔵盆 | 久留馬 | 8月14日 | 白岩新田地区 | 子供たちがあらかじめ準備しておいた神輿に地蔵像を乗せ、地区内を廻る。 | 順調 | |
| 602 | 22 | * | 室田村 | 道祖神祭 (どんど焼き) | 室田 | 1月15日前後の日曜 | 各地区 | 各地区で、竹骨とワラを組み合わせた円錐形の道祖神小屋を作り、正月の松飾りやシメ闇などと一緒に燃やす。 | 危機 | |
| 603 | 28 | * | * | 天王さま | 室田 | 7月21日 | 室田地区 | 掛とともに、子供たちは神輿を担いでねむだし、各戸をお祓いする。 | 順調 | |
| 604 | 22 | * | 里見村 | 道祖神祭 (どんど焼き) | 里見 | 1月15日前後の日曜 | 各地区 | 各地区で、竹骨とワラを組み合わせた円錐形の道祖神小屋を作り、正月の松飾りやシメ闇などと一緒に燃やす。 | 順調 | |
| 605 | 8 | * | * | 涅槃会 | 里見 | 2月15日 | 上大島地区 | 地区的神輿が、会場となる公民館に集まり、涅槃式を掛け、供物を供え、お絆を唱え、想話する。 | 順調 | |
| 606 | 29 | * | * | 天神講 | 里見 | 1月最終日曜 | 神山地区 | もとは子供たちが集まり、元満月にお囃子をして、飲食しながら、裏庭は育成会の役員と一磯に行う。 | 危機 | |
| 607 | 24 | 倉淵村 | 倉田村 | 念仏講 | 陣田 | 3月彼岸の中日 | 陣田地区 | 弘法に念仏を入れて、延と太鼓を叩き、仏を唱え、晝は回遊り晝す。 | 危機 | |
| 608 | 8 | * | * | 産泰講 | 三ノ倉井 | 3月内適宜 | 坂井地区 | 若い婦が身軽で出走し、産泰様に供物をし込んだ後、温泉や料理屋に行き会食。 | | |
| 609 | 24 | * | * | 百万遍 | 鋼取 | 8月1日 | 鋼取地区 | 綿吉堂に集まり、延・太鼓を叩きながら、佐佐木を持ち込む。 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|------|----------|-----------|-------------------|---------------|---|---|----|----|
| 610 | 29 | 倉瀬村 | 倉田村 | 天神講 | 各地区 | 12月25日 | 長井地区他 | 小学生から中学生が上体で実施し、天神様にのぼりを立て。お参りした後、宿で飲食し、一夜を過ごす。 | | | |
| 611 | 8 | * | 島瀬村 | 水田鏡音節日 | 水沼 | 1月16・17日、8月16・17日 | 避寒院 | 避寒院境内で1月には市物市、8月に夏の祭日が開かれる。現在も正月軒の露店が並ぶ。 | | 順調 | |
| 612 | 8 | * | * | 産泰講 | 中尾、他各地区 | 4月28・29日 | 各地区 | 産泰神社にお参りを。温泉・保養施設に会場を借り、懇親会を行ふ、祝賀して会食。 | | | |
| 613 | 29 | * | * | 天神講 | 外道、他各地区 | 12月25日 | 各地区 | 男女一起で、公会堂を会場として紙面に各人の願いを書き入れ、まとめて天神様の前に納め、合食、歓談。 | | | |
| 614 | 8 | * | * | 庚申講 | 岩永 | 冬季 | 各組 | 岩永には3組の申講があり、現在は会堂で3組とも懇親会を行け、会食をする。 | | | |
| 615 | 22 | 高崎市 | 片岡村 | 道祖神繞き | 寺尾町館 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とワラで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 616 | 8 | * | * | 庚申講 | * | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 617 | 22 | * | 六郷村 | 道祖神繞き | 下豊岡町十二社 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 618 | 8 | * | * | 庚申講 | 上小幡町 | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 619 | 28 | * | * | 天王様 | 上小幡町宇東原 | 7月15日 | 地区 | 天王様はお駆けの天神で、お問い合わせした後、天王様の前で飲食し、花火をする。 | | | |
| 620 | 24 | * | * | 百万遍 | 上小幡町 | 7月17日・22日・23日など | 各地区 | 子供達が大きな数珠を持って街中を一巡し、各家への瓶先や土間で明るながら回り、数珠をたたきける。 | | | |
| 621 | 22 | * | 川岡村 | 道祖神繞き | 八幡町 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 622 | 8 | * | * | 庚申講 | * | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 623 | 8 | * | * | 城峯様（三条講） | 藤坂町下藤坂花見堂 | 2月月初～4月8日・4月末～5月初 | 各地区 | 代表懿人や境の城壁へ行き、お札を受けて、お仮屋に納め、宿に囁き講員に配り、飲食する。 | | | |
| 624 | 24 | * | * | 百万遍 | 藤坂町道久保 | 7月17日・22日・23日など | 各地区 | 子供達が大きな数珠を持って村中を一巡し、各家への瓶先や土間で明るながら回り、数珠をたたきける。 | | | |
| 625 | 19 | * | * | 地藏祭り | 八幡町 | 8月下旬 | 各地区 | 子供の日は祭り、地藏尊の前に燈籠を立ちちょうらんを奉る。地藏をお祭りに来た人達物を売り、余金を子供達で分ける。 | | | |
| 626 | 8 | * | * | 二十二夜講 | * | 毎月21日・年2回・正月22日など | 各地区 | 安座・子育ての神として、女人講で祀る。掛軸を掛け、供物を供え、和謡を唱えて、会食する。 | | | |
| 627 | 22 | * | 豊岡村 | 道祖神繞き | 下豊岡町十二社 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 628 | 8 | * | * | 庚申講 | 上豊岡町 | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 629 | 19 | * | * | 地藏祭り | 上豊岡町・中豊岡町 | 8月下旬 | 各地区 | 子供の日は祭り、地藏尊の前に燈籠を立ちちょうらんを奉る。地藏をお祭りに来た人達物を売り、余金を子供達で分ける。 | | | |
| 630 | 8 | * | * | 二十二夜講 | 上豊岡町前村 | 毎月21日・年2回・正月22日など | 各地区 | 安座・子育ての神として、女人講で祀る。掛軸を掛け、供物を供え、和謡を唱えて、会食する。 | | | |
| 631 | 22 | * | 大畠村 | 道祖神繞き | 南大畠町・下大畠町 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 632 | 8 | * | * | 庚申講 | 南大畠町 | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 633 | 8 | * | * | 二十二夜講 | 上大畠町源ノ上 | 毎月21日・年2回・正月22日など | 各地区 | 安座・子育ての神として、女人講で祀る。掛軸を掛け、供物を供え、和謡を唱えて、会食する。 | | | |
| 634 | 8 | * | 八幡村 | 城峯様（三条講） | 山名町天永 | 2月月初～4月8日・4月末～5月初 | 各地区 | 代表懿人や境の城壁へ行き、お札を受けて、お仮屋に納め、宿に囁き講員に配り、飲食する。 | | | |
| 635 | 19 | * | * | 地藏祭り | 山名町守山ノ上 | 8月下旬 | 各地区 | 子供の日は祭り、地藏尊の前に燈籠を立ちちょうらんを奉る。地藏をお祭りに来た人達物を売り、余金を子供達で分ける。 | | | |
| 636 | 22 | * | 倉賀野町 | 道祖神繞き | 倉賀野町内全域 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 637 | 8 | * | * | 庚申講 | 下町 | 春・秋・12月の中の日・10月など | 各地区 | 背面金剛の掛軸を振り、前に菊まつ飲食・歓談する。 | | | |
| 638 | 17 | * | * | 太子瀧 | * | 宇下越 | 1月から2月の都合の良い日 | 高崎駿河組合 | 大人・子・ブリキ舟・石屋・丸屋が1月15日に死んでいたが、最近は年番の人の都合で日にちを決める。菅原寺よりお札を受け、挂軸を奉參する。 | | 順調 |
| 639 | 8 | * | 瀧川村 | 道祖神繞き | 八幡町瀧原町 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 640 | 22 | * | 京ヶ島村 | 道祖神繞き | 大沢町・萩原町 | 1月14日から15日 | 各地区 | 子供が主体となり、正月のお飾りを子供達が集め、竹とわらで作った道祖神小屋と一緒に燃やす。 | | | |
| 641 | 8 | * | * | 二十二夜講 | 西島町・西浦手町 | 毎月21日・年2回・正月22日など | 各地区 | 安座・子育ての神として、女人講で祀る。掛軸を掛け、供物を供え、和謡を唱えて、会食する。 | | | |
| 642 | 22 | 安中市 | 各町村 | どんどん焼き | 各地 | 1月15日 | 子ども育成会 | 丁目で竹籠を用いて道祖神小屋を作り、日々の間に燃やす。綱王やスルメを焼いて食べぐ。 | | | |
| 643 | 21 | * | 磯部村 | 島ぬい祭 | 下磯部湯場地区 | 1月14日 | 地区 | 中学3年生が腹になり、リヤナギに太鼓を固定し、太鼓を叩き鳴らしながら村中の道路を廻る。 | | | |
| 644 | 21 | * | 東礪野村 | 島ぬい祭 | 磐宮宇佐宮蛭垂神社 | 1月14日 | 東横野8区（宮本地区） | 道祖神の旗を待ち、太鼓を鳴らし、島ぬい歌を歌いながら、宮本の中を行進し、村境で、道祖神の旗を轟めて火をつける。 | | | |
| 645 | 22 | 富岡市 | 富岡町 | ドンド焼き | 富岡 | 1月14日 | 8区（公園組） | 道祖神を祀った後、当番が廢材などを焚き、近所の人々が来て、それぞれ正月飾りや綱王を引くまで焼く。 | | 順調 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|------|-------------|-------------|--------------|------------|---|----|------|
| 646 | 15 | 富岡市 | 黒岩村 | オカグラ | 黒田 | 1月15日 | 上黒川・下黒川地区 | 子供が、太鼓と扇子を持って各町をまわり、扇子が家の前にかざし、無病息災を祈る。 | | |
| 647 | 17 | * | * | 屏投げ | 黒田 | 2月8日ころ | 上黒川各地区 | 雨宮神社の西裏に山の神を祀る祠があり、この屋根の上にのぼって屏を投げることが行われる。 | | |
| 648 | 2 | * | 一ノ宮町 | 道祖神祭 | 一ノ宮 | 1月15日(属年) | 一ノ宮各組 | 花や人形を吊った籠の台が各組内を巡行し、貴賀神社に集合する。翌日は紙で作った花で飾り、各組で戻向をこした人形を付ける。 | | |
| 649 | 19 | * | * | 百八灯 | 神農原 | 8月16日 | 神農原百八燈保存会 | 上信越自動車道の御池道沿いに100つの灯を灯す。現在は火に石油を混じた布をそれで燃やしている。 | | |
| 650 | 19 | * | 高齋村 | 大鳥火祭り | 大鳥 | 8月16日 | 大鳥火祭り保存会 | 大鳥地区的各組帶から1名ずつ先取り、延年神社に火大文字をつく。文字はその年に因んだことから決める。 | | |
| 651 | 3 | * | 吉田村 | 石尊講 | 南蛇井 | 9月1日 | 小倉・福沢・千早地区 | 織姫山頂にビニンゲン奉參。ダムは3本立てである。参詣者は新しいオチ(木製刀)をそぞりに以て、初めてあるオチに懸けて神事や御神事、境内内装・五社連鏡を祝する。 | | |
| 652 | 15 | * | 丹生村 | 道祖祭り | 下丹生 | 7月20日 | 打越地区 | 竹におとと繩つけて、集落境にてる。疫病除けだという。お札は妙義神社から貰う。 | | |
| 653 | 22 | * | * | ナイダ | 下丹生 | 夏休み初日 | 下丹生東地区 | 小1から中2までの男子が、敷地と太鼓を持ち、地区内の各戸をまわり、夜病除けを祈る。 | | |
| 654 | 16 | * | * | 石尊講 | 上丹生 | 7月下旬 | 上丹生八幡 | 丹生町に陽りてポンチンと小さな棒にオシロをねんだものを立てて、「火大幡囃」といいながらオシロに水を撒ける。 | | |
| 655 | 19 | * | * | 百八灯 | 上丹生 | 8月16日 | 上丹生八幡 | 悪魔除け行事で、城山への登り、百八つの灯を灯し、平担舟にシナクを下げ、花火を打ち上げる。 | | |
| 656 | 4 | * | * | 灯篭祭り | 上丹生 | 8月27日 | 上丹生原貳 | 疫病除けのために、菅原當麻御前古伊、寺門不滿までの通夜に灯篭を立てる。灯籠には悪い悪いの船を描く。 | | |
| 657 | 8 | * | 福島町 | 庚申講 | 稻田様 | 4月第2日曜 | 各組・謹中单位 | 庚申様の場所を振り回し、シメ縄を振り、オチヤケをし、酒を供えて春物を祈願し、飲食をする。 | | |
| 658 | 24 | * | * | オカヨウジン | 田羅 | 7月下旬 | 田羅地区 | 7月に行われる川原祭の際に、竹におとを付けた集落内の辻々にてて。 | | |
| 659 | 2 | 甘室町 | 小幡町 | 小幡八幡宮大祭 | 小幡 | 4月10日(5年に1度) | 第1区 | 小幡八幡宮の例祭で横町・上町・中町・下町の各町で1合づけ保有し、飾り人形を揃え、屋台はやしがある。 | 順調 | |
| 660 | 19 | * | 新宿村 | 百八灯(ナンマイダ) | 白倉 | 8月15日 | 本村育成会(子供会) | 天王様の石像の頭のまわりや石垣の間に100体のローソクを立て、念仏を唱ながら歓聲を回して無病息災を願う。 | 危機 | |
| 661 | 8 | * | * | 庚申待ち | 天引 | 2月の当番の都合の良い日 | 25区7郷 | 午前10時に当番(郷長)の前に集まり、豊田の大神を御持け、札録し、飲食を終り、当番係長の引き継ぎが行われる。 | 順調 | |
| 662 | 15 | * | * | お天狗様の縁 | 白倉・造石 | 7月第4日曜日 | 白倉神社氏子 | 人形を投入する神事で名物を見る。その後、若者達の入浴時に1~2組の女性をたてて、本祭で神代名を書きした約10cmの丸太柱に紐ひき、迷惑の通り人目で行う神事から開始された。 | 順調 | |
| 663 | 17 | * | 秋葉村 | 太子講 | 秋畠 | 1月~3月の間の日曜日 | 地区範囲内合祭 | 建設・繁殖・電気・水道施設・大工・在来業者の参加者で、太子像の園地に供物を供え、飲食試験し、話を待ち帰る。 | 順調 | |
| 664 | 2 | 松井田町 | 松井田町 | 八坂社神例祭 | 仲町公会堂 | 1月第3日曜日 | 仲町氏子 | 神事をおこし、神楽愛護保存会の応援を得て、街中を練り歩く。 | | |
| 665 | 8 | * | * | 三峰講 | 南町公会堂 | 4月15日~11月15日 | 南町区民講中 | 三峰社まで火祭の御札を振り、御札を室内にかけて参拝する。 | | |
| 666 | 8 | * | * | 城跡講 | 新田公会堂 | 4月末~5月 | 新田講中 | 埼玉の城跡より火祭の御札を振り、御札を室内にかけて参拝する。 | | |
| 667 | 28 | * | * | 天王祭 | 中宿公民館 | 7月24日 | 中宿区民 | 疫病除けの神を石宮に祀る。太鼓を鳴らし、牛番事が寄合し、飲食をする。御札を各戸へ。 | | |
| 668 | 2 | * | * | 八幡宮例祭 | 八幡宮 | 10月15日 | 八幡宮氏子 | 獅子頭が新田に3。仲町に2より、例祭の際は先導を務める。山車が区間に4台あり、街中を練り歩く。 | 順調 | 町(始) |
| 669 | 8 | * | * | 犬金祭 | 森崎 | 10月か11月の後の日 | 区内女性 | 当番の家に朝6時12分位の時間の遅めの御札を振る。山車を引いて、いつぱい餅を食べて、夜中12時に三叉まで通る。 | 危機 | |
| 670 | 22 | * | 坂本町 | どんぐりやき | 北野牧字孤置 | 1月14日夜 | 地区 | 正月御祭りで鬼の巣をや。マルゲの代で買った太刀やスマダマを晒す。太刀は1本は道祖神に供え、1本は正月御祭りで鬼の巣をや。マルゲの代で買った太刀やスマダマを晒す。 | 危機 | |
| 671 | 15 | * | * | 道祖神の火事見舞 | * | 2月8日ころ | 孤置伝中 | 正月御祭りで鬼の巣をや。マルゲの代で買った太刀やスマダマを晒す。 | 危機 | |
| 672 | 17 | * | * | 山の神の祭り | * | 3月16日 | 山ノ神の祇講中 | 山の神の御祭りで山の神の御札を振る。山の神の正月御祭りをした後、会食、講談する。 | 危機 | |
| 673 | 16 | * | * | イナムラサン(石尊講) | * | 7月28日 | 石尊講中 | 豊州村の御祭りで山の神の御札を振る。その前に供物を捧げる。山の神の正月御祭りをした後、会食、講談する。 | 危機 | |
| 674 | 2 | * | * | 八幡宮秋祭り | 坂本 | 9月中旬の土・日 | 八幡宮例委員会 | 神面で御折神の後、山車が青年組やよりひかわ、上宿・中宿・下宿の順に宿内往還を練る。 | 順調 | |
| 675 | 2 | * | 細野村 | 天神講 | 上増田郷の谷地区 | 2月11日 | 猪の谷地区 | 猪宮三つの天神宮御祠にお供え、お参りをした後、年季の家で天神様の御札を振る。上宿・中宿・下宿の順に宿内往還を練る。 | 危機 | |
| 676 | 8 | * | * | 猿谷(おおくまんさん) | 穂谷(おおくま)大明神 | 3月15日 | 新井西見地区 | 女衆(おやじ)の祭りで、おくま(明神)にお供えし、安全と繁栄を願う。その後、会食、講談する。 | | |
| 677 | 8 | * | * | 御祖講 | 上増田郷の谷、木谷郷 | 3月17日・4月16日 | 地区 | 2地区別側に、高岡・谷山の御祖神社地区での祭典を祈願する。石祠を清め、飲食、講談する。 | | |
| 678 | 8 | * | * | 千ヶ瀬の祭り | 土塙 | 3月28日に近い日曜日 | 地区 | 貴婦人の準備のものと、不動明王はじめ多くの神仏、宮が清められ、当日は出店も出て瓶やかな祭りとなる。 | 危機 | |
| 679 | 8 | * | * | 庚申講 | 上増田郷の谷地区 | 4月10日 | 地区 | 新井大神宮の御札を振る。女衆が聚まり、子供の駄やかな成長を祈願し、飲食、講談する。 | | |
| 680 | 16 | * | * | 猪追講(石尊講) | 上増田八区・東 | 7月2日 | 各地区 | 「南ごい」行事。年季代表が河で身を清め、山の石宮にお供物等をしてお祭り。その後、会食、講談する。 | | |
| 681 | 8 | 松井田町 | 細野村 | 秋葉さん(あきやさん) | 新井西見地区 | 12月17日 | 地区 | 秋葉神社にお参りし、供物を供え、安全を祈願。後、当季の家に聚まり飲食、講談する。 | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|------|-------|--------------|--------------|--------------------|------------|--|------|
| 682 | 22 | * | 九十九村 | どんどん焼き | 下増田・百国・日小向地区 | 1月15日 | 各地区子供育会 | 施設の小・中学生を集め、皆の固聞に衫の便りでビリトロのやぐらを組み、お札・モモなどとともに煮出し、マヨを和いて食べる | 盛ん |
| 683 | 22 | * | * | 天神講 | 下増田 | 1月末の日曜日 | 地区の小学生 | 子供達が中心に集まり、五目ご飯を作り、手のせ、神社のまわりを1周する間に食べ、お神酒をあげる。 | |
| 684 | 24 | * | * | 先祖怒り（念仏講） | 春波岸 | 春波岸 | 念仏伴闍（女性） | 地区的女性だけが長老を中心にして集まり、13仏の御輪を掛け念仏を唱えた後、盆参りし、その後全員で料理を食べる。 | 順調 |
| 685 | 29 | * | * | 天神まつり | 下増田 | 3月25日・4月26日・10月15日 | 氏子団体 | 氏子が中心となり、春秋2回まつりを行う。春には蚕糸用具を中心とした市がたつ。 | |
| 686 | 8 | * | * | 庚申待ち | 高梨 | 11月の申の日 | 講中 | 年齢の高い者に集まり、十三仏の御輪を掛け、供物を供え、会食する。 | 順調 |
| 687 | 22 | * | 白井村 | どんどん焼き | 横川・西尾 | 1月14日 | 子ども育成会 | 門松・古いお札を燃やして、おいい玉を焼いて食べ。 | |
| 688 | 8 | * | * | 六夜祭 | 横川字二階 | 3月26日 | 龍洞寺元檀家 | 明治4年、新羅の金剛寺に合併された龍洞寺の住徒が当時を偲び、年とは関係なく元檀家が集まって行う。 | 順調 |
| 689 | 8 | * | * | 三峰山の横川講 | 横川 | 4月15日 | 講員 | 三峰山の山本の山札は御代代主とするが、講員の家を順番に宿して家庭安全・健康長寿を祈願し、会食做す。 | 順調 |
| 690 | 19 | * | * | 矢の子の子育て地蔵まつり | 横川宮ノ前地区 | 8月23・24日 | 宮ノ前地区 | 古くから駄馬の厚い子育て地蔵で、明治43年の流出後、新しく建立しさらに昭和59年に裏替し地蔵を加え祀る。 | 順調 |
| 691 | 8 | * | * | 平の庚申講 | 五料字平 | 11・12月の庚申の日 | 講中 | 講員（8軒）の家を宿して順番に巡り、青面金剛像復活を掛け、供物を献じ、健康長寿を祈り、皆で会食做す。 | 順調 |
| 692 | 21 | * | 西横野村 | 鳥遊い | 上丸・諏訪谷・玉置・脇 | 1月14日 | 子ども育成会・子ども | リヤカーに太鼓を乗せ太鼓を叩きながら声をかけながら地区内を廻る。全様で4地区で鳥遊いを行っている。 | 順調 |
| 693 | 22 | * | * | どんどん焼き | 八城 | 1月15日 | 子ども育成会 | 竹・絲等を用いて内膳籠のやうを盛り、正月飾り等をやせらし、まゆを焼いて食べ。 | 危機 |
| 694 | 5 | * | * | 先祖怒り | 大王寺 | 2月21日に近い日曜日 | 頼藤一家 | 頼藤家の家（吉野町）で、一族による先祖まつりである。盆参を順番にまわし、御酒を2杯飲む。祈祷後、会食。 | 危機 |
| 695 | 8 | * | * | 庚申講 | 田代 | 11月の庚申の日 | 講中 | 田代町の「9軒」で行われる庚申講で、御輪を掛け、供物を供え、拌礼し、会食する。 | 順調 |
| 696 | 8 | 妙義町 | 妙義町 | 天神講 | 各地區 | 1月18日・24日、3月24日 | 講中 | 女性の講であり、年毎宿を決めて豪華に飾りやくんさんけを買って会食做す。 | |
| 697 | 15 | * | * | 行沢の北向き報告 | 行沢 | 1月18日 | 行沢地区 | 北向觀音堂にて厄除符を配付し、参道に懸を10枚立て、地区の各入り口に八丁ジメを作る。 | 順調 |
| 698 | 15 | * | * | 行沢の石導講 | 行沢 | 7月後半の日曜日 | 行沢地区 | 二つの石の道（頭道）で、大石を右券を左券。別に張ったオシメの紙が落ちるまで水をかけて祝う。ヒトコテで身を濡れて頭で通す。炎天下が最も暑い。 | 順調 |
| 699 | 2 | 下仁田町 | 下仁田町 | 諏訪神社例大祭 | 下仁田 | 10月中旬の土日 | 祭事委員会 | 神輿及び山車6台と忠魂の火消の退散式と火消の祝詞を宣す。 | 順調 |
| 700 | 5 | * | * | 鬼子母神祭り | 東野牧 | 11月中旬土日 | 鬼子母神社氏子 | 明治13年、山都原から鬼子母神の分靈として御御輿を受けて受けている。 | 順調 |
| 701 | 22 | 由牧村 | 村内各地区 | どんどん焼き | 鶴ヶ村・月形村・尾尻村 | 1月14日 | 各地區 | 正月に焼垣した海物などを焼き、その水でゆきを洗って食べ。1月の無病息災を祈願する。 | 順調 |
| 702 | 1 | * | 月形村 | 大日向のこぼし | 大字大日向 | 8月14日・15日 | 大日向町 | 盆の事として行われ、夕闇の御神事により火と水を出で山田畠から立ち去られた麦わらをうろひつ石山を下り、大日向町等に運ばれ来たるらに水を撒き、縁を立ててからもくらみを振り下す。 | 盛ん 始 |
| 703 | 4 | * | 尾尻村 | 御柱のお祭り | | 7年ごと4月（開創貞承10年） | 諏訪神社氏子 | 太木を七角に削り、その七に七色の色を塗り、性には内物をつけシメを巻き、四方に竹を立て。御神木として建てる。 | 順調 |
| 704 | 22 | 吉井町 | 各地 | どんどん焼き | 星尾 | 1月14日近辺の休日 | 育成会體 | 松・竹を三筋に立てかけたものを早朝露やす。 | 順調 |
| 705 | 28 | * | 吉井町 | 祇園祭り | 町内各所 | 7月31・22日の近くの土日 | 第1区・2区 | 山車・神輿が出る。 | 順調 |
| 706 | 15 | * | 多胡村 | みそが流し | 神保幸野神社 | 7月31日 | 辛科神社氏子 | 茅の輪ぐりを行なう。 | 順調 |
| 707 | 2 | 新町 | 新町 | ふるさと祭り | | 8月1日 | 地区 | 午前に中地区の各区を廻り、夕方から山岸などを行なう。各区により色々な山車の種類がある。 | 順調 |
| 708 | 15 | 鹿向町 | 鹿向町 | 人形流し | 諏訪 | 6月30日・12月31日 | 富士浅間神社氏子 | 大の人の形で身体を撫でて人形を集め大祓の式を行なう。北の川まで行き、群衆がなら人形を拝す。 | 順調 |
| 709 | 2 | * | * | 祇園祭り | * | 7月下旬 | 各町 | 吉田町舞台が引きされ、当季の町内を先頭にお囃子を演奏しながら引継ぎ、祇園の山車の舞台がサギリの演説を行う。 | 順調 |
| 710 | 8 | * | * | 道祖神祭り | * | 11月15日 | 各町 | 悪病除けの祭式で、道祖神牌の前に供物を供え。オミゴト（董子眉）を奉読人に配り、お札を各戸に配る。 | 順調 |
| 711 | 8 | * | 神流村 | 二夜移念仏 | 同之郷 | 2月22日 | 各地區組入会 | 二組（加賀船詠）の御輪を掛り、黒糸をしてくまくろコフツを御渡し奉書に付ける。御神門にヨロツカを使うと安寧である。 | 順調 |
| 712 | 22 | * | 小野村 | 天王様 | 中上郷 | 7月24日 | 北・黒田郷西・前郷 | 2台の子供神を担ぎ、両郷が1年交代で担ぐ。神社を振りだしに氏子の家々を順に練り回る。 | 順調 |
| 713 | 8 | * | 美里町 | 百万遍念仏 | 上清合 | 1月16日・7月16日 | 長津地区 | 初午の神事はやはりうとう、神事の余波が轟に響き、御神事の音が轟に響くと合わせて、大轟をはじめながら轟、御神に沐りは無い。 | 順調 |
| 714 | 8 | * | 美里町 | お手長舞 | 奉釋原久保 | 2月5日午 | 地区 | 手長舞の神事はお手長の持て棒で、普段は手長舞の女衆が、二月既に集ま料理を作って振舞やに記る。 | 順調 |
| 715 | 11 | * | * | 神田園庭い獅子 | 神田浅間神社 | 日照りの後 | 神田獅子舞保存会 | 报名神事の神事は、同日お手長の持て棒で、普段は手長舞の女衆が、二月既に集ま振舞やに記る。 | 順調 |
| 716 | 1 | * | 平井村 | 北原の花火 | 白石字北原 | 8月5日 | 北原地区 | 村に悪いことが起こらないように、北原の領守神の十二天柱に花火を上げる。200本を競っている。 | 順調 |
| 717 | 8 | * | * | （鶴様）の夜祭り | 西平井・三船神社 | 11月14日 | 三船神社氏子 | 神社の秋季大祭、下の宮から上の宮へ渡御する。翌朝神事と神例に修して上の宮に渡御する。 | 順調 |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|---------|-----------|------------------|-----------|--|----|
| 718 | 11 | 鹿岡市 | 日野村 | 辛芋八幡のお的 | 上日野字田本 | 1月 3 日 | 辛芋八幡社氏子 | 正月七草に取り下し・矢取の子供を中心にしてお的を射て、今年の年ごとの天運を占う。 | 順調 |
| 719 | 4 | * | * | 大日稻進 | 下日野字伊沢大日山 | 7月の御番の日の前後の日曜日 | 伊沢地区 | 大日堂を守護として、百瓦を上げて祀る。ミツワモモで作った梵天の上の御神木といふ簡素を立てたものを大日堂の山の神の御神木とくつづけ。 | 順調 |
| 720 | 8 | * | * | ワカル姫媛 | 上日野字鹿島 | 2月～5月と9月～12月の1ヶ月 | 念仏講 | 御番の前の家の御番の良い日に。毎月「2～5月と9月～11月」1ヶ月、各組ごとに女衆が聚まって念仏を唱える。 | 順調 |
| 721 | 8 | * | * | 鬼子母神祭り | 下日野字太平 | 4月15日前後の日曜日 | 大字地区 | 御言堂にて御香をまつり、全松を立てて祭った後、飲食する。子供のない女性が祈願すると子に恵まれるといい。 | 順調 |
| 722 | 8 | * | * | 稻進 | 下日野字芝平 | 7月の第一日曜日 | 地区 | 企会にて「ハーツ」の形が出来て、アンブレラやうさぎを作り、企画懇親会に供物を持参、一塊で飲食する。 | 順調 |
| 723 | 2 | * | * | 鹿島神社例祭 | 上日野字鹿島 | 10月 10 日 | 鹿島郷 | 鹿島神社の例祭にて御台帳で、大人が引きります。 | 順調 |
| 724 | 8 | * | * | 大猿命祭 | * | 10月の初秋の日 | 鹿島郷 | 本郷の御前、鹿島では、猿の命を奉祝して手豆を喰らう。また妻との関係について伝説があり、後の日に妻豆をしないで夫の妻の命が祟る由にて呪えられる。 | 順調 |
| 725 | 2 | 鬼石町 | 鬼石町 | 鬼石祇園祭 | 鬼石 | 7月 14・15日以降の土日 | 各町 | 江戸後期から始めた祭りで、現在、全町5丁目の山車が無い、盛大に行われている。 | 盛ん |
| 726 | 30 | 中里村 | 中里村 | 中山寺社お下げ | 魚尾 | 4月 15 日に近い日曜日 | 中山寺社氏子 | 午前は御座上、最後は御座下され、直前に掛けて御通式(せきゆうしき)された神体へと進み、みそぎの神事が行われる。 | 順調 |
| 727 | 18 | 上野村 | 上野村 | 細船守り | 川柳 | 元旦 | 子供会 | 元旦の朝に二子道供(ご宝門の者)「おもむき」「火入」などの像を吊して手豆で午前中に済む。 | 順調 |
| 728 | 22 | * | * | どんどん焼き | 乙父 | 1月 15 日 | 乙父地区 | 5基ほどの「火刀」を作り燃やす。道祖神の御神体の「オモキマラ」を中央に立て、灰吹を吹き書き。また、タヌキの子を作った「ワサシ」を吊し、それをして吊り、主膳などと一緒に立てて御懇親会をする。 | 順調 |
| 729 | 4 | * | * | 薬師種 | 野栗茨喰奥郷 | 旧暦の 2 月 7 日 | 夷隅郷、所の沢地区 | 御の神として、夷隅宮に供物を供えて、お参りしてから宿になった方に寄り御馳走になる。 | 危機 |
| 730 | 8 | * | * | 七日の祭り | 乙父宇石神 | 9月 27 日前の土・日曜日 | 石神組合 | 石神の御御詠歌に供物を供え奉事した後、宿で飲食する。 | 盛ん |
| 731 | 22 | * | * | 十日夜 | 乙母 | 旧暦 10 月 10 日 | 子供会 | 曉に「タリタッポー」を口にした子供たちが各家屋を廻しながら大声で歓声をあげながら屋に土を撒いて回す。 | 順調 |
| 732 | 8 | * | * | ゼンジ様 | 野栗 | 12月～4月までの各月の12日 | 野栗 6 部 | 各月の12日に順番で宿になり、古崎郷の御御詠歌に供物を供え拝礼し、飲食被談する。 | 危機 |
| 733 | 29 | * | * | 天神様 | 穂原 | 4月 20 日以前の日 | 横坂村社氏子 | 神事、直會を行なう。芝居、芝翫などもあった。 | 順調 |
| 734 | 1 | * | * | 火あげ | 藤山 | 8月 14 日 | 池区 | 山の御靈廟に火をやり来るまでを歩いて参りをつくる。 | 順調 |

群馬県の祭り・行事

群馬県祭り・行事調査報告書

平成十三年三月発行

編集・発行 群馬県教育委員会